Cinema Entertainment Magazine GAKKEN MOOK

Cinema★Cinema

[シネマ☆シネマ21]
お正月ロードショースペシャル!

No.21



彼の心に宿るもの…
赤西 仁
『BANDAGE バンデイジ』

のだめと千秋のハーモニー♪
上野樹里×玉木宏
『のだめカンタービレ 最終楽章 前編』

Music with LOVE

★注目!インタビュー
阿部サダヲ『なくもんか』/森本慎太郎・浅野忠信『スノープリンス 禁じられた恋のメロディ』
黒木メイサ『アサルトガールズ』/山田孝之・山本裕典『大洗にも星はふるなり』
八嶋智人/石黒英雄/崎本大海/鈴井貴之×賀来賢人
弓削智久×金子ノブアキ/ウォンビン
生田斗真『シーサイドモーテル』/堤真一『孤高のメス』/伊藤英明・三浦翔平『海猿3(仮題)』

お正月映画complete
ロードショー作品
一挙紹介!


バンデイジ
BANDAGE
赤西 仁　北乃きい　高良健吾　柴本 幸　笠原秀幸　金子ノブアキ
杏　伊藤 歩　・　斉藤由貴（特別出演）　長谷川初範　近藤芳正　財津和夫
プロデュース：小林武史・岩井俊二　監督・音楽：小林武史
原作：菅 知香「グッドドリームズ」　脚本：岩井俊二・菅 知香
主題歌：LANDS「BANDAGE」（ジェイ・ストーム）
製作：堀越 徹　阿佐美弘恭　小林武史　岩井俊二　藤島ジュリーK.　平井文宏　島谷能成　村上博保　エグゼクティブプロデューサー：奥田誠治　Co.エグゼクティブプロデューサー：小野利恵子　菅沼直樹
プロデューサー：伊藤卓哉　植野浩之　Co.プロデューサー：石原 真　陶山明美　アソシエイトプロデューサー：団野 健　高橋信一　撮影監督：尾道幸治　撮影：角田真一　照明：藤井貴浩　山田好浩　録音：加来昭彦　音響効果：柴崎憲治
美術スーパーバイザー：種田陽平　美術：愛甲悦子　助監督：芹澤康久　キャスティング：山口正志　安生泰子　ラインプロデューサー：金子哲男　企画：ロックウェルアイズ　制作：キイワークス　制作協力：バサラ・ピクチャーズ
製作：日本テレビ放送網　D.N.ドリームパートナーズ　OORONG-SHA　ロックウェルアイズ　ジェイ・ストーム　バップ　東宝　読売テレビ放送　配給：東宝　©2010「BANDAGE」製作委員会
http://bandage-movie.jp/
1.16 SAT.
ROADSHOW

Cinema★Cinema No. 21 CONTENTS



GAKKEN MOOK
シネマ・エンタテイメント・マガジン
Cinema★Cinema no.21

cover 赤西 仁
photo 小澤正朗
hair&make up 豊福浩一(メーキャップルーム
styling 野友健二
design 三ツ井正澄 ・

Music with LOVE♥夢を追いかけて…













Back Shot Story
インタビューの裏話を俳優さんたちのCOOLなバックショットとともに、ミニコラムでお届け！



彼の心に宿るもの

ナツとして生きた日々…

10年1月16日公開！

『BANDAGE バンデイジ』
赤西 仁

小林武史、岩井俊二という日本の音楽・映画界を代表する
2人のクリエーターが描く、90年代の若者たち。
小林が監督を務める本作で映画主演デビューを飾る
KAT-TUNの赤西仁が演じたのは、
ロックバンドLANDSのボーカル・ナツ。
俳優として、アーティストとして、
新たなジャンルに挑戦した彼の音楽、
そして作品への情熱とは…。

Photo by Seiro Ozawa　Text by Yumiko Yoshida
Hair & Make up by Koichi Toyofuku　Styling by Kenji Notomo
衣装協力／レザージャケット（シェラック／シェラック プレスルーム）
撮影協力／BACKGROUNDS FACTORY

Music with LOVE



Jin Akanishi













ナツの真っすぐな思いは自分と似ている

バンド、そしてロックへの挑戦は刺激的だった

この作品の舞台となっている90年代、僕は小学生だったんです。だから〝バンドブーム〟といわれても、正直、記憶もなければ知識もなかった。そのへんのお話や音楽的な時代背景は、監督である小林武史さんが事前に説明してくれました。何か、すごく大事なことをおっしゃってた気が…。確か、いろんなスタイルを取り入れた年代と言っていたのかな。劇中でもロックにレゲエやスカをミックスさせた楽曲などが出てきますが、そんなふうにジャンルにとらわれずに自由に表現し始めた時代だと、そんな話をしてくれたような…。すいません、撮影からもうすぐ1年がたつので、思い出せないことも多いんですけど(苦笑)。そんな僕でも、仕上がった作品、正確にはまだ音の入っていない、つながっただけの状態だったんですが、それを見終わったとき、素直に「面白かったな」と思える作品に仕上がってましたね。青春っていいなと感じられる物語だな、と。〝こいつバカだなぁ〟っていうのが、台本を読んだときに感じた、僕が演じる高杉ナツの第一印象でした。〝ここが〟というような細かい部分ではなくて…、自分をうまく出せなかったり音楽に対して中途半端だったり、全体的に、大きく見てバカなんですよ(笑)。基本的に僕とは全然違う。まず、ナツの乗っている車にオレは絶対乗らねぇなって(笑)。「SEXはロックだ！」っていうセリフとかも、正直、意味分かんなかったですから(笑)。僕はあんなに不器用じゃないし、葛藤もしない。もっとサッパリしてますよ。普段から〝みんなが思う赤西仁って、実際の俺とは随分違うな〟って感じてはいるんですけど、実際の僕はもっと普通。友達とカラオケに行ったり映画を見に行ったり、至って普通です。友達に無理やり自分の曲を歌わされることだってあるしね(笑)。演じたのが僕なだけであって、ナツという人間はあくまでもナツであり、自分と重ね合わせるということはなかったです。

ただ、ナツの好きなことに対する真っすぐな思いだけは、唯一自分と似ているというか、共感できた部分ではあるかな。例えば、周りから求められるものと、自分のやりたいことの違いっていうのは、作り手としては必ずあると思うんです。もっと突き詰めれば、バンドであればメンバーの数だけやりたいことがあるだろうし、ビジネスとしての方向性も絡んでくる。そのすべてを叶えるのはなかなか難しいことで、必ずしも自分のやりたいことが優先されるわけじゃない。たとえ自分のやりたいことが実現したとしても、結果が追いついてこない場合だってあるし。そういうジレンマは音楽に携わる人間だったら誰しも感じるものだと思うんですね。でもそれは真っすぐだからこそ生まれる感情なんだろうし、1つの作品を作るのにはいろんな壁があって、それを乗り越えなくちゃいけなくて…。うん。そういうLANDSの現実的な状況や葛藤は、何となく分かるような気がしましたね。






演じる上で心がけたのは、〝あんまり考えない〟ことです。今までドラマに出演したときも、あらかじめ役を作り込むというよりは、その場で感じたまま演じるというやり方をしてきたんですが、小林監督もそういうタイプの方だったみたいで。撮影も、もう絵コンテとかいらないんじゃないかっていうくらいその場でたくさん変更が出るし、その瞬間に生まれるものを大事にする人なんですよ。だから監督から演出の説明や演技のアドバイスを細かくされることも全くなくて、「このシーンはこう思うんだよね。じゃ、やってみて」って感じ。その説明で理解できないときは「こんな感じでいいんですか？」って僕のほうから質問をしたり、あるいは監督のほうから僕に質問がくることもあった。結構提案したりもしましたね。その都度コミュニケーションを取りながら撮り進めていって。僕としては監督のそういうやり方が自分にすごく合っていたので、やりやすかったです。

実は以前、バンドを組んでみようかなって思ったことがあったんです。でもやっぱ向いてないなってやめて、今は考えてはいないんですけど。だからこそ今回、この映画でLANDSというバンドに参加できたこと、そして〝ロック〟というジャンルに挑戦できたことはすごく刺激的でした。バンドって面白いなって思いましたよ。バンドってしっかりと役割分担がされていて、1人ひとりがそこに集中することで1つの塊ができている。KAT-TUNのようなグループとはまた違った楽しさがあるんだろうなって、撮影しながら思っていました。LANDSのメンバーとも何気ない話をしたり一緒に飯食ったり、楽しかったですね。劇中のように衝突したりすることもなく、普通に仲良くて。ドラムのリュージ役の金子(ノブアキ)君は技術的にも存在的にも頼れる存在だったし、笠原(秀幸)君はベースのケンジと同じようにムードメーカー。キーボードのアルミ役の柴本(幸)さんはちょっと変わったタイプだったかなぁ。劇中でナツはアルミに「殺すぞ！」と言われますけど、実際の柴本さんは女性らしい方でした。ギターのユキヤを演じた高良(健吾)はね…あいつ、幽霊みたいだったな(笑)。いや、カッコいいんですよ！　カッコいいんだけど、あいつも柴本さんと同じでちょっと変わったヤツでしたね。4人とはLANDSのようないい関係を築いて、いい環境で撮影させてもらいました。

ラブシーンは僕の思うまま、感じたままに

LANDSがバンドとしてメジャーへと上り詰めていくのと同時に、ライブに来たことがきっかけでLANDSとかかわることになる高校生・アサコ(北乃きい)とナツとの恋愛も物語の軸として描かれていきます。ナツとアサコがボロボロになりながら向き合うラブシーンは、大変でしたね。印象的

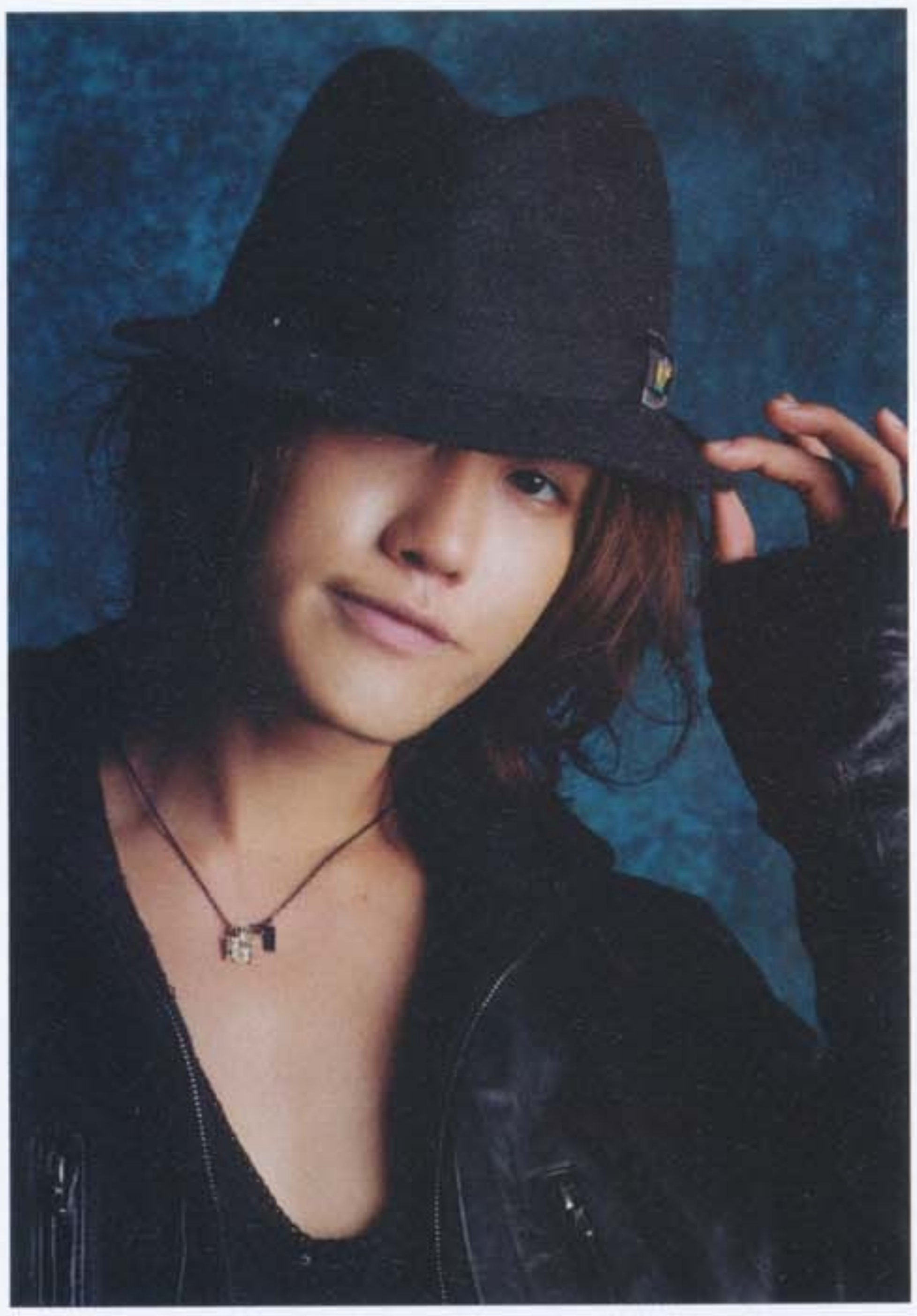

BANDAGE
バンデイジ
僕はあいまいな距離感の恋愛は無理です！

なシーンはたくさんあるんですが、大変だったという意味ではこのシーンが一番かもしれない。この場面は監督も物語において大事だと感じていたみたいで、「外に出て。3人だけにしてくれ」って、スタッフ全員をセットの外に出して、監督ときいちゃんと僕の3人で話し合ったんです。といっても、監督はシーンの内容くらいしか話さなくて、「とにかくここは2人にぐちゃぐちゃになってほしいんだ」と。演じる側としては監督のイメージしているものが可愛いものなのか、それともディープなものなのかを知りたいので聞いたんですけど、「いやもう、そういうことじゃなくて、ぐちゃぐちゃになってほしい」と、とにかくそれだけで、逃げようとするんです(笑)。きいちゃんに対しての気遣いもあったんだろうし、年齢や経験的なことも踏まえて僕にリードしてほしいということだったと思うんですが、卑怯だなぁ(笑)って。「じゃあもう、思うようにやりますよ」って言ったら、「そうしてくれ」とすべてを委ねてくれたので、そのときのナツの気持ちを僕の思うまま、感じるままに演じました。大変ではあったけど、撮影前に監督がつくってくれた3人での時間、空間は、このシーンのモチベーションや演技に響いた感じがしましたね。あの時間を持たなければ、感情的にも同じ芝居はできなかったかもしれない。3人になったときのあの雰囲気は大きかったです。

ナツとアサコって、くっついてるわけでもないし、離れてるわけでもない、恋愛のようなそうじゃないような、微妙な関係なんですよ。ナツはなぜ、ただの高校生であるアサコにひかれたのか…。オレはナツじゃないし、〝好きになったから〟という以外に人を好きになる理由なんてないと思うから分からないけど、インディーズでそれなりの人気を手にしているバンドのボーカルでしかもリーダーである自分に、アサコが簡単に寄りついてこなかったことに興味を持ったんじゃないかな。ナツもアサコも、始まりはどういう子なんだろう? っていう単純な興味で、そのうちにお互いに似たものを感じてひかれ合って、だからこそ反発し合って…。僕だったら2人のようなこんなあいまいな距離感の恋愛はナシです。無理っすね(笑)。ハッキリさせます!

見えないつながりで結ばれた人たちを大切にしたい

今回、LANDSのナツとして、主題歌「BANDAGE バンデイジ」をリリースさせてもらうことになりました。この曲は初めて聴いたときから小林武史さんらしさを感じてて。普段、カラオケで小林さんの(手がけた)曲を歌うこともあるんですが、「BANDAGE バンデイジ」は実際に歌ってみると難しいというか、歌い慣れてないなっていう感覚がありましたね。コンサートなどでいろんなジャンルを歌ってはいても、やっぱり難しい曲、苦手な曲っていうのはあるんですよ。今回、ロックだからといって意識的に歌い方に変化をつけたりということはせずに、すべてを監督の判断に任せました。自分にとって譲れないものや変われないもの、そういうものを貫く強さや弱さといったこの曲の世界観は、物語のラストにごく自然に、力強くつながっていくんじゃないかなと思います。



僕は歌うだけでなく自分で曲作りもするんですが、洋楽のHIP HOPが好きなので、自分で作る曲もそういったものが自然と多くなりますね。作ろうと思って作るときもあれば、作らなきゃならない状況になって作る場合もある。一日で出来る曲もあれば、何週間もかかる曲もあります。中でも「WONDER」(クリスタル・ケイとのコラボレーション曲)は、生みの苦しみを味わった一曲。本当に一から、裏のトラックから作ったので大変だったし、時間もかかった。でもこだわった分だけ、〝好き〟と思える曲に仕上がったんですよね。コンサートでも、6人のことにはあまり口を出さないほうだけど、ソロにはこだわります。今度曲を作るときは、トラックはロックでもいいかもしれないな。そう思えるってことは、この映画に出演したことが、僕の音楽性に何かしら影響を与えてるってことなんですかね。もしかしたら今後、新しいアイデアが浮かんでくるのかもしれない。今はまだ分からないけど。

本作で映画に初出演、初主演させていただきましたが、緊張することも気負うこともありませんでした。普通は緊張するものなのかな? 細かい決め事もなく、自由に伸び伸びと演じさせてもらったからかもしれないですね。芝居は好きですよ。演じる面白さは感じているし、違う人になれる楽しさがある。この作品からも、そういう好きなことに打ち込む楽しさを感じてもらえるんじゃないかな。強烈なメッセージを発信するというよりは、見た方が頭の中で作り上げる物語というか…。すごく難しいんですけど、ラストシーンなんかは特に、見た人の数だけとらえ方があるような仕上がりになっていると思うんですよ。僕ら作り手側の説明はいらないような気がします。あとは90年代にバンドをやっていた人や楽にのめり込んだことのある人、ロックが好きだった人は、必ず何か感じるものがあるはずです。監督もきっとそういう思いでこの映画を作ったと思うんですよね。あの時代の温度が伝わるような…。人と人、人と音楽、そういう言葉以外、言葉を超えたつながりの強さ。LANDSのメンバーなんて、音楽がなかったら出会うことも、ましてや絶対くっつくことなんてあり得なかっただろうし。この映画で描かれているような、そういう目に見えないつながりを、僕自身も大切にしていきたいと思うんです。

「泣ける映画は?」

何だろう…(しばらく考えて)ここはベタに『タイタニック』かな。あとは、アンジェリーナ・ジョリーが出演していた『17歳のカルテ』は泣けました。見たのは1、2年前。普段、泣いたりすることはほとんどないんですが、あの作品はジーンときましたね。

BANDAGE
バンデイジ

Jin Akanishi





5 Questions from BANDAGE

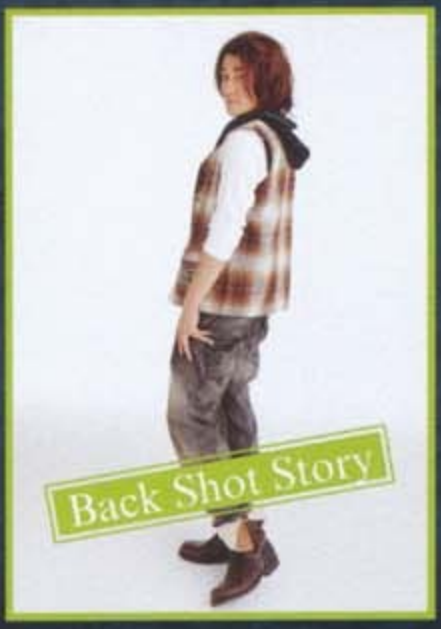
Q.バンドを組むとしたら担当したいパートは?
ボーカル。楽器はできないんで。やってみたいのはドラムです。

Q.ライブ中に目に留まるのはどんなオーディエンス?
う~ん…可愛い子(笑)。ステージからちゃんと見えてますよ。

Q.『BANDAGE　バンデイジ』を色に例えると?
黄色や黒。

Q.好きな音と嫌いな音は?
好きなのは映画の"THX"って言うんだっけ?
ウ――ンっていう音響の音。昔からあれが超好きなんです。
嫌いな音は、キーキー声。

Q.赤西さんにとって"音楽"とは?
必要なもの。



Back Shot Story

撮影した写真を見て「髪の毛長いな~」
とつぶやいていた赤西さん。
撮影と撮影の合間のわずかな時間でも
「インタビューやりましょう」と気遣ってくれる優しさ、
本作について飾らずに語ってくれる姿は、
KAT-TUNの赤西仁とはまた違った、
気取らない魅力にあふれていました。

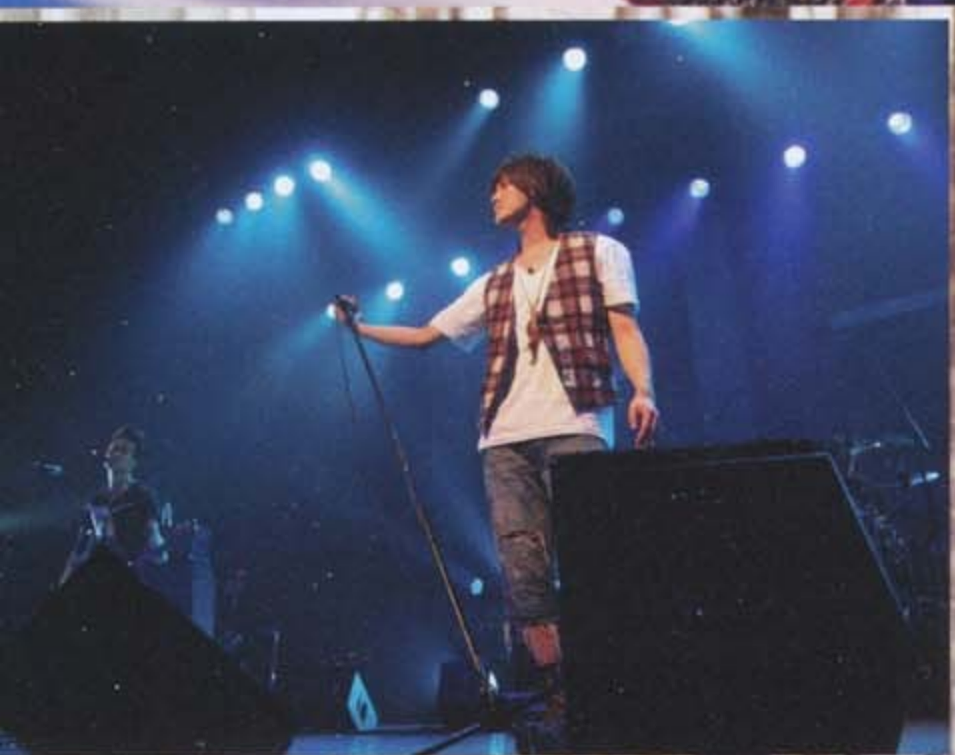




あかにし・じん　1984年7月4日生まれ。東京都出身。O型。
01年よりKAT-TUNのメンバーとして活動し、06年に「Real Face」でCDデビュー。ミリオンセラーを記録し、一躍トップアーティストの仲間入りを果たす。一方で「ごくせん」、「Anego」(05)など俳優としても活躍。07年のドラマ「有閑倶楽部」で初主演を務めたほか、『スピード・レーサー』(08)では声優に挑戦、活動の場を広げている。また、11月25日に小林武史との期間限定音楽プロジェクト「LANDS」としてシングル「BANDAGE」をリリースする。

BANDAGE
バンデイジ









岩井×小林×赤西のタッグで生まれた若者たちのリアル

Mr．Childrenをはじめ数々の人気アーティストを手がける音楽プロデューサー・小林武史と、『Love Letter』など独特な映像美で知られる日本映画界の鬼才・岩井俊二。96年に2人が手がけた『スワロウテイル』は、音楽と映像が織り成す独創的な世界観で90年代を代表する映画となった。そして06年、岩井は映画制作に関する音楽を小林に依頼。小林が書き上げた、同名タイトルの「BANDAGE」を聴いた岩井は、小林を監督にも指名。さらに2人は、主演俳優に偶然にも同じ人物の名前を上げた。内なる情熱と繊細さ…「主人公・ナツを表現できるのはKAT-TUNの赤西仁しかいない」。こうして、90年代の熱気と若者たちのリアルが息づく物語が完成。10年1月、ついに公開される。

90年代を舞台に、バンドブームの渦中で葛藤する若者たちの青春を描く



Check it 1

寄り添っては離れていく…
ナツとアサコのはがゆい恋

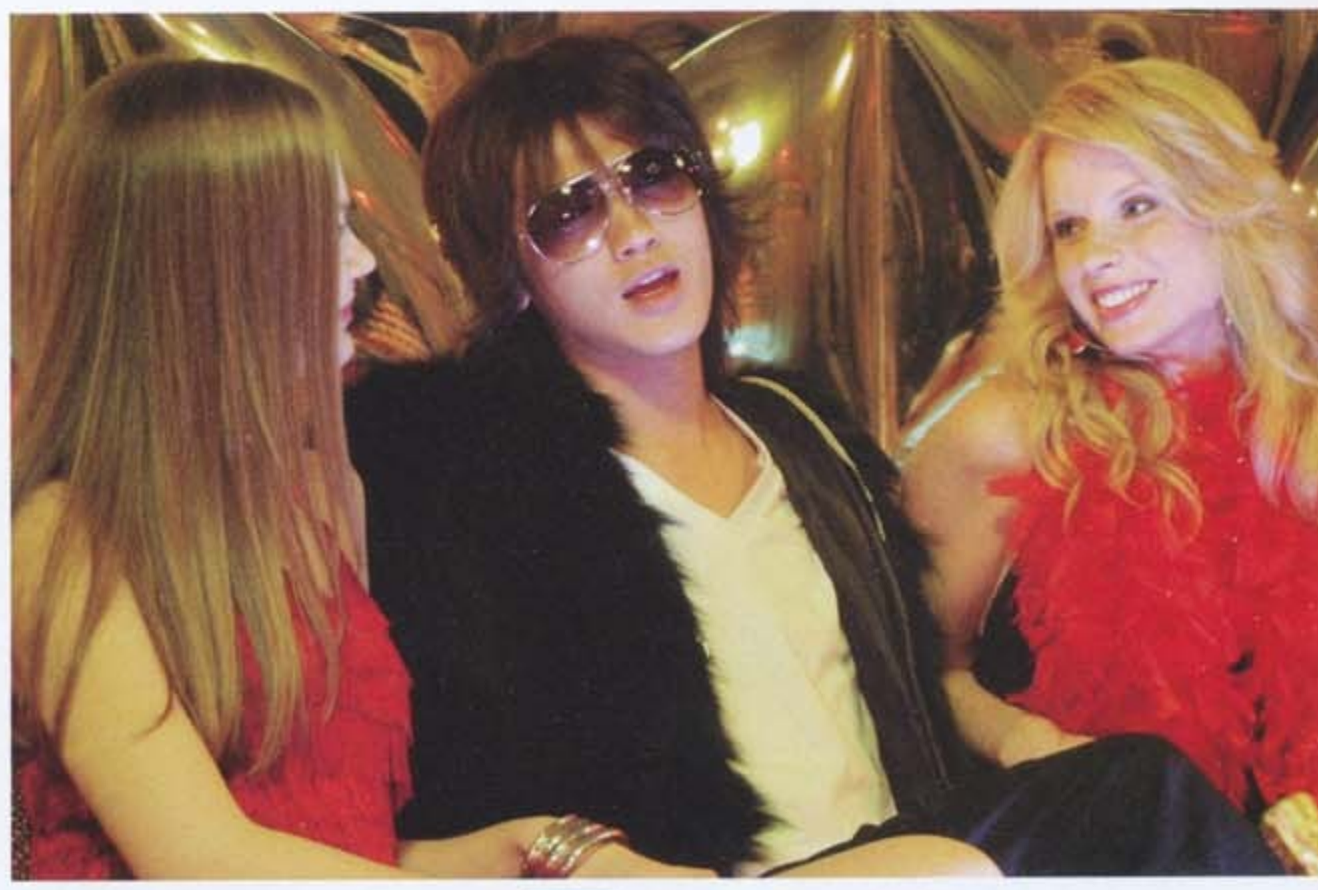
出会ったことで自分自身と向き合い始めるナツとアサコ。バンドマンと普通の女子高生という、一見ちぐはぐな2人をつなぐ、強くはかない糸。それは、相手の心の奥底に感じる"自分自身"。素直になれない弱さ、そしてそれを受け入れられない自分…同じものを持ち合わせているからこそひかれ合い、傷つけ合う。ラブラブでも、ドキドキでもない2人の苦しい恋は、物語を淡く彩っている。

Check it 2

時にはもろく、時には強引に…
気まぐれナツにキュン♥

強引に車へ乗せたかと思えば練習スタジオへと連れていってくれたり、2人だけの車内で新曲を聴かせてくれたり…。ぐいぐいと自分の世界へ引き込もうとする半面、傷つき弱った声で「そばにいてくれよ…」と後ろから抱き締めてきて…。ナツのアサコに対する強引な一面は、最高で最強の胸キュンポイント。アサコに成り切って見れば、あなたもきっと、恋に落ちてしまうはず…♥





Check it 3

ライブやCD制作etc.
業界の裏側をチラ見!

ライブ終了後、居酒屋で行われるはっちゃけた打ち上げの様子やスタジオでの練習風景、レコーディングの模様など、普段は見られないような音楽業界の裏側も魅力的に描かれている。自分たちの音楽を追求しようとする彼らと、彼らを取り巻く大人たちの求める音楽とのギャップ。それに葛藤するさまなどは切なくもリアルで、アーティストとしての喜びと苦悩がストレートに綴られている。

Characters



『BANDAGE』
バンデイジ

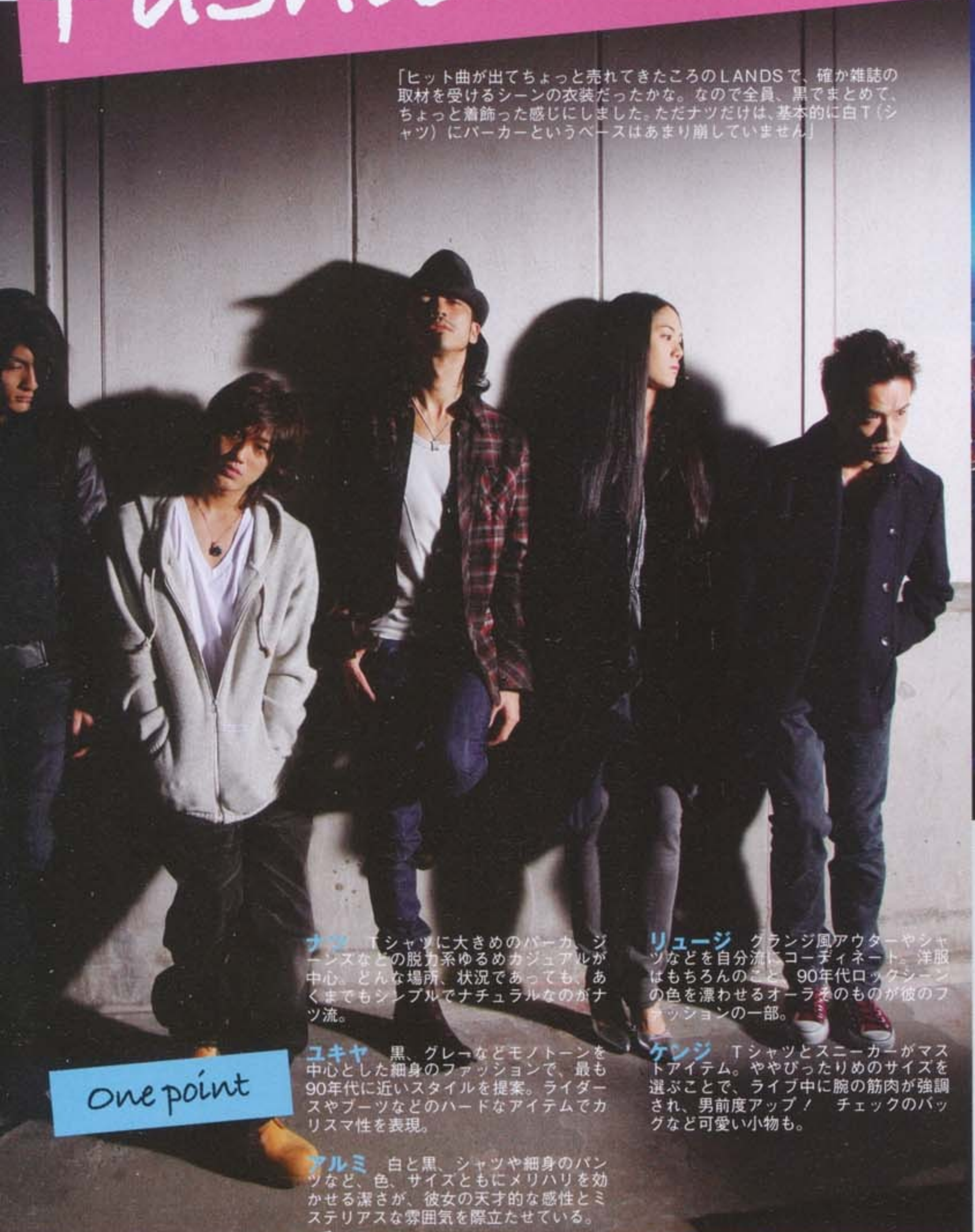
こだわり Fashion Check!

それぞれのキャラクターイメージに合わせた衣装や小物などのアイテム。ここでは本作のスタイリングを担当した上井大輔氏のコメントから、ファッションの視点でLANDSをひもといていく。

「ライブシーンの衣装はキャラクターを出しました。リュージ役の金子君は本物のミュージシャンなので、"こういうとき、オレだったらこれを着るな"とか話し合いながら決めて。赤西君はこのチェックのベストをすごく気に入っていて、某ファッションショーにゲスト出演したときも、この劇中衣装にハットをかぶって出演してもらいました」



「ヒット曲が出てちょっと売れてきたころのLANDSで、確か雑誌の取材を受けるシーンの衣装だったかな。なので全員、黒でまとめて、ちょっと着飾った感じにしました。ただナツだけは、基本的に白T(シャツ)にパーカーというベースはあまり崩していません」



One point

ナツ Tシャツに大きめのパーカ、ジーンズなどの脱力系ゆるめカジュアルが中心。どんな場所、状況であっても、あくまでもシンプルでナチュラルなのがナツ流。

ユキヤ 黒、グレーなどモノトーンを中心とした細身のファッションで、最も90年代に近いスタイルを提案。ライダースやブーツなどのハードなアイテムでカリスマ性を表現。

アルミ 白と黒、シャツや細身のパンツなど、色、サイズともにメリハリを効かせる潔さが、彼女の天才的な感性とミステリアスな雰囲気を際立たせている。

リュージ グランジ風アウターやシャツなどを自分流にコーディネート。洋服はもちろんのこと、90年代ロックシーンの色を漂わせるオーラそのものが彼のファッションの一部。

ケンジ Tシャツとスニーカーがマストアイテム。ややぴったりめのサイズを選ぶことで、ライブ中に腕の筋肉が強調され、男前度アップ! チェックのバッグなど可愛い小物も。

90年代と現代のファッションをミックスさせて LANDSの世界観を表現 ──上井大輔(スタイリスト)

難しかったのは"90年代"という時代感。正直、当時のファッションを今の若い人が見ても、オシャレな感じがしないと僕は思うんですよ。ただ、最初は全体的に細めで、時代背景ガッツリの衣装をそろえましたが、実際赤西君にフィッティングしてもらったとき、監督含めいまいちピン! とこなかったんで…。最終的に今っぽさを取り入れて、90年代ファッションの現代版というようなイメージを作り上げました。赤西君は自分の意見をどんどん言ってくれるのでやりやすかったですね! 提案のあったナツの脱力系なスタイルは、結果的にLANDSの曲にも合っていたと思います。90年代という軸はブレないように、ロックやグランジといったこの映画の音楽性を衣装で伝えられたらなと思い、スタイリングしました。

Girls Fashion Collection

Yukari ユカリ

タイト×ゆるふわ、できる女の甘辛MIXコーデ

90年代のにおいを漂わせるタイトなミニスカートに、女性らしいゆるふわブラウス、ヒールの高い靴など、甘辛アイテムをバランスよくミックスしたできる女コーデ。





Miharu ミハル

スタイルのよさを生かしたシンプルスタイル

ジャストサイズのピンクの細身パーカでスタイルのよさを強調。ライブへ行くときはチェックのシャツを羽織るなど、さりげなくロックを感じさせる自然体なスタイルが魅力。





Asako アサコ

キュートでカッコいい甘めロックスタイル

Tシャツワンピやミリタリーコートなどの流行アイテムを押さえつつ、赤や青のプリントTシャツやヒールのあるブーツなどでロックテイストをオン。キュートなロックガールがアサコの鉄板スタイル。

Close Up!
Natsu's Fashion



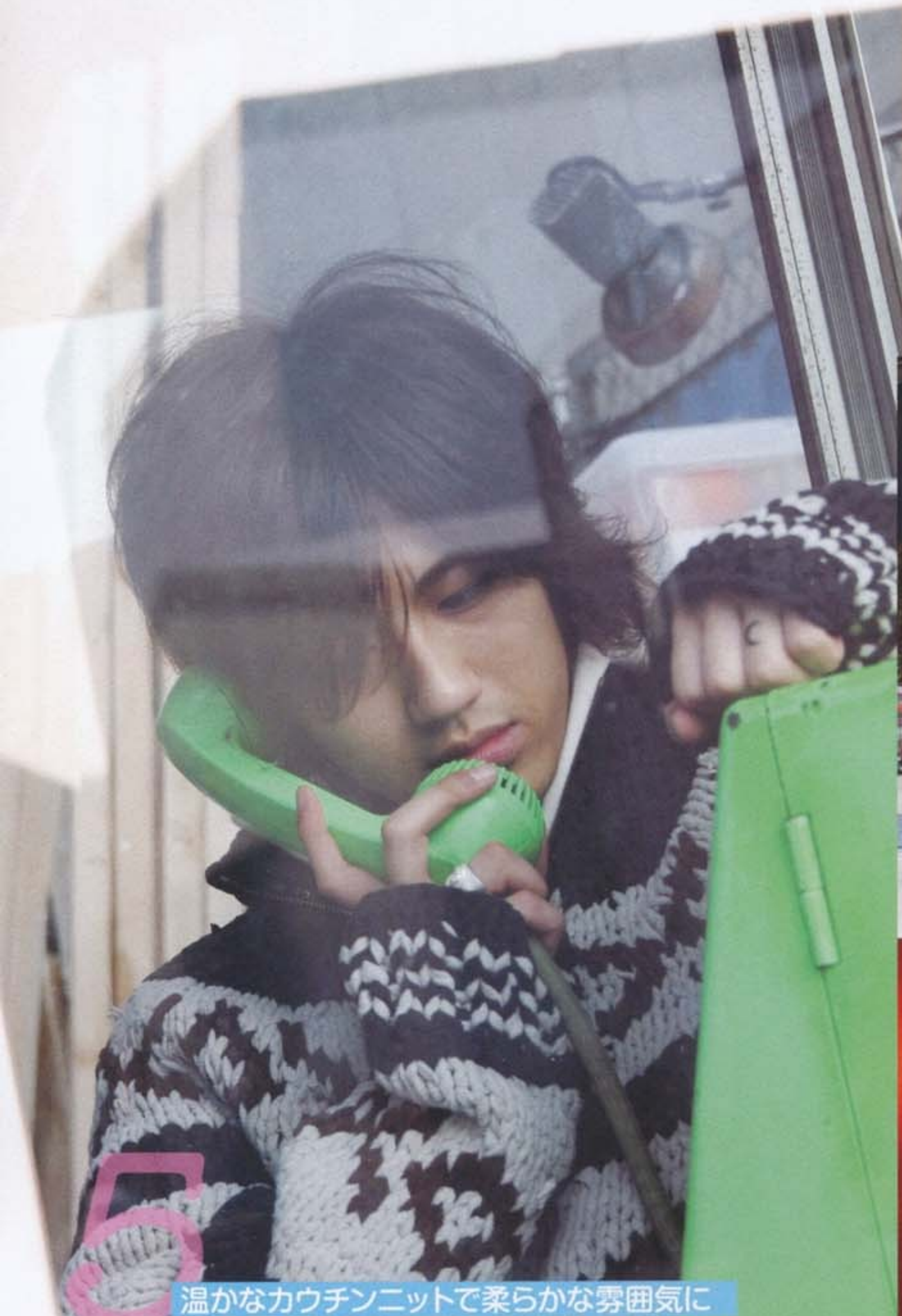
2
パーカにハーフパンツの脱力系スタイル
「先ほどのライブシーンの白Tの上に、パーカを着たスタイル。ハーフパンツには編み上げブーツを合わせています。このゆるいサイズ感はフワフワしていて優柔不断かつピュアなナツのイメージで、全体的にダボっとしているのが特徴です」



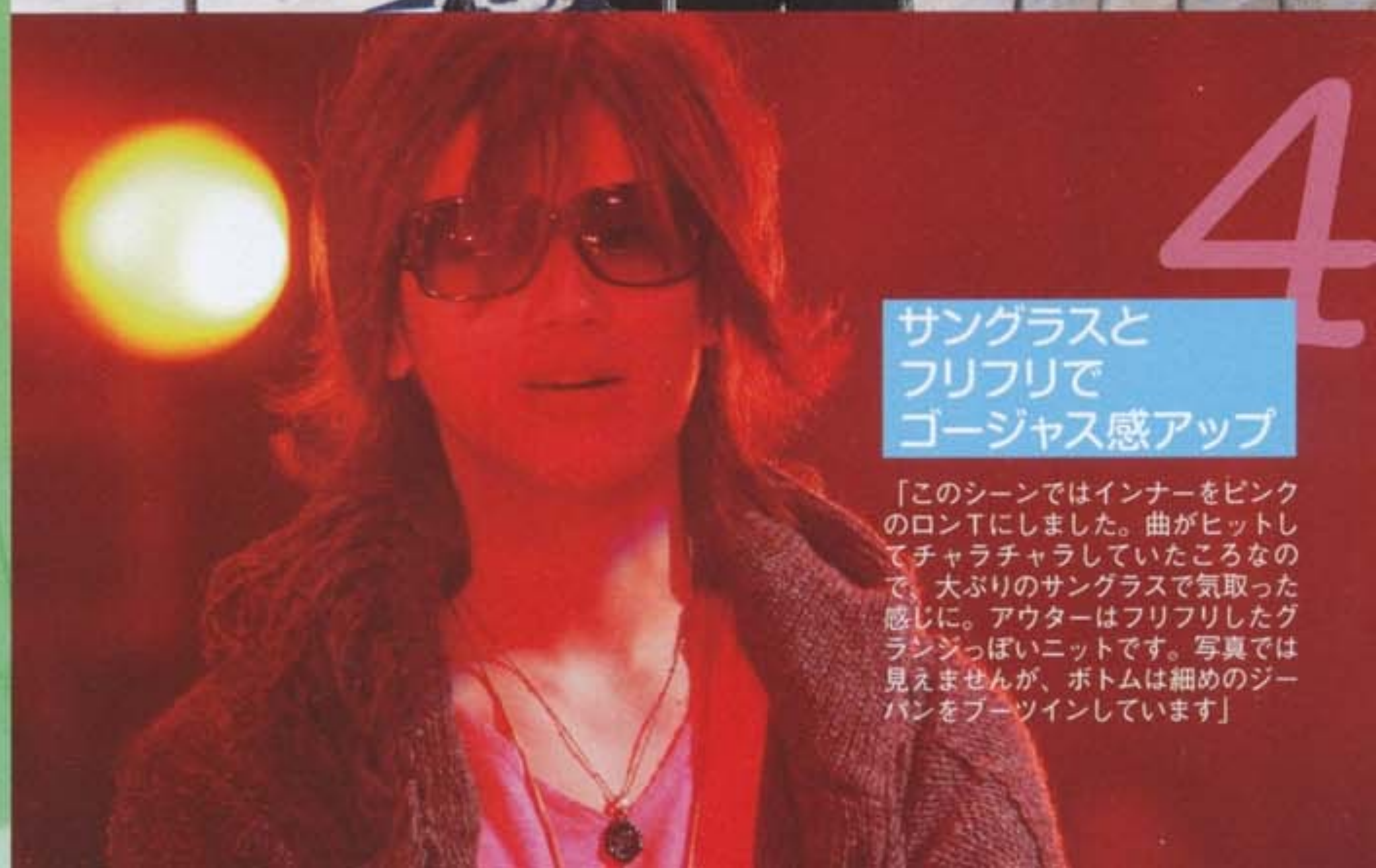
1
キャラを際立たせるシンプルな白Tシャツ
「基本的にナツはV（ネック）が中心。首が詰まっているものよりも少し開いていたほうが赤西君には似合ったので。手首に巻いているバンダナは最初頭に巻いてみたんですが、いまいちシックリこなかったんで。このシーン的にマストなアイテムなので、印象的になるように手首に巻きました」



3
練習シーンは濃いめのゆるジーンズをチョイス
「ここでは茶のパーカにルーズなジーパンを合わせています。ライブでも練習でも、ナツはあまり服装とか気にしないっていうキャラクター。アクセサリーは、常に着けているこのネックレスと、羽根のネックレスの2点のみで、腕や指のタトゥーは確か赤西君のアイデアです」



5
温かなカウチンニットで柔らかな雰囲気に
「冬という設定だったので、アウターは何がいいか、赤西君や監督と話し合ってこのカウチンニットにしました。劇中でこの衣装のシーンは一瞬ですが、このニットを赤西君はとても気に入っていましたね！」



4
サングラスとフリフリでゴージャス感アップ
「このシーンではインナーをピンクのロンTにしました。曲がヒットしてチャラチャラしていたころなので、大ぶりのサングラスで気取った感じに。アウターはフリフリしたグランジっぽいニットです。写真では見えませんが、ボトムは細めのジーパンをブーツインしています」

知りたい！ What's LANDS

劇中に登場するロックバンド・LANDSを徹底解剖！
それぞれのキャラクターや
オリジナル曲分析で、その魅力に迫る。





ボーカル Vo. ナツ（赤西 仁）



まっすぐで不器用な LANDSのリーダー

音楽に対する真っすぐな思いと、それをうまく表現できない不器用さを併せ持つバンドのリーダー。求められる音楽とやりたい音楽のギャップ、結果を出せないことへの葛藤を抱えながらも、アサコという存在に救われる。

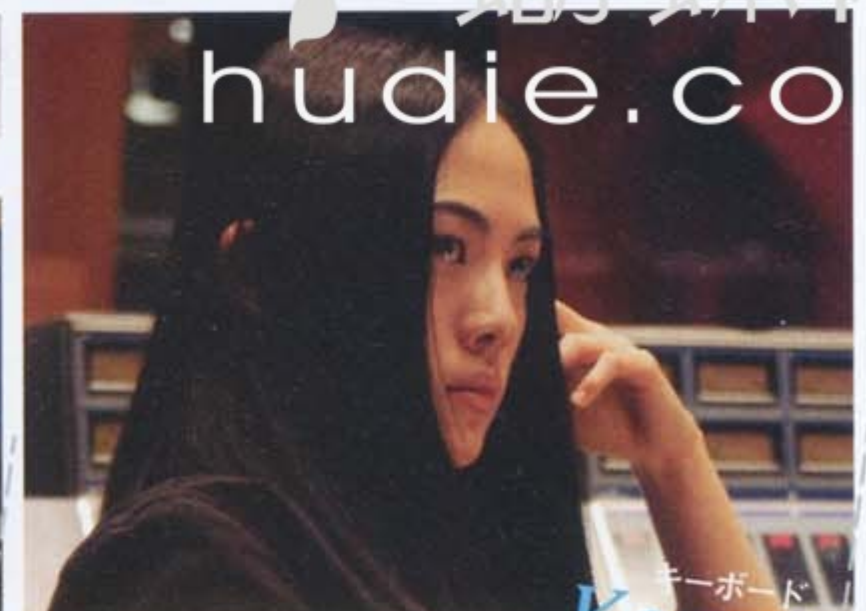
ギター G. ユキヤ（高良健吾）

天才的なオーラと 才能を併せ持つカリスマ

寡黙でバンド内でも独特の雰囲気を持つ孤高のギタリスト。その音楽的才能は高く評価されており、LANDSになくてはならない存在だが、ポーカーフェイスで素顔は謎に包まれている。







ベース B. ケンジ（笠原秀幸）

LANDSを誰よりも愛する ムードメーカー

優しくて明るい、バンドのムードメーカー的存在。LANDSをこよなく愛し、メンバーの分裂を誰よりも心配する半面、自分の実力を卑下し、脱退も考える。

ドラムス Dr. リュージ（金子ノブアキ）

情熱を携えた寡黙な 実力派ドラマー

音楽への情熱は人一倍で、ケンジと共に揺らぐバンドの存続を気にかけている。リーダー・ナツの中途半端な態度にいら立ち、ドラムを力任せにたたくなどの荒々しい一面も。

キーボード Key. アルミ（柴本 幸）

時代をつかむ 感性を持った紅一点

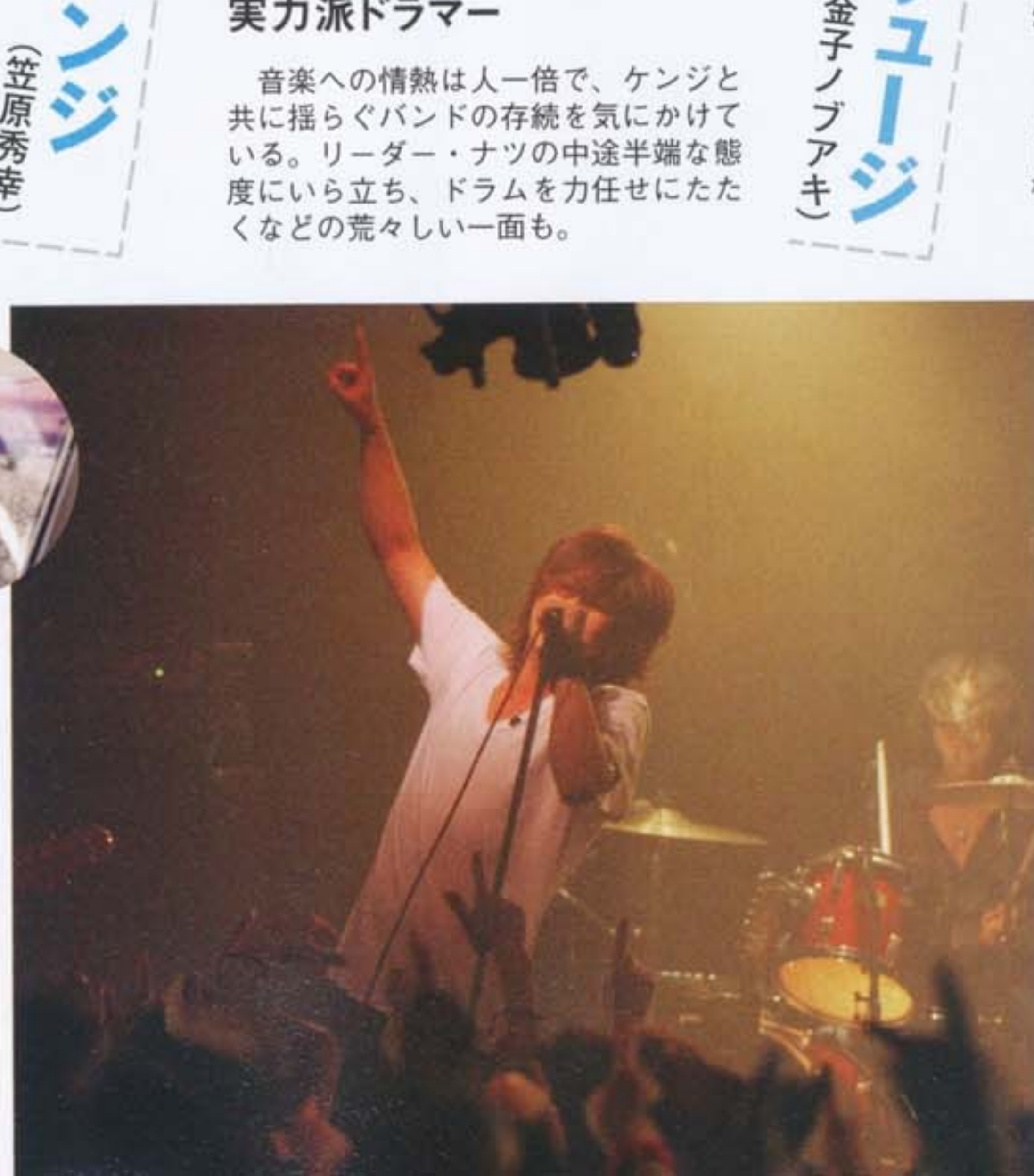
楽曲のアレンジを任せられヒットへと導くなど、その感性は抜群。一方、自信家で気が強く、妥協を許さない性格のため、メンバーと衝突することもしばしば。

MUSIC



多彩なオリジナル 楽曲がたくさん登場！

物語の冒頭でアサコが涙するシーンで流れる、切ないフレーズやメロディラインが印象的な楽曲や、アルミの感性でジャズやスカといったさまざまな音楽の要素を取り入れたミクスチャーなど魅力的なオリジナル曲が多数登場するが、何といっても挫折や壁を乗り越えたラストシーンからつながる「BANDAGE」こそがLANDSの真骨頂。キャッチーなギターフレーズや分かりやすい日本語歌詞が熱く胸に響く。



練習スタジオは こんな所！



東京湾の近く、運河に沿って立ち並ぶ倉庫街の一角にあるLANDSの練習スタジオは、使わなくなった倉庫を事務所社長（財津和夫）が買い取り、スタジオに改装したもの。人けもネオンもない周辺は、夜になると周辺工場の明かりがともりロマンチック♥

BANDAGE バンデイジ

監小林武史　原脚菅知香　脚岩井俊二
出赤西 仁　北乃きい　高良健吾　柴本幸
笠原秀幸　金子ノブアキ　杏　伊藤歩 ほか
●10年1月16日(土)より全国東宝系にて公開

ミハル（杏）から一枚のCDを手渡されたアサコ（北乃）。LANDSというバンドのその歌声に心ひかれたアサコは、ミハルと行ったライブで偶然にも彼らと出会い、ボーカルのナツ（赤西）と親しくなって…。ナツとアサコ、そしてLANDSが駆け抜けた90年代の青春の日々を、オリジナル曲とともに綴る。➡P65

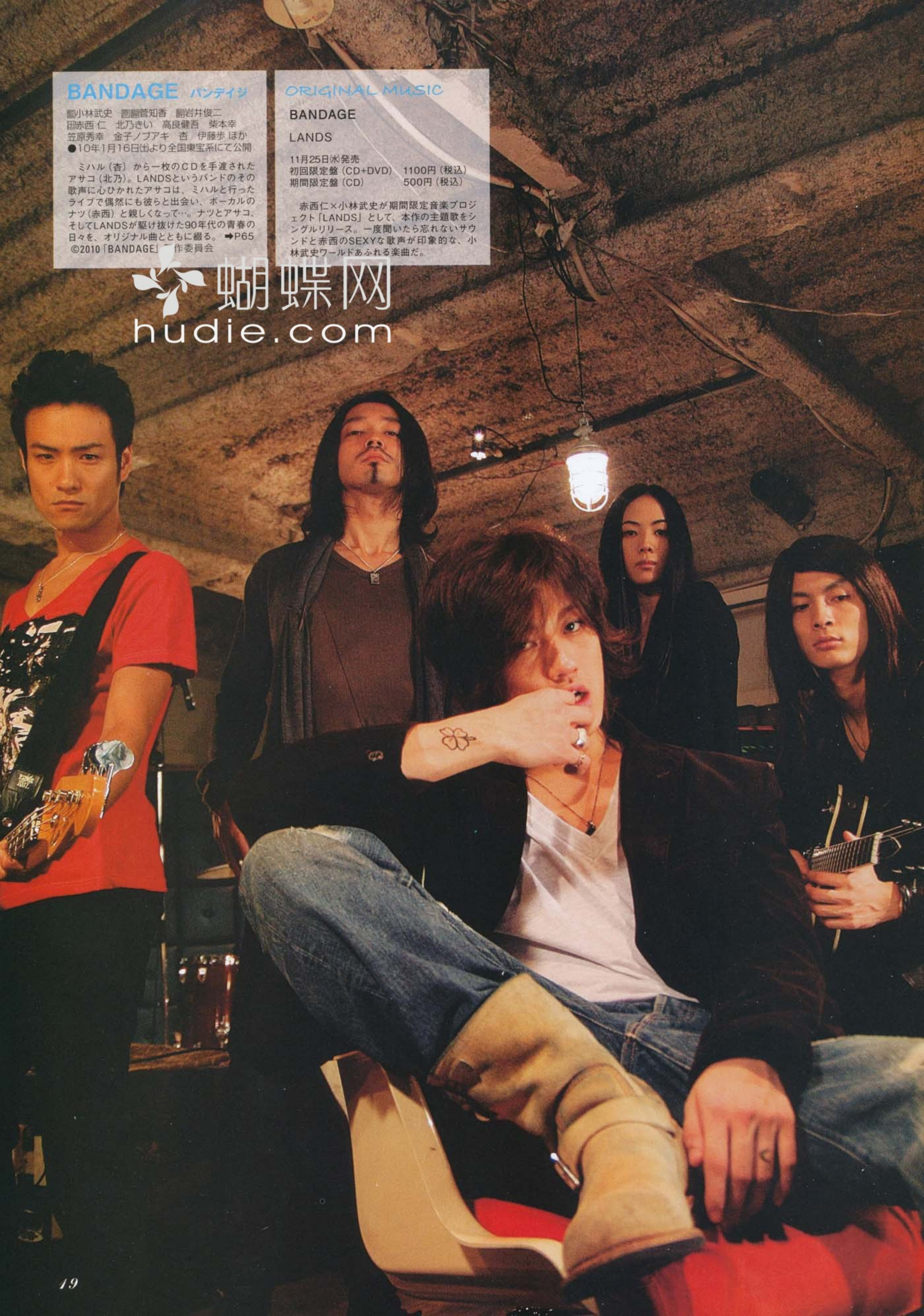
ORIGINAL MUSIC

BANDAGE

LANDS

11月25日(水)発売
初回限定盤（CD+DVD）　1100円（税込）
期間限定盤（CD）　500円（税込）

赤西仁×小林武史が期間限定音楽プロジェクト「LANDS」として、本作の主題歌をシングルリリース。一度聞いたら忘れないサウンドと赤西のSEXYな歌声が印象的な、小林武史ワールドあふれる楽曲だ。




Music with LOVE
のだめと千秋の
ハーモニー♪

12月19日公開!

『のだめカンタービレ 最終楽章 前編』

上野樹里×玉木 宏

Juri Ueno　　Hiroshi Tamaki





**「のだめカンタービレ」がついにスクリーンに進出。
“最終楽章”と題し前後編の2本が年をまたいで
公開される映画版“のだめ”を大特集!
上野樹里&玉木宏のスペシャル対談をはじめ
さまざまな角度から
映画『のだめカンタービレ 最終楽章』の
見どころを徹底解剖します!!**

Photo by Naoki Kimura　Text by Aya Yokomori、Hibiki Kurei
Hair & Make up by HAMA(上野)、Yukiya Watabe(玉木)
Styling by Yuta Kaji(上野)、Hiroki Nakayama(玉木)



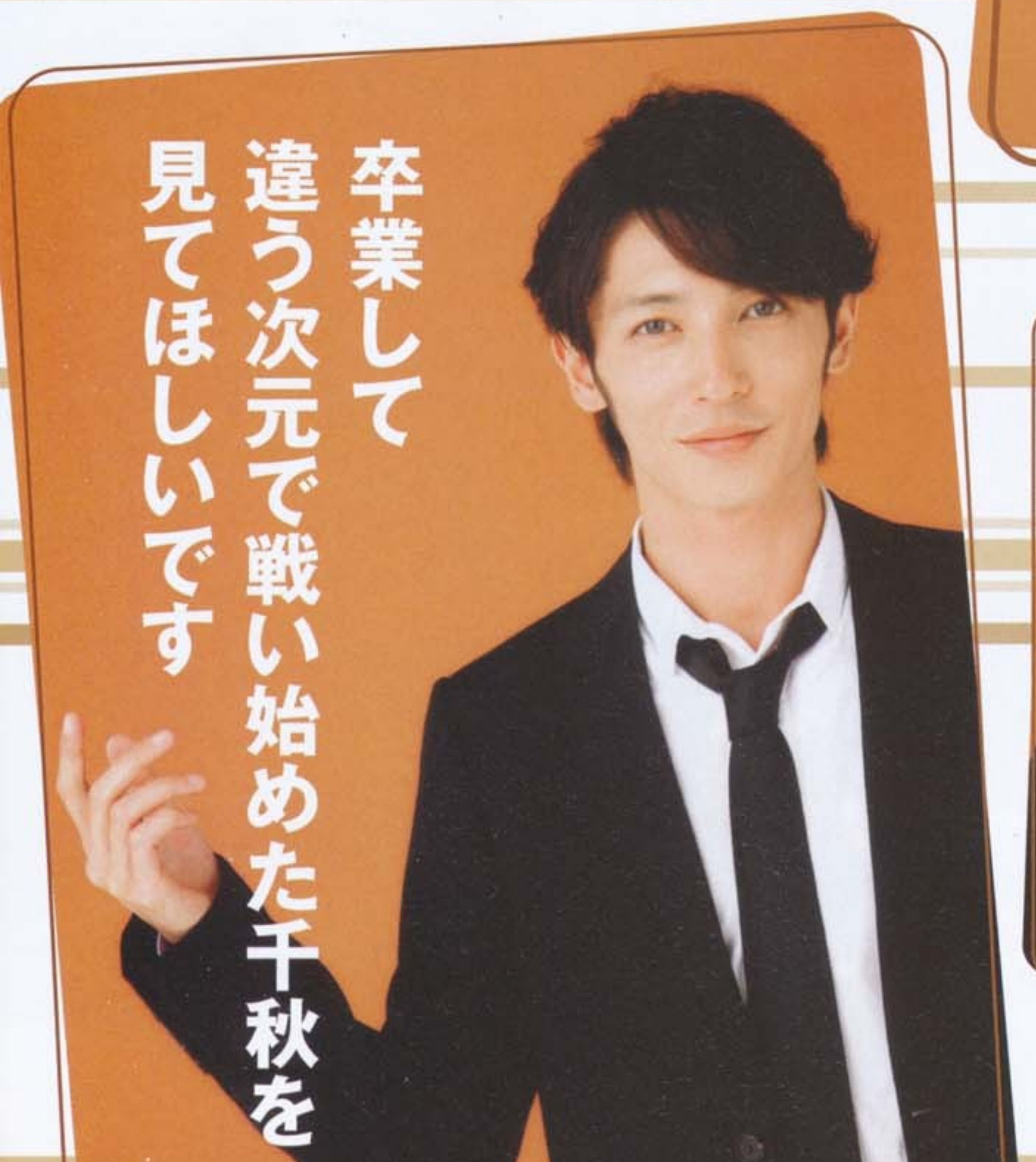




今回はできるだけサポートに回ろうと思ってました

Juri Ueno

うえの・じゅり
1986年5月25日生まれ。兵庫県出身。A型。03年の連続テレビ小説「てるてる家族」や主演映画『スウィングガールズ』(04)で注目を集める。その他の出演作は『奈緒子』(08)、『キラー・ヴァージンロード』(09)など。



卒業して違う次元で戦い始めた千秋を見てほしいです





Hiroshi Tamaki

たまき・ひろし
1980年1月14日生まれ。愛知県出身。A型。01年の映画『ウォーターボーイズ』で注目を集め、映画・ドラマなどで活躍。その他の出演作に『ROCKERS』(03)、『真夏のオリオン』『MW－ムウー』(09)などがある。11月21日には、全国5か所・7公演を回るライブツアー alive がスタートする。


Music with LOVE
のだめと千秋のハーモニー♪

いろんな要素が詰まっているところが最大の魅力

上野　共演するのは08年のスペシャルドラマ以来ですけど、脚本を読んでいたら自然と玉木さんの声が浮かんだんです。やっぱり長く一緒にやってきたからなんだろうなと思いました。

玉木　お互いに3年間で培ったものはありますよね。そんなに相談しなくても息が合うというか…。特に樹里ちゃんは常に本気で来てくれるので、それをしっかり受け止めないといけないなと、いつも思っています。

上野　ありがとうございます。玉木さんは今回、指揮のシーンが前半に固まっていて、あのときは人を寄せ付けないくらいに集中していましたよね。

玉木　やっぱり指揮シーンは前編の核となる部分だったから、あえて自分からはしゃべらないようにしていました。

上野　こればかりは誰にも代われないことですし、私も見守ることしかできなかった。だから肩をもんだり、暑そうならあおいだり、とにかくサポートするしかなくて。できるだけ邪魔しないようにサポートしていこうと。

玉木　でも、そういう難しさが面白くもあるんですよね。僕なら指揮の練習、樹里ちゃんならピアノの練習と、役者それぞれに課されるものがあるのは、やりがいでもある。今思えば、クランクインしてすぐに大事な指揮シーンを撮り終えてよかったと思います。最後まであの緊張感が続いていたら、きっと持たなかったかもしれない。

上野　ヨーロッパロケ中、前半のチェコやスロバキアにいたスタッフはこの映画をオーケストラの映画だと思い、フランスのスタッフはアクション・コメディだと思っていたんじゃないですかね!?　それくらい、全然撮影の雰囲気が違ってましたもんね。

玉木　そういう、いろんな要素が詰まっているところが『のだめカンタービレ』の魅力じゃないかな。ここまでいろいろな要素が詰まった作品って、なかなかないですよ。

上野　サーカスみたいな感じですよね。

玉木　そのために今回は長期でヨーロッパにも行ったわけだしね。荷物が結構多かったから、移動するたびに梱包するのは大変だったけど(笑)。

上野　大変だけど、でも詰めないと次に行けないし。これも仕事のうちなんだと思ってやっていました(笑)。ただスタッフの皆さんは、自分の荷物だけじゃなく機材の梱包もあったから、すごく大変だったと思います。

一度日本食に手を出すと歯止めが利かない!?

玉木　ところで、ヨーロッパではちゃんと眠れました？　枕が変わっても樹里ちゃんは平気な人？

上野　はい、大丈夫でした。玉木さんはご飯とかどうしてたんですか？

玉木　僕は好き嫌いが多いんです。でも、ヨーロッパに関してはさほど苦手な味はなかったんですよ。しかも食事がすべて温かいものばかりだというのは、やっぱりいいですよね。ただ、あれだけ長いこと滞在していると、毎日似た味を食べている気になってしまって。パリに入ってからは、キッチンが付いたアパートメントホテルだったので自炊もしました。

上野　私も自炊してましたよ。でも、なんだか知らないけど、作った料理がすぐに腐ってしまって…。

玉木　ええっ!?

上野　劇中でも、のだめが作ったカレーを食べて食中毒を起こす人が出るシーンがありましたけど、フランスで本当に自分が作ったカレーが腐ったんですよ(笑)。さすがにおなかを壊したらいけないと思って、食べるのはやめましたけど…。あと、日本食も食べましたよね。お寿司とか。

玉木　僕もフランスに入ってからは日本そばとか食べてました。ただ、一度日本食に手を出してしまうと、歯止めが利かなくなってしまって(笑)。そこはちょっと困りましたね。あと、フランスなんかでは特に、早くご飯を済ませることができない(笑)。

上野　前菜、メイン、デザートというコース料理が、ランチから出てくるんですよね。

玉木　だから〝早メシ〟ができなかった。もちろん、それはフランスの文化でもあるから仕方ないんだけど。

上野　それでもスペシャルドラマのフランスロケに比べたら、すごくスピードアップしたと思いましたよね。それと逆に、そういう長いお昼時間を利用して監督と話をすることもできたし。そういう意味では有効的な時間になりましたね。ただ、ヨーロッパロケで大変だったのは天候。一日の中で晴れになったり雨になったり、雷が鳴ったり…かなり振り回されて。ホント、のだめみたいな天気だったというか(笑)。

玉木　それでも、1日だけ撮りこぼしが出て別日に撮影したけど、それ以外はうまい具合に撮れましたよね。しかもフランスに入ってからは、そんなに自分が出演するシーンがなくて、実際に何日か撮影オフの日が続いたときは、前からずっと行きたいと思っていたモン・サン・ミッシェルにも行くことができました。

上野　私も行きたかった…。

玉木　すみません(笑)。

上野　モン・サン・ミッシェルに宿泊もされたんですよね。

玉木　もともと僕は、世界遺産を見て回るのが好きなんです。特にモン・サン・ミッシェルは、どうしても夕暮れの写真が撮りたくて。夏時間のフランスの夕暮れって夜の9時過ぎだから、宿泊するしかないんですよね。

上野　羨ましい〜。私も一度はモン・サン・ミッシェルに行きたいです。あのときは、モン・サン・ミッシェルのことが日本語で書かれた絵本とか、花の形をしているペンとか頂き、ありがとうございました。私は結局どこにも行けなかったんですけど、7月14日のパリ祭で、エッフェル塔から花火がたくさん上がるのが見れてすごくよかったです。すごくきれいでしたよね。

玉木　こうやって話していると、ますます仕上がりが待ち遠しいです。個人的には、のだめが号外を配るシーンが、CGも含めて見るのが楽しみなんです。変態の森も登場するし。

上野　私は玉木さんがどういう感じで指揮をしているのか、オーケストラのシーンがどんなふうに仕上がっているのかな、と。客席からは見ていましたけど、表情とかが映画ではちゃんと見られると思うし。あとは、みんながどう成長していくのか、自分が出ていないシーンもすごく楽しみです。

玉木　前編・後編とボリュームもたっぷりあるし、お客さんを飽きさせない作品になっていると思います。学生を卒業し、違う次元で一生懸命に戦っている千秋を見ていただきたい。

上野　とにかくたくさんの人に見てほしいですね。ドラマのときとは違う、映画ならではの面白さにあふれた作品になっていますからね！

泣ける映画は？

玉木　あまり映画を見て涙を流したりはしないんですが、『ミリオンダラー・ベイビー』は、女性ボクサーに扮したヒラリー・スワンクの熱演も手伝って、すごく感動しました。

上野　私は『帝国オーケストラ』というドキュメンタリー。ベルリン・フィルがナチス政権下で過ごした日々を、当時の関係者へのインタビューと記録映像で描いたもので、年を経た関係者の語る様子がすごく感動的でした。



取材中、相手が言葉に詰まるとさりげなくフォローし合うなど、見事なコンビネーションを見せてくれた2人。長く演じてきた"のだめと千秋"の絆が、2人にも息づいているのだと実感させられました。



Music with LOVE
のだめと千秋のハーモニー♪



MUSIC TOPICS

日本中にクラシックブームを巻き起こした
『のだめカンタービレ』。
映画版ではコンサートシーン&
演奏シーンもさらにスケールアップ！
そんな映画『～最終楽章 前編』を
より楽しむための"舞台裏&豆知識"を
ご紹介します!!

ルー・マルレ・オーケストラ









劇中、千秋が常任指揮者に迎えられるパリの由緒あるオーケストラ。もちろん実在はしない。若き日のシュトレーゼマンやカイ・ドゥーンも在籍していた名門だが、現在は多くのメンバーがアルバイトに明け暮れるなど危機的状態。それを知った千秋がオケを立て直すべく、オーディションを開催。黒木（福士誠治）やポール（チャド・マレーン）も参加するというストーリーだ。ちなみに、千秋を常任指揮者に推薦した音楽監督"ジェイムズ・デプリースト"は実在のマエストロ。

ウィーン楽友協会









1812年に設立された、ウィーンに実在するコンサート会場。ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団の本拠地として知られる。"黄金のホール"と呼ばれるホールで、ルー・マルレ・オーケストラによるコンサートシーンが撮影された。同ホールが映画の撮影に使用されるのは、もちろん初めてのこと。あの小澤征爾氏が立った同じ指揮台で、玉木宏がタクトを振ったのだ！







楽器演奏





今回の映画では、演奏シーンのあるキャスト全員がクランクイン前からレッスンを開始。バソン奏者役の新キャスト、チャド・マレーンは、難しいといわれるバソンの音を出すところから猛特訓を開始。先生に「自分の最後の弟子」と言われるまでに上達したという。また、ルー・マルレ・オーケストラの団員役となる外国人キャストは、楽器が弾けることを条件に選出されていた。



映画に登場する主な楽曲

『のだめ～』のテーマ曲ともいえる「ベートーヴェン 交響曲第7番」をはじめ、フィギュアスケートでおなじみの「ボレロ」など、今回も"クラシックの定番"といわれる名曲の数々がストーリーをもり立てる。劇場の巨大スピーカーで聴けば、迫力&臨場感が倍増すること間違いなし！

- ●ベートーヴェン　交響曲第7番
- ●ラヴェル　ボレロ
- ●デュカス　交響詩《魔法使いの弟子》
- ●モーツァルト　ピアノ・ソナタ第11番《トルコ行進曲付き》
- ●ドヴォルザーク　チェロ協奏曲
- ●モーツァルト　オーボエ協奏曲
- ●アンドレ・ジョリヴェ　バソン協奏曲
- ●チャイコフスキー　序曲《1812年》
- ●J.S.バッハ　ピアノ協奏曲第1番
- ●チャイコフスキー　交響曲第6番《悲愴》







のだめオーケストラ

東京都交響楽団による推薦やオーディション合格者約160人が所属する実在のオーケストラ。メンバーたちは劇中に登場するだけでなく、クラシック音楽の素晴らしさを広めるため、CDに参加したり、定期的にコンサートも開催している。おなじみの楽曲を生で楽しめる貴重な機会であり、『のだめ～』にまつわるシークレットゲストが登場することも!?

"のだめオーケストラコンサート アニメ編 最終楽章"
～楽しい! オケ入門コンサート～

2010年1月12日(火)　Bunkamuraオーチャードホール
2010年1月13日(水)　Bunkamuraオーチャードホール
2010年1月14日(木)　NHKホール

※いずれも18:30開演。詳細は、のだめオーケストラHP（http://www.nodame-orche.com/）をご覧ください。




サウンドトラックCD



おなじみ"ベト7"をはじめ、映画の前編&後編で使用された楽曲をすべて収録したサントラ盤。3枚組とボリューム満点！

のだめカンタービレ 最終楽章
12月9日発売 3990円（税込）
EPICレコードジャパン




のだめ's STYLE

ヒロインである"のだめ"の
可愛いファッションも見どころの1つ。
映画前編でも、おなじみのチェック柄を中心に
"のだめ"らしいキュートな着こなしを
見せてくれています!!

取材協力／スタイリスト [illegible]



"ヨーク"のワンピは のだめスタイルの定番中の定番

チェックのワンピースは"のだめスタイル"の定番! このグリーンのワンピは、おなじみの人気ブランド"タータンショップ ヨーク"のもの。通学には、トレードマークの鍵盤バッグも欠かせません。



同じ柄のブラウス&スカートでワンピース風に

ワンピースに見えて、こちらは同じチェック柄のブラウス&スカート。カーディガン率が高いのも、のだめファッションの特徴の1つ。



こんなコートなら室内着用も違和感なし!

なぜかコートを着たまま千秋のコンサートを鑑賞するのだめ。なかなかイメージに合うものが見つからず、最終的には"ヨーク"が特注で作ってくれたそう。



先生のレッスンにはシック&正統ワンピで

シックな色のワンピースでオクレール先生のレッスンを受けるのだめ。ウエスト切り替えの正統派な形が"のだめらしさ"を引き立てている。



トリコロールの組み合わせで 気分はパリのリセエンヌ!

のだめにしては珍しいシルエットのワンピースに、真っ赤なカーディガンをコーディネート。中のワンピはノースリーブで、トリコロールになっている襟がポイント♪ 胸元も、のだめにしてはかなり開いているのだ!



コンサートには ちょっぴりフォーマルな装いで

コンサート前に千秋へ贈る花を選んでいるシーン。クラシックのコンサートなので、同じワンピースでも袖が透けてちょっとフォーマルな雰囲気。バッグの色も紺で統一されているため、手にしたブーケが一層引き立つのだ！



マイルームでは Tシャツ&ジャージが基本！

のだめが着るとジャージ&Tシャツの組み合わせもこんなに可愛い！ Tシャツはカラフルな部屋に負けない個性的なものが多い。



カーディガンのボタンをすべて留めてセーター風に

"ずぼら"でワンピ派ののだめにしては珍しく考えたコーディネート!? カーディガンのボタンを留めたセーター風の着こなしが、のだめっぽいところ



セオリー無視のカラーコーデはテンション重視ののだめスタイル

セオリーにとらわれない色使いも、のだめスタイルの特徴！ チェックのスカート＋黄色ニット＋赤帽子の"ハーモニー"は、セオリーよりもテンション重視!?



ジャンスカ＋ブラウスでのだめ流"重ね着"完成!!

ジャンパースカート＋ブラウスの着こなしは重ね着ブームの時代にマッチ!? 単体でワンピースとして着ることも可能。ぺったんこのパンプスも、のだめスタイルの定番！



千秋先輩への愛を主婦風スタイルで表現!?

千秋のためにティッシュ配りをするシーンでは"内助の功"を意識して、ポロシャツで主婦っぽさを演出。買い物カゴ風のバッグもいい味出してます！

千秋'S ALBUM

長期ヨーロッパロケ中、
いろいろなシチュエーションで
さまざまな表情を見せてくれた
"千秋先輩"こと玉木宏。
だけど、どんな服装をしても、
どんな場所に立っても、千秋先輩は
やっぱりカッコいいのでした！



パリ・セーヌ川近くのロケでは、川から渡ってくる風が冷たく、ちょっぴり震えながら撮影することも…。

セーヌの風に吹かれて想う人は…



学校の試験を終えたのだめと千秋が会うシーン。モーツァルトにもゆかりのある、パリのサン・トゥスタッシュ教会前の広場にて。



"マルレ・オケ"のオーディションシーン。参加者の演奏をチェックする表情は、まさに真剣そのもの!!



凱旋[illegible]近くのビル屋上にて。この後、パリ祭のリハーサルでヘリコプターが飛び回り、[illegible]ばし撮[illegible]断になるひと幕も。



ある目的のために丸メガネで変装した(!?)千秋。変装というより、普通に似合ってしまうところがさすが！



ウィーンでのロケ撮影。映画冒頭に出てくる千秋のジョギングシーンで、珍しいジャージ姿を披露。

♪♪ 欧州の美しい街並みをバックに、のだめと千秋の恋が進展!? ♪♪

CHARACTERS



フランク（ウエンツ瑛士）
コンセルヴァトワールのピアノ科に在籍するフランス人。日本のアニメを愛するオタク。



千秋真一（玉木宏）
指揮者を目指し渡欧したエリート。 パリで"マルレ・オケ"の常任指揮者就任に喜んだのもつかの間、やる気のないメンバーたちに失望する。



野田恵（上野樹里）
パリのコンセルヴァトワールに留学中のピアニスト。映画では学校の進級試験に励みつつ、常任指揮者に就任した千秋を陰からサポートする。



孫Rui（山田優）
米国育ちの中国人ピアニスト。ライバル的存在として、今回ものだめの前に立ちはだかる!?



ターニャ（ベッキー）
やはり"コンヴァト"ピアノ科に在籍するロシア人。オーディションで黒木の伴奏を務める。



黒木泰則（福士誠治）
実力派のオーボエ奏者。"マルレ・オケ"のオーディションに、ターニャの伴奏で挑む。



テオ（なだぎ武）
"マルレ・オケ"の事務局員兼ライブラリアン。オタク仲間であるフランクと仲がいい。



ポール（チャド・マレーン）
コンセルヴァトワールに通うフランス人バソン奏者。"マルレ・オケ"のオーディションに参加。



松田幸久（谷原章介）
R☆Sオーケストラの指揮者。客演のためパリを訪れ、千秋のコンサート会場に姿を現す。



エリーゼ（吉瀬美智子）
千秋&シュトレーゼマンを担当する、ドイツ人マネージャー。敏腕だが、いい加減な性格。

CHECK IT！01

長期ヨーロッパロケを敢行

映画の前編&後編の2部作で"最終章"となるだけに、フランス、チェコ、スロバキア、オーストリアと大々的な長期ロケを敢行。ドラマ版からさらにスケールアップした"本場の雰囲気"が大迫力のスクリーンでよみがえる。また、歴史を感じさせる壮大な風景が、のだめと千秋、2人の恋のフィナーレを盛り上げてくれそうだ。



CHECK IT！02

おなじみのキャラから新キャラまで出演陣も超豪華！



スペシャル版に参加したウエンツ瑛士、ベッキーらが活躍するほか、瑛太、水川あさみ、小出恵介といったTVシリーズでおなじみの豪華キャストも登場。また、新たに谷原章介のほか、なだぎ武（ザ・プラン9）、チャド・マレーン（ジパング上陸作戦）といった個性的なキャストも出演。2人の外国人キャラに爆笑すること間違いなし！

CHECK IT！03

原作コミックは最新22巻が発売中

原作コミックは現在、最新22巻が好評発売中。Ruiと千秋のコンチェルトに衝撃を受けたのだめの復活劇が描かれる！



のだめカンタービレ　#22
二ノ宮知子
講談社コミックキス　440円（税込）

のだめカンタービレ
最終楽章　前編&後編

監武内英樹　原二ノ宮知子　脚衛藤凛
出上野樹里　玉木宏　ほか

●前編は12月19日(土)、後編は10年春、全国東宝系にて公開

千秋（玉木）はルー・マルレ・オーケストラの常任指揮者に就任するが、団員たちはアルバイトに明け暮れ、全くやる気がない。のだめ（上野）はそんな千秋を応援しつつ、自らの進級試験に挑む。

➡P64



のだめと千秋の恋の二重奏 劇場で感動のフィナーレ

ドラマ化され、クラシックブームを巻き起こした二ノ宮知子の超人気コミック「のだめカンタービレ」がついに映画化！ 物語は08年1月に放送されたスペシャルドラマの続編で、ヨーロッパを舞台に、ピアニストを目指すのだめと指揮者を目指す千秋の音楽的成長と恋の行方が描かれる。『のだめカンタービレ 最終楽章』のタイトルが示すように、今回の映画版が完結編。ちなみに、前編の公開は12月19日、後編は2010年春公開。果たして、どんなフィナーレを迎えるのか!!


修学旅行のノリで、みんな話すのは下ネタばかりです
佐藤二朗
共演の方を知って、「すごい!!」って驚きでした
白石隼也
体験したことのない芝居を勉強させてもらいました
小柳 友
ここまでイジってもらえて、うれしかったんです
山本裕典



『大洗にも星はふるなり』

男たちの大座談会

やりとり重視の撮影から、グルーヴ感が生まれていった

僕も役柄同様、よく分からない男だと言われるんです

なぜ、僕にこの役がきたのか分からないんですよ！

あのヒゲ、天然じゃなくしっかり描いてますから！

福田雄一 監督

安田 顕

ムロツヨシ

山田孝之

1通の手紙から始まる、
おバカな男たちのマドンナ争奪戦を描く
暴走ムービー『大洗にも星はふるなり』。
今回初監督を務めた注目のクリエーター福田雄一と、
山田孝之率いるクセモノ俳優7人が集合！
男だらけのおバカトーク開幕だ!!

Photo by Kazuko Tanaka Text by Hibiki Kurei
Styling by Masahiko Kuroda(KUN style)
Hair&Make up by TOH(ROOSTER)、Maki Ikeda(bloomy)

予想を越えた!? 8人の男たちの撮影現場

監督　僕は今回、映画初監督だったんですが、映画をやりたいわけじゃなかったんですよ。基本的には放送作家なので…(笑)。

ムロ　えっ、ここでそんなこと言っちゃいますか!?

監督　ビックリするほど気負いがなかったし、現場でもみんなとセッションしながら作っていったような感じがして、笑いが絶えなかった。楽しくてしょうがなかったんですよね。

山田　みんながここまでアイデアを出しまくっている現場は、これまでなかったですよ。

山本　撮影以外も楽しかったですけど、撮影中も監督がすごく笑っていましたよね。音を拾っているのに、監督の声が入ってしまうほど!

小柳　セリフかアドリブかが分からない。今まで体験したことのない芝居を勉強させてもらいました。実は僕、劇中で後ろを向いて笑っているところがあるんですよ。それぐらい必死でしたからね。

監督　セッションしようとしないのは、佐藤さんだけ。

佐藤　そんなことない! ほかの現場じゃ、そんなことしないし。これまで舞台で何度も組んでいる福田雄一をナメてるだけ(笑)。

監督　悔しいことに、そのナメ具合が面白い。だから、カットできないんだよね(笑)。



現場では監督も大爆笑だった 出演陣のアイデア&アドリブが満載

小柳　監督は「ここはこうしたほうがいい」と言うんじゃなく、「ここはこうしたほうがもっと面白くなるよ」と言ってくれます。そう言われるとモチベーションが上がって、「福田監督に演出されてよかったな」と思えるんです。

監督　100点満点のコメントだね(笑)。安田さんは、セリフのアドリブじゃなくて、テンション自体がアドリブでした(笑)。このセリフをそのテンションで言うのか!! と何度も驚かされましたよ。

安田　脚本を読んでいて正直、関口という男が何を考えているのか謎だったんですよ。だから、何も考えずに、見た人にもどんな人なんだろって思ってもらえばいいと。だから、基本的にノープラン。でも、監督にもうちょい滑舌よくセリフを言ってもらわないと困ると言われました(笑)。

ムロ　白石君はどう? 一番若いのに、撮影途中からの参加だったから、かなり大変だったと思うけど。

白石　そうですね。僕はキャストの皆さんのお名前を聞いたときに、「すごい!!」って驚きで、完全に素人な状態に戻ったんですよ。山田さんだった

衣装協力／SUN SURF

り、山本さんだったり…。

佐藤 それ言うんだったら、ここにいる全員の名前を言わなきゃダメだよぉ。

全員 (爆)。

山田 それにしても、劇中で山本君がモノマネする、さかなクン。あれは衝撃的だったね…。

ムロ うん(笑)。山本君のマネージャーさんに新境地を開拓しましたね、と言ったぐらい。

山本 僕もマネージャーさんから、「思いっきりやってたね」と言われました(笑)。なぜか、そのマネージャーさんはサメに詳しくて、いろいろ教えてもらいました。

監督 で、残念ながら若干似ちゃったんだよね。山本君ごめんなさい。

山本 さかなクンで、ここまでイジってもらえてうれしかったんですよ。おいしかったです(笑)。

なぜか寒空の下、スタジオの外で食事をする、熱い男とは

白石 僕は妄想シーンが印象的でした。真冬の海ですっごく寒いというのに、雨を降らしたじゃないですか。

監督 あのとき、1人だけ芝居じゃなく、素で寒がっている人がいました！

佐藤 真冬の大洗の海に、雨を降らしこの格好（アロハ&短パン）でいるなんて、死ねと言っているようなもんでしょ！　今までいろんな現場をやってきましたが、あんなに早く終わってくれ、と願った現場はなかった‼

ムロ 気になったんだけど、劇中でいきなり濃くなる山田君のヒゲは、天然なの？

山田 それ、よく言われるんだけど、あれのどこが天然なんですか‼　思いっ切り、黒く描いてるじゃないですか！　よく見てくださいよ～‼

監督 みんなは自分が演じたキャラクターについて、どう思っている？　自分と似ているところとかあったりする？

山田 杉本は基本、おかしなテンションですが、あんなヒゲ面になりながらも、マジメにいい話をするところに愛着を感じる。でも、絶対に友達にはなれないと思いますね。ストーカーな性格ゆえ、逆に似ているところがあっちゃ、マズいような気がする(笑)。

山本 松山は若干、策士的なキャラで、情を買ってもらおうというタイプです。やっぱり好きなコがいたら、自分をよく見せようとか、ポイントを上げたいとかと思うんですよ。そういう恋愛に関しては、自分も似ていると思いますね。

ムロ 猫田は自他ともに認めるモテない男です。だから、なぜ僕にこの役のオファーがきたのか分からないんですよ(笑)。

監督 で、最近そっちはどうなの？

ムロ 何、どさくさに紛れてそんなこと聞いてるんですか！　猫田は自分の思ったことをストレートに言える性格がいいですね。でも、浮気はよくないことですよ。

佐藤 で、最近そっち関係はどうなの？

ムロ 何！　佐藤さんまで！

小柳 仁科はマスターの小さいボケをすべて拾う。そんな優しさがいいんですよね。テンションの高さも、僕と似ていると思います。

白石 林はすぐに空回りして、勘違いから先走ってしまうことが多々あるんです。そういうところが僕にもあって…。マネージャーさんに怒られています。

安田 関口は何考えているか、よく分からない男ですが、実際に僕も同じようなことを言われるんですよ(笑)。そういう意味で、大好きなキャラですよ。完成した映画を見たところ、かなりおいしい役でした。監督、どうもありがとうございました！

佐藤 僕はちょい不良オヤジのマスターですが、本人に悪気はないものの、秘密を守れない。実際の僕は違うけど。

監督 撮影は会話のやりとりを重視したから、長回しが多かったと思うんですよ。そういう状況で、お互い関係を築き上げていくのは難しいことだと思う。でも、結果的にグルーヴ感が生まれていった…。

佐藤 何かカッコいいこと言ってますが。実際は、修学旅行みたいなノリで、話すことといったら、ほとんど下ネタ。下ネタの中に若干、芝居の話が入る感じですからね(笑)。

全員 (爆)。

山本 個人的には、毎日のケータリングが印象深くて。スタジオの中といっても、かなり寒かったので、温かい料理に助けられました。

ムロ そう、スタジオの中にいても寒い。だというのに、ランニング一枚で外でケータリングを食べている山田孝之君が面白すぎた。たまにトイレに行こうと思って外に出てみると、そんなワイルドな男がいるわけだから。

山田 えっ、スタジオの中はかなり暑かったですよ！　確かに外は寒かったけど、我慢して体の芯まで冷やすわけです。そして、暑いスタジオに戻っていく…。

ムロ で、スタジオに戻ったら戻ったで、いきなり握力を鍛える。終始、山田孝之は熱い男だったよなぁ。

全員 (爆)。



秋も深まる時期の取材日。劇中をイメージしたアロハシャツ&短パン姿で集まった7人とトレンチコート姿の安田さん。マイペースな山田さんから弟キャラの白石さんまで、座談会から撮影まで笑いが絶えることなく、異常な盛り上がりで、予定時間を軽くオーバー！


やまだ・たかゆき☆1983年10月20日生まれ。鹿児島県出身。A型。99年に俳優デビューし、05年「電車男」などに出演。今年は本作のほか全4本の映画に出演。「シーサイドモーテル」「十三人の刺客」が10年公開予定。


やまもと・ゆうすけ☆1988年1月19日生まれ。愛知県出身。A型。05年、第18回ジュノン・スーパーボーイ・コンテスト準グランプリ受賞。06年「仮面ライダーカブト」でドラマデビューし、映画・舞台でも活躍。


さとう・じろう☆1969年5月7日生まれ。愛知県出身。A型。96年、演劇ユニット「ちからわざ」旗揚げ。多くのドラマや映画で助演を務め、「幼獣マメシバ」で映画初主演。08年には、「memo」を初監督した。


やすだ・けん☆1973年12月8日生まれ。北海道出身。A型。96年、大泉洋らと演劇ユニットTEAM-NACSを結成。01年「man-hole」で映画初主演するほか、TVドラマ出演やジブリ・アニメの声優も務める。


むろつよし☆1976年1月23日生まれ。神奈川県出身。A型。99年、作・演出・出演を行った一人舞台で俳優活動を開始。その後、「サマータイムマシン・ブルース」や「アフタースクール」などに出演。


こやなぎ・ゆう☆1988年8月29日生まれ。東京都出身。A型。幼少時代からモデルを始め、06年に俳優デビュー。「クローズZERO」「トウキョウソナタ」のほか、NHK連続テレビ小説「つばさ」にも出演。


しらいし・しゅんや☆1990年8月3日生まれ。神奈川県出身。O型。07年、第20回ジュノン・スーパーボーイ・コンテスト準グランプリ受賞。「制服サバイガール」「ごくせんTHE MOVIE」「学校裏サイト」に出演。


ふくだ・ゆういち☆1968年7月12日生まれ。栃木県出身。90年、劇団「ブラボーカンパニー」旗揚げ。放送作家として数多くの番組を手がける一方、DVD「THE3名様」シリーズで一躍注目を浴びる。

CHARACTERS マドンナを射止めるのは誰だ!!


杉本（山田孝之）

前代未聞の勘違い男。
あまりの自信過剰な性格ゆえ、
ストーカー癖もあり。たまにいいことも言う。
また、ヒゲの伸び方が異常に早い。


松山（山本裕典）

サメの研究に夢中すぎる、ガリ勉大学生。
恋愛に臆病な性格だが、
いざというときは頭の回転の速さを使って、
策士へと変身する。


猫田（ムロツヨシ）

自他共に認める、モテない男。
実はブサイクな彼女と隠れて付き合っているが、
浮気願望いっぱいで、
本性をむき出しにする。


仁科（小柳 友）

マスターをはじめ、男連中の
どんな小さなボケも拾ってくれる、
ツッコミ・キャラ。
常にハイテンションな、気のいいお調子者。


林（白石隼也）

何をやっても空回りしてしまう小心者。
勘違いはあたりまえの、天然&弟キャラゆえ、
みんなのいじられ役。


関口（安田 顕）

海の家撤去を伝えにやって来た弁護士。
連中を事情聴取しながら、
彼らの本命説を打破するうちに、
なぜか恋のバトルに参戦する。


マスター（佐藤二朗）

クールな顔をしながらも、
どんな秘密も一切守ることのできない、
おしゃべりオヤジ。
しかも、ボケをかましまくる意味不明さもあり。


マドンナ・江里子（戸田恵梨香）

物語の発端となる、謎多きマドンナ。
意味深な手紙を送り、
イヴの夜に男たち全員を勘違いさせてしまう
小悪魔キャラ。

マドンナをめぐる争奪戦!? おバカ男子の妄想&暴走劇



CHECK IT ! 1

海の家「江の島」がある大洗はココ!

物語の舞台は茨城県大洗市にある大洗海岸。クリスマス・イヴの夜、7人の男たちが集結する海の家「江の島」。





CHECK IT ! 2

男たちの勝手な妄想？ 幻想？

舞台から映画化ながら、劇中に登場する7人の男たちの回想シーン。彼らの妄想がたっぷり詰まったこのシーンは、江里子の謎を解くカギとなっており、ディテールも見逃せない。





CHECK IT ! 3



大洗にも星はふるなり

福田雄一・原作、脚本
相田冬二・ノベライズ
メディアファクトリー刊
600円（税込）

舞台から映画に、そして小説にもなった「大洗～」。あらたな"福田ワールド"が楽しめる1冊。

話題作の脚本を手がける注目の監督

堂本剛主演ドラマ「33分探偵」の脚本で脱力系サスペンスという、新ジャンルを打ち出した福田監督。放送中の小栗旬・水嶋ヒロ主演ドラマ「東京DOGS」の脚本を手がけるなど、大きな注目を浴びている。

大洗にも星はふるなり

原脚監 福田雄一
出 山田孝之　山本裕典　ムロツヨシ　小柳友
白石隼也　安田顕　佐藤二朗　戸田恵梨香 ほか

●11月7日(土)よりシネセゾン渋谷、シネ・リーブル池袋ほか全国公開

茨城・大洗にある、海の家でのクリスマス・イヴ。杉本（山田）や松山（山本）ら、夏に海の家で働いた男が江里子（戸田）の手紙のもと招集。全員が「江里子の本命は自分」と言い張る中、弁護士の関口（安田）が彼らの本命説を論破していく。 ➡P62







『スノープリンス　禁じられた恋のメロディ』

森本慎太郎

雪深き山里を舞台に、どんな過酷な状況でも、いつも元気な笑顔をふりまく
主人公・草太役で、堂々のスクリーンデビューを果たした森本慎太郎。
計算高さのカケラもない、そのピュアなけなげさは、森本自身の無垢な魅力と重なるよう…。
そんな彼の、ストイックな役作りへの執念にはビックリ！

Photo by Hiromi Miyasaka　Text by Kaoru Endo
Hair & Make up by Yumi Nakata　Styling by Kouichi Gotawa

草太に少しでも近づくために、食事の量を減らしたりしました





吹雪のクライマックスでは顔面が凍ってパキパキに

台本をもらって、何回も何回も読んだんですけど、初主演ってこともあってすごく不安で。僕には無理かも…と思い、お母さんに相談したら「やらないとダメ。頑張って！」って言われて。家で台本の読み合わせをしながら、毎日頑張りました！ 不安だった理由はほかにもあって、映画って朝すごく早く起きないといけないじゃないですか。ちゃんと起きられるかなって(笑)。あとNGを出したらどうしようかなとか…。実際何度かNGは出しちゃいましたけど、でも皆さん優しかったので大丈夫でした。

僕の演じた草太は、どんなにツライ状況になってもいっつも明るく笑ってる子なんです。僕も明るいほうだけど、草太の明るさには負けちゃいましたね。僕がもし草太と同じ状況になったらあんなに明るくはできない。絶対無理です(キッパリ)。でも少しでも草太に近づくために、普段から食事を減らしたり、家の手伝いをするようにしました。草太は貧しくてご飯もあんまり食べられないのに、いつもおじいちゃんの手伝いをしてる子なんで。それなのに僕が太ってたらダメだって思ったんです。でも一度だけ、どうしても我慢できなくて隠れて食べてしまって…。それで、反省してどうしたらいいのか考えて、どうしてもおなかが空いたときは、友達と外に遊びに行くことにしました(笑)。楽しくて忘れちゃうんです！ そのせいか撮影中は体重が減りましたね〜。撮影が終わっても、少ない食事に慣れちゃってて、前と同じ量が食べられなくなってしまったんです。だけど、今度は残すともったいないなって思ったので、無理やり詰め込んでました。

撮影で大変だったのは、やっぱり寒かったことです(※撮影は真冬の山形ロケ)。すぐに鳥肌が立っちゃうので、体中にカイロをはりまくって。どうや





って乗り越えたか？ う〜んと、それはカイロが切れたらまたはり替えて…(笑)。吹雪の中の撮影は、左の顔面がパキパキに凍っちゃって。でも我慢しました！ ロケ自体は楽しかったですよ。最初のころは、早く家に帰りたいって思ってたんですけど、慣れてくると思わなくなりました。あ、でも最終日は、これで家に帰れる〜！ とは思いましたけど(笑)。山形でおいしかったものは…撮影中に食べたホカホカの親子丼。特に名産品とかではないんだけど、とにかく寒いから温かいものがすごくおいしく感じたんです。あとはストーブの上に雪を載せて、その溶け出した雪の中におはしに刺したバームクーヘンをつけて食べるのが、めっちゃくちゃおいしかった！ 共演した男の子たちが最初にやり始めて「おいしい！」って言うから、みんな急に作り始めたんです(笑)。

今回素晴らしい俳優さんたちと共演できたことは本当にうれしかったです。浅野(忠信)さんは、すごく優しくて。でもあんなに寒いのに、全然寒さとか感じさせなくて、普段のままで自然にお芝居してくれるので、とてもやりやすかったです。ピエロ姿がとても似合ってて、何度か笑いをこらえるのが大変なシーンもありました。中村嘉葎雄さんも本当のおじいちゃんみたいで。すごくお芝居が上手なので、僕も自然と本物の気持ちになってきて、自然と草太になれたような気がします。香川(照之)さんは、役ではすごく怖いんだけど、実際はめちゃくちゃ面白くて優しい人。松岡(錠司)監督と2人でお笑いコンビみたいな感じで、いつも現場を盛り上げてくれました。あとやっぱりチビ(犬)ですね。ずっと一緒にいたから、僕の言うことは大体聞いてくれましたよ。でも一度だけ、撮影中にチビが逃亡してしまったんです！ 何度も同じシーンをやるから、飽きちゃったのかな(笑)？ あのときはスタッフさんも焦ってたけど、なんとかスタッフさんが止めてくれて大丈夫でした。その後、すぐにOKが出てよかった。僕は昔から犬が大好きなので、今回チビと共演できて本当にうれしかったです。

完成作を見たときは、自分の顔がスクリーンにでっかく出てきてすごくビックリした(笑)。でも、とても感動できる作品になっていたので安心しました。今の僕のベストは尽くせたと思います。いろんな人に見てほしいけど…、学校の友達には恥ずかしいから言いません(笑)。

「泣ける映画は？」

『HACHI 約束の犬』です。あんまり普段泣いたりしないのに、これはやばかった！ 犬モノには弱いです。



Back Shot Story

12歳とは思えない、しっかりした受け答えで話してくれた慎太郎君。でもクリスマスの思い出を聞いたら「もらったプレゼントはお願いしてたのじゃなかったんですよ(笑)」と一瞬ヤンチャな少年の顔に。また、この日長時間撮影で一緒だったタレント犬のアイちゃんとはすっかり仲良し！ スタッフが黙っていても自然と慎太郎君に寄って行くアイちゃんなのでした。





Shintaro Morimoto

もりもと・しんたろう
1997年7月15日生まれ、[illegible]県出身。A型。
ジャニーズJr.の一員[illegible]活動[illegible]同時に[illegible]ロとしても舞台[illegible]ドラマなどで活躍。
主な出演作品はドラマ「ドラマ8[illegible]バッテリー」(08)、
「恋して悪魔～ヴァンパイア[illegible]ボーイ」(09)、「働くゴン!」(09)など。

5 ＊スノープリンス＊ QUESTION!

Q.雪(スノー)の遊び方といえば？
雪合戦。東京でも雪が降ると、友達と集合して本気でバンバン投げ合います！ 撮影中もほかのキャストはやってたみたいだけど、僕は時間がなくてできなかった…。残念です。あとは昔から習ってるスノーボード。

Q.王子様(プリンス)のイメージといえば？
テニスを題材にしたマンガかな？

Q.初恋はいつ？
初恋って…(しばし考え込む)。小学校1年生のころですかねぇ(照)。

Q.クリスマスの思い出は？
おととしのクリスマス、朝の5時くらいにピンポーンってインターホンが鳴って、出てみるとプレゼントが置いてあったこと。お父さんもお母さんも寝てたので、不思議だな〜と思いました。

Q.今年の冬にしてみたいことは？
スキー場でスノーボードを縦にして勢いよく滑ってみたいです！ 絶対行きたいなあ。



松岡監督と一緒にいると、
自分の中の何かが
浄化されていくようでした

『スノープリンス　禁じられた恋のメロディ』

浅野忠信

ミステリアスなサーカス団の青年・萩尾を、さすがの存在感で演じた浅野忠信。デビュー以来、実に約20年ぶりとなる、松岡錠司監督との再会。そしてフレッシュな森本慎太郎との共演をあらためて振り返ってもらう。

Photo by Hiromi Miyasaka　Text by Kaoru Endo
Hair & Make up by Katsuhiko Yuhmi(THYMON)　Styling by Takashi Kumagai(KiKi inc.)

ノスタルジックなサーカスのセットにワクワクした

　これまでにいろいろな役をやらせてもらってきましたけど、（サーカスの）ピエロっていう役柄は初めてだったのですごく面白かったですね。僕は今回、サーカスのテント内でのシーンが多かったんですが、テントのオープンセットを見たときは本当にワクワクしましたねぇ。サーカスは小さいころ連れていってもらったり、あと18、19歳のころデートで行ったりした思い出があるんですが、今回のサーカスは、僕が知っているサーカスともちょっと違う、ノスタルジックな雰囲気というか…それこそ映画でしか見たことのないような世界で。夢の中のリアリティーみたいなものを感じて、ドキドキしました。

　僕が演じた萩尾っていう人物は、いろいろと複雑なバックボーンを抱えているので、最初は少し戸惑ったんです。ピエロのときはコミカルな要素も必要だけど、普段とのギャップも出さないといけない。初めは普段からコミカルな人なのかな？　と思ってたんですけど、そうじゃなかったので。でも松岡（錠司）監督はそのさじ加減を、とてもうまく描いてくれたと思います。萩尾が詩を読むシーンでは、彼の抱えているものが表れているようで…。非常にいい役を頂いたなと思ってます。草太への接し方も、自分が萩尾の状況に置かれたらどうするだろう？　って、いろいろ想像しながら演じていました。でも基本的に愛情の深い人だと思うので、草太には常に優しく、彼の可能性を伸ばすことを考えてあげるような気持ちでやりました。





　ロケに関しては、確かに寒かったですが、僕は（森本）慎太郎君ほどの日数は参加してないこともあり、『劒岳 点の記』に比べると、そんなにツラい思いもしませんでした（笑）。『劒岳～』も雪の中の撮影だったんですが、同じ雪でもこうも違うかと（苦笑）。あとは可愛い慎太郎君もいたし、松岡監督がいつもいいムードをつくってくれていたので、リラックスして現場にいられました。

　慎太郎君との共演は楽しかったですよ。彼のフレッシュさには魅せられましたね。いろんな話もして、すごく仕事に対して熱心に考えてるんだなっていうのが伝わってきて。僕が彼の年齢のとき、そこまで考えてたかなとか思ったし。1人の男としてここまで頑張れるもの（仕事）があるって、年齢に関係なく素晴らしいなぁと思いましたね。大人になると何でもまじめにやることだけを考えたりしてしまうんですけど、慎太郎君を見てると〝そうじゃないよな〟って思うんです。例えば、僕がピエロになっているシーンで、僕は一生懸命やってるんですけど、その動きがコミカルだったみたいで、どうしても慎太郎君が笑っちゃうことがあったんですよ。頑張って笑いをこらえてるのが分かって、それが僕もおかしくなっちゃって（笑）。何か久しぶりに、楽しい撮影をさせてもらったなと思います。もちろん仕事なんだけど、現場にいて素直に楽しいとか、面白いとかって感じることは必要で。それを慎太郎君から、あらためて教えてもらった気がします。今日の取材の前には慎太郎君から、きちんと連絡をくれました。でも間違えて3回くらい同じメールが来ていて、そこも可愛いんですけどね（笑）。

慎太郎君の演技にはホロッときました

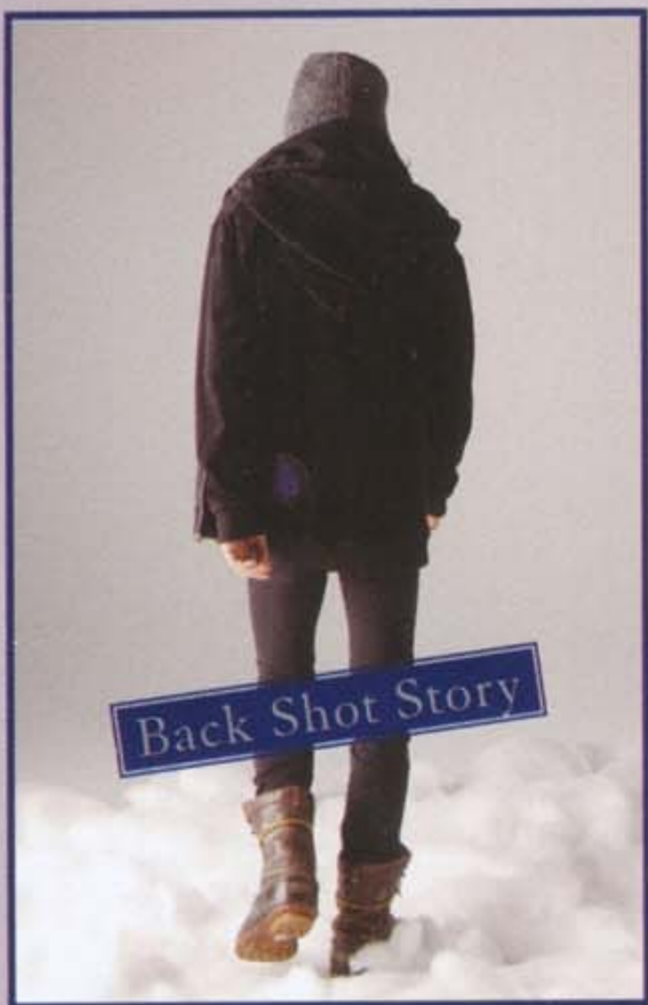
　今回、僕にとって一番大きかったのはデビュー作（『バタアシ金魚』）以来の松岡監督とのお仕事っていう点ですね。約20年ぶり…僕自身も当然すごく変わったと思いますが、監督も変わったと思います。慎太郎君に対する接し方を見てても、すっごく優しいんですよ！　僕の中ではとても厳しい人っていう印象があったので、変わったな～と。円くなったっていうのとも違って、いろんなものがいい意味でそぎ落とされたって感じかな。特に、当時の話をしたってわけじゃないんですが、現場で監督と一緒にいると妙に居心地がよくて。自分の中の何かが浄化されていく感じがしましたね。正直、『バタアシ～』のときは、〝もう二度と役者なんてやらない！〟と思いましたから（笑）。監督がどうこうってことではなくて、やっぱり映画の現場って、当時の僕にはすごく大変で。二度とこんな大変なことやりたくないって思ったんですね。本当にいろんなことがありましたから…。僕、『バタアシ～』のパンフレット（のインタビュー）で、そう正直な感情を散々言っちゃったんですよ。そしたら数年後、監督にお会いしたとき「おまえ、俺のこと恨んでるらしいな！」って言われたのを覚えてます。慌てて「恨んでないです！　感謝してます！」って言いましたけど（笑）。その後も何回かお会いはしてたんですけど、仕事をすることはなくて。避けてたわけじゃないですよ（笑）。でも僕もワガママですからね。こんなワガママな俳優にまた声をかけてくれたっていうのは、ありがたいなぁと思いました。現場でも言いましたけど、この作品に関しては脚本を読む前に、松岡監督から頂いたお話ってことだけで、もう出演を決めてたんです。何か自分の中でいろんなことがちょうど一周したような感覚が勝手にあって、ここでもう一度リセットできると思ったんですね。僕にとっては、本当にいいタイミングでした。

　完成作を見て、自分が出ているにもかかわらず妙に感動しました。こういうタイプの作品に僕が出ることって実はこれまでにあんまりなくて、素直にいい映画だなぁと思いましたね。ラストはもちろんなんですが、途中途中、慎太郎君のちょっとしたしぐさとかに、ホロッときて。自分に子供がいるからかもしれないですが…。決して恵まれているとはいえない状況でも、考え方によっては違う生き方ができるってことを、大人ではなくてピュアな子供たちが証明してくれる。子供が主体になっている映画って、素敵だなと思います。

泣ける映画は？

『ある子供』です。エンディングが本当によくて、すごく泣きましたね。普段から映画を見ると、泣きまくりますよ（笑）。小さいころから涙腺は弱いので、僕にとって泣くことはわりと日常なんです。

衣装協力／パーカー、ベルト（JEAN DIADEM／アノレ）　カットソー、ニットキャップ、ガーゼストール（SHELLAC／シェラック プレスルーム）　レザーブレスレット（WENDY'S&Foot the coaeher／ナノ・ユニバース グランドフロアー渋谷）　ストレッチパンツ（APRIL77／ナノ・ユニバース グラウンドフロアー原宿）　レインブーツ（LABORATORY／BERBERJIN®）



この日、久々に慎太郎君と再会したという浅野さん。慎太郎君が現在（子犬時代を演じた）“チビ”を実際に飼っていると聞き、「ほんとに!?」とビックリ。「共演した人とずっと一緒にいられるなんて、すごくいい話だよね」とほほ笑んでいた浅野さんは、もちろん“大の犬好き”だそうです。



Tadanobu Asano

あさの・ただのぶ
1973年11月27日生まれ。神奈川県出身。A型。
90年『バタアシ金魚』でスクリーンデビュー以降、
日本映画界になくてはならない存在に。現在『ヴィヨンの妻～桜桃とタンポポ～』が公開中のほか、
11月14日(土)より『劒岳 撮影の記 標高3000メートル、激闘の873日』が公開される。

少年と少女の切なくピュアな恋、そして犬との友情を描く感動ストーリー





CHECK IT! 1

CG全盛の時代に "リアル"にこだわった映像

初主演とは思えない安定した演技力と、ピュアな笑顔で観客を魅了する森本だが、本人は「監督からは"いつもどおりで"と言われたので、そのままやりました」とケロリ。大物である…。実は森本のナチュラルな芝居を引き出すために、松岡監督はこのCG全盛の時代、あえてリアルな映像にこだわった。雪の冷たさ、火の熱さ。すべて森本が肌で感じたものだからこそ、本物の表情が撮れたともいえるのだ。

CHECK IT! 2

森本も絶賛した古きよき日本家屋の魅力

山形の庄内で大々的なオープンセットを組んで行われた、本作の一大ロケーション。草太たちが暮らす貧しい家のセットに、最初「雨が降ったらビショビショになるかと思ってた」という現代っ子の森本だが、今ではすっかり古きよき日本家屋のとりこになった様子。特にわらぶき屋根の"におい"が気に入ったらしく「わらの匂いがいいんです。何か心が温まりました」と大人な発言をするまでに! 細部まで徹底的にこだわった、美術スタッフの努力も報われたというもの。









CHECK IT! 3

松岡錠司監督×小山薫堂(脚本)の強力タッグが実現

『東京タワー　オカンとボクと、時々、オトン』で日本アカデミー賞最優秀監督賞を受賞した名匠・松岡錠司監督と、米アカデミー賞外国語映画賞を受賞し、国内外で大ヒットを記録したご存じ、『おくりびと』の脚本家・小山薫堂という強力タッグが実現。日本の原風景を思わせる風光明美な大自然、そして時に人間に牙をむく厳しい大自然の姿を余すところなくとらえたオリジナルストーリーは、世代を超え観客の心を震わせる。

スノープリンス 禁じられた恋のメロディ

監松岡錠司　脚小山薫堂
出森本慎太郎　チビ
桑島真里乃　香川照之　檀れい
マイコ　山本學　浅野忠信
中村嘉葎雄　岸恵子 ほか
●12月12日(土)より
全国松竹系にて公開

昭和初期——。祖父と秋田犬の"チビ"と貧しい暮らしを送る10歳の草太(森本)は、いつも笑顔の明るい少年。同い年の早代(桑島)とはいつも一緒だ。だが早代の父は、2人が仲良くするのをよく思わない。ある日、草太は町にやって来たサーカスの団員・萩尾(浅野)と出会う。 ➡P62

Characters



有馬きよ／檀れい
早代の母。夫・政光の意向は重々承知しながらも、早代の草太への想いも深く理解する優しい母親。幼いころから草太のことも可愛がる。



有馬政光／香川照之
早代の父。村の実力者で、裕福な家庭を築く。ゆくゆくは早代にも金持ちのいいなずけをと考えており、草太との間を引き裂こうとする。



有馬早代／桑島真里乃
裕福な家庭に育つ、草太と同い年の少女。幼いころから草太の絵を描くときの真剣な横顔が大好きで、いつも一緒に行動していたが…。



原田草太／森本慎太郎
祖父と"チビ"と貧しい暮らしを送る10歳の少年。貧しさから学校にも通えないが、いつも笑顔を絶やさない。絵を描くことが大好き。



有馬早代(現代)／岸恵子
現代の東京で、静かに余生を送る早代。突然の老紳士の訪問で、思いがけず懐かしい草太との記憶[illegible]かれることに。



原田正吉／中村嘉葎雄
草太の母の死後、草太を男手ひとつで育ててきた、働き者で心優しい祖父。草太に[illegible]人をねたむなと教える。



萩尾／浅野忠信
町にやって来たサーカス団の不思議な青年。草太の隠していた気持ちをピタリと言い当てたことから、草太に慕われるようになるが…。



老紳士／山本學
突然、現代の早代の元にやって来た謎の老紳士。留守中だった早代に代わり、分厚い原稿の束を康子に託していく。その正体は…?



長谷川康子／マイコ
現代の早代の孫娘。いわゆるドライな現代っ子だが、祖母と草太の物語を知り、自身の気持ちにも大きな変化が。



常に強くありたいと思いつつ、女性らしさは見失いたくない

『アサルトガールズ』

黒木メイサ

世界的に知られる映像監督・押井守、8年ぶりの長編実写映画『アサルトガールズ』で、美しいハンター・グレイを演じた黒木メイサ。同性から絶大な支持を得る彼女が、初体験づくしの撮影を振り返り、憧れの女性像について語った。

Photo by Rena Fujimoto Text by Hibiki Kurei
Hair&Make up by Atsushi(HEADS) Styling by Maya Matsushita




Meisa Kuroki

ちょうどこの作品の出演依頼を頂いたとき、私自身が新しいことに挑戦したいと思っていた時期だったので、ぜひ押井(守)監督の世界観に入ってみたいと思ったんです。でも、頂いた台本が絵コンテだったんです。それだけで、これまでの映画とは違うことを実感しました。その後も、伊豆大島の現場では、共演のお2人とお会いすることもなく、1人だけで芝居を作っていったり、最後にはすべてのセリフをアフレコで入れていったりと、本当に初めてづくしでした(笑)。

台本を読んでいる時点では正直、私が演じたグレイは1人の女性としてそこに存在すべきなのか、それとも誰かに操られているゲームのキャラクターとして演じるべきなのか、結論を出すことができなかったんです。でも、監督からゲームの中に入り込んだ状態と考えてくれ、と言われたことで随分助かりましたね。

ほかにも、空手をベースにアクションを作りたいという監督のこだわりから道場に通いましたし、銃器に対してもこだわりがある方なので扱い方に関しては、ほとんど監督に指導してもらっていました。今までも武器を持って戦う役柄はあったんですが、銃弾の捨て方まで、といった細かい動きを監督自らに指導してもらうということは、さすがになかったんです。

そんなふうに、初めてづくしで、戸惑いの連続だったんですが、実際に完成した作品を見たときは、驚きの連続でしたね。CGとの合成も確かに素晴らしいですが、景色に関してはCGではなく、伊豆大島の大自然の姿、そのままなんです。今の日本に存在する、壮大なその世界観を皆さんにぜひ見ていただきたいですね。また、ほかの女優さんのお芝居もそこで初めて見たので、そういったことも新鮮でした。

自らのイメージと監督の言葉だけを信じた演技

最初のお仕事だったということもあるのかもしれませんが、舞台がとにかく好きなんです。演じる側としては、最初から最後までその役を生き抜けるということが快感なんですね。そこでお芝居の楽しさみたいなものを感じたので、体が動く限り、今後も舞台はやっていきたいと思っています。そういう意味でも、つか(こうへい)さんとのお芝居(「熱海殺人事件・平壌から来た女刑事」)は、人生の転機となった作品だったのではないでしょうか。

その後に出演させていただいた、最初の映画『同じ月を見ている』での映像のお仕事は、もう戸惑いだらけでしたね。カメラの前に立った経験はないですし、(舞台の)板の上に立つのとでは、全く環境が違う。そんな現場に慣れなくてはいけない状態なのに、最後のシーンから撮り始めたりとか、自分の感情の流れをどう持っていっていいのかも分からなくて。今思うと、かなり混乱していましたよね(笑)。私自身、映像の世界は、今もまだ慣れていないと思っていますし、いつも緊張しているんですよ。

自分の役に関しては、ある程度のビジョンを固めてから現場に入りますけど、確かに現場に行ってみないと分からないことが多いです。相手の役者さんのお芝居を受けて、初めて成立するものですからね。今回の『アサルトガールズ』は、相手の役者さんがいないので、自分の中のイメージと監督の言葉を信じて演じていました。

気がつくと、ずっと役柄に入り込んでいることがあるんです。特に意識しているつもりはないんですが、例えば舞台中に受けたインタビュー記事を後になって読み返してみると、自分が言った覚えがないような発言が多いんですね(笑)。だから、同じ役柄を後になって演じるときは、そのときの感覚を取り戻すのが大変ですね。『クローズZEROⅡ』のときは、1作目の台本を読み直したり、DVDを見返したりしていました。もしも「任侠ヘルパー」ののりこ役を再び演じることになったら、と考えた場合、基本的にはあの男性だらけの独特な現場に行けば、何となくはつかめると思うんですが…。

仕事として、女性の強さを表現することを求められることが多いのですが、私自身も強い女性には憧れます。し、強がっている人に限って、弱い部分が目立つと思うんですよ。そういうところを含め、人間としてひかれますし、それを演じられるのが本当に楽しいんですよ。

1人の女性としては、強くありたいと思いつつも、やはり女性らしさは見失わないようにしたい。つまり、自分で立たなくてはいけないところはしっかり立ち、甘えるところは甘えていきたい。女性は子供を産んで、それを守ろうとする力があるので、基本的には強い生き物だと思うんです。きっと、何かに対して愛情を持つということは大事なんですね。

これから、『SPACE BATTLESHIP ヤマト』の撮影に入りますが、これまでと違うヤマトが生まれそうな気がしますね。台本を読む限り、私が演じる森雪は原作よりも強い女性ですし、CGが多い作品になりそうなので、今回の『アサルトガールズ』での経験が役に立つかもしれませんね。

「泣ける映画は？」

『ミリオンダラー・ベイビー』は今までに10回ぐらいは見ていて、いつも同じタイミングで泣いてしまうんですよ。血のつながりだけじゃなく、人と人との絆をしっかり描いているという点が好きですね。

衣装協力／ジャケット¥50,400、サテンデニム¥30,450(共にMIHARAYASUHIRO/SOSU MIHARAYASUHIRO)



くろき・めいさ
1988年5月28日まれ。沖縄県出身。A型。モデル活動後、04年に舞台デビュー。05年には「同じ月を見ている」で映画デビューし、「着信アリFinal」「クローズZERO」「昴　スバル」などに出演。「任侠ヘルパー」など、TVドラマでも活躍する一方、歌手デビューも果たしている。



草彅剛さんが表紙を飾った前号を手に取ると…「あ、アニキだ！」とひと言漏らした黒木さん。本誌の取材は取材日のラストでしたが、疲れた顔など一切見せず、熱く語ってくれました。取材中、彼女らしい凛々しさはもちろん、垣間見える21歳らしい可愛らしさが印象的でした。

Characters



ルシファ（菊地凛子）
少女のような行動を取るかと思えば、巨大なカラスに変身し、空を自由に飛び回る魔導師。青白い光線を発するほか、必殺技も持つ。

グレイ（黒木メイサ）
光学迷彩戦闘機を乗りこなし、50口径ライフルで標的を次々撃破する狙撃手。また、格闘技にたけており、軽々と大男を倒すほど強い。

カーネル（佐伯日菜子）
改造型オートマティックライフルを抱える戦士だが、母親の顔も持つ。最終手段である降下猟兵"Temjin"を起動させ、決戦に挑む。

アサルトガールズ

監脚押井守　撮湯浅弘章　佐藤敦紀
音川井憲次　美黒川通利
出黒木メイサ　菊地凛子　佐伯日菜子
藤木義勝 ほか

●12月19日(土)よりテアトル新宿、池袋テアトルダイヤほか全国順次公開

熱核戦争後の荒廃した地表を模した、砂漠の戦場。アサルトライフルなどの銃器を手にフィールドを駆ける、3人の美しきハンターたち。巨大モンスターの群れが地を這う中、突然変異の超大物マダラスナクジラを仕留めようとするが…

➡P64



Check it
監督は世界的奇才の押井守！

『イノセンス』がカンヌ、『スカイ・クロラ』がヴェネチアと、三大映画祭に出品されるアニメ監督の枠を超えた映像作家。95年の『GHOST IN THE SHELL-攻殻機動隊-』はJ・キャメロンらが絶賛、『マトリックス』の元ネタになった。



Director's Comment

黒木さんは全く生活感がなく、年齢不詳なところもあるので、ファンタジー向きの女優だと思ったんだ。それに、何よりあのスタイルだよね。ボディスーツを着させて、砂漠に立たせただけで、問答無用に絵になるんだ。

人の優しさを肌で感じました。



『なくもんか』

阿部サダヲ

『舞妓Haaaan!!!』の監督・脚本・主演トリオが再結集した『なくもんか』で、タイトルを裏切るように泣きまくる主人公・祐太をパワフルに演じてみせた阿部サダヲ。どこを切り取っても彼にしかできないキャラクターについて、そして魅惑の"水田監督ワールド"について大いに語ってもらいます。

Photo by Seiro Ozawa　Text by Kaoru Endo
Hair & Make up by Eisuke Arakawa (areas)
Styling by CHIYO (CORAZON)


水田監督の発想はすごい。
『海女Saaaaan!!!』とか…（笑）

祐太は究極の八方美人 でも、昔は僕も…

　今回の祐太役は、僕からしたら想像がつかないすごい人生を生きてきた人間だったので、難しかったですね。複雑な生い立ちを微塵も出さずにいつも笑顔ってところも、究極の八方美人というか、お人よしというか…。でも、意外とこういう人いるかもなぁって。僕自身も、子供のころはみんなに嫌われないように、八方美人になってましたからね(笑)。

　同じ水田(伸生)監督の『舞妓Haaaan!!!』とは全然違う作品なので比べようがないですけど、あえて言うなら今回は完全に"受け"のキャラクターでした。だから今回は瑛太君や竹内(結子)さんの芝居を"受ける"楽しさがありましたね。瑛太君はクライマックスの沖縄のシーンがいきなり(瑛太の)初日だったので、これは大変だろうな～と。珍しく「大丈夫?」みたいなこと言っちゃってね! 兄貴ヅラしちゃったのかもしれないですね(照笑)。でも、そのときの瑛太君の感じも、なんかすごくよくて。お互いタイプが似てたのかもしれません。2人ともよく"黙ってる"って言われるけど、話すことがないんですよね(笑)。話すことがないのに無理して話さなくてもいいじゃないですか!? それをお互い理解してるから、すごく一緒にいて楽でした。時々2人して、無駄なウソをつき合うこともありましたね。心にもないことを言い合ったりして(笑)。





　竹内さんも、タイプは違うけど、瑛太君と同じで楽なんですよ。僕が蹴られるシーンがあったんですけど、本気でやってくださいなんて言わなくても蹴ってくれる方ですから(笑)。僕より全然若いんですけど、何かお姉さんな感じというか、独自の考え方を持ってる方で、それがどこかで読んだことじゃなくて自分のオリジナルな感じ…それがとても信用できるんです。沖縄でみんなでご飯を食べに行ったんですけど、気づいたら別のテーブルの全然知らない現地の方たちと、普通に「そうだよね!」なんて話してて(笑)。そこまでサバケてるんだ、と。あと竹内さんは、徹子(役)の"めんどくささ"を本当によくつかんで演じてらっしゃるなと思いました。なんか今回は、めんどくさい人って、男女問わず面白いなと思いました。

いまだに何考えてるか 分からない宮藤さん…

　今回、瑛太君にしても竹内さんにしても"初のクドカンワールド!"なんて言われてますけど、僕からしたらそれは違うんです。むしろ"水田ワールド"というか…。(脚本の)宮藤さんも水田監督の世界観に近づけた、みたいなことを言ってましたし。それは昨日初めて聞いたんですけど(笑)。よく僕と宮藤さんはプライベートでもベッタリみたいに思われてるんですけど、全然そんなことないんです。「今度はハムカツ屋やりましょうよ」とか話してないですし(笑)。確かに仕事で一緒にいる時間は長いけど、いまだに何を考えてるか分からないですもん。今回も「こういうの(家族もの)も書くんだ」って、あらためて思いました。この脚本だって、バンド(グループ魂)の活動をやってる時期に書いてたって聞いてビックリしました。でも、そういうのを微塵も出さない宮藤さんとの関係が、僕は好きなんですよね。

　あとやっぱり、水田監督は発想が本当に面白いんですよ。現場で思いつく発想もギャグも、僕にはとても思いつかないものばかり。僕が思いつくのは、せいぜい沖縄の方言を露骨に使うシーン(「〇〇さぁ～」を連発する)で、1か所「〇〇サ～!」って卓球の(福原)愛ちゃんのマネをするくらいですから…。タイトル1つにしても、『海女Saaaan!!!』みたいなのも考えてたらしいですよ。僕が海で海女さんに助けられて…っていう、最終的には和製ジャック・マイヨールみたいな話らしいんですけど(笑)。あと、今回も出てきますけど、"白ブリーフ"は水田さんのこだわりアイテムですね。衣装合わせのとき、もう決まってたというか…「当たり前じゃん?」みたいにブリーフが置いてありました(笑)。

　相変わらず、自分が主演だからとか、そういう意識は全くないですね。こういう取材で大勢の方に囲まれるときに(主演だと)感じるくらいで…。これは絶対に言いたかったんですけど、"善人通り商店街"の皆さん1人ひとりが素晴らしいです! 全員にストーリーがあって、朝、昼、夜で全部会話が完成されてるんです。あの商店街もオープンセットだと思われてる人がいるみたいですけど、スタジオに組んでますからね。すごくリアルなセットを! あの商店街のシーンは、かなり長回しが多かったんですよ。クリスマスから正月に変わっていくシーンも長回しだったんですけど、全員、カメラが外れた瞬間に着替えてるんです。舞台ではよくやる"早替え"を映画でやったのは僕、初めてですね。あまりによく出来すぎていて、皆さんあまり気づかないみたいなので、ここで言っておこうと思って(笑)。

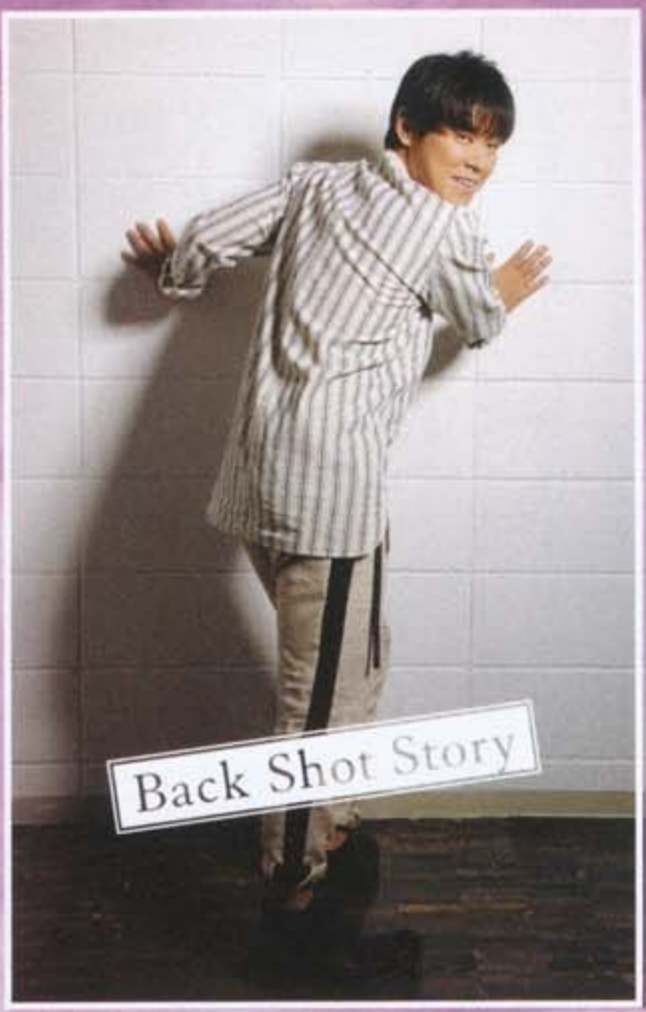
　実際、撮影前はいろいろな商店街に足を運びましたね。ハムカツを揚げる練習もしましたけど、ハムカツはラードで揚げるのが絶対おいしいってことは、作品のメッセージ(!?)として言っておきたいところです。商店街って、みんながお互いのことを知ってる感じがいいですよね。すごい好きですね～。勝手に人の家に上がり込んだりとか。よくないですか? 最近、ああいう感じ減ってきてますよね。近所の人たちが全部知ってるのって、逆に安全じゃないですか。今回、いろんな商店街に行って、人の優しさを肌で感じました。「見てるよ!」なんて言われるとテンション上がっちゃいます。でも、「見たよ!『花魁aaaan!!!』」って言われたりして…。でも、それでいいんです! 僕、そういうのは絶対否定しないんです(笑)。

泣ける映画は?

『フル・モンティ』。ダメな人たちが頑張るものに弱いんです。

SADAWO ABE





「普段こんな大勢の方に囲まれないんで…」と言いながらも、笑いの絶えないインタビューで盛り上げてくれた阿部さん。あるシーンでの自身の顔が「自分のお母さんにそっくりで集中できなかった」など、爆笑エピソードはまだまだありました!

SADAWO ABE

あべ・さだを
1970年4月23日生まれ。千葉県出身。A型。92年より「大人計画」に参加。以後、舞台、テレビ、映画など[illegible]躍中。07年、『[illegible]Haaaan[illegible]で映画[illegible]。そ[illegible]『ヤ[illegible]』[illegible]転車』など映画出[illegible]ブ[illegible]のボーカル[illegible]

衣装協力/ジャケット(fiiju/homo Faber) ベスト、パンツ(YANTOR/homo Faber) シャツ(YAB-YUM/YAB-YUM) 靴(スタイリスト私物)

昔ながらの商店街で繰り広げられる、笑いと涙の物語

Characters

デリカの山ちゃん



山岸徹子(竹内結子)
初代店主夫婦の1人娘。かつてはハムカツの食べすぎで肥満児だった。10数年にも及ぶ謎の"家出"期間を経て、突然帰宅。超美人に変貌し、祐太と結婚。

夫婦



下井草祐太(阿部サダヲ)
「デリカの山ちゃん」2代目店主。頼まれたことは決して断らない、究極のお人よし。幼少期に父親に捨てられ、弟と生き別れたという暗い過去を持つ。

親子



山岸安江(いしだあゆみ)
「山ちゃん」初代店主・正徳の妻。正徳の死後、ショックから認知症になり、祐太を夫だと思い込み甘える。



みどり(片桐はいり)
ミニスカ&ハイソックス&ハイトーンボイスがトレードマークの「山ちゃん」パート店員。祐太を慕い支える。

兄弟

金城ブラザーズ



下井草祐介(瑛太)
兄弟漫才"金城ブラザーズ"の(ニセ)弟で、ボケ&ロマンチック担当として大ブレイクするが、実は祐太の生き別れた弟。じゃっかん"KY"!?

コンビ



金城大介(塚本高史)
"金城ブラザーズ"の(ニセ)兄で、ツッコミ&アカデミック担当。役者としても売れ始めた祐介に、いつ捨てられるか内心おびえている。



トシちゃん(皆川猿時)
商店街の酒屋の息子で、祐太とは幼なじみ。単純明快で分かりやすい性格。安江には村田英雄だと思われている。



中やん(小倉一郎)
商店街の豆腐屋さん。毎朝(勝手に)山岸家に上がり込み豆腐を届ける。安江にはスパイダーマンだと思われている。





CHECK IT! 01



宮藤官九郎初の"家族"ドラマはやっぱり異色!?

"家族"という普遍的なテーマに真っ向から挑んだ宮藤官九郎。笑いあり、涙ありという点ではいわゆる温かい"ホームドラマ"と変わらないのだが、宮藤ファンを裏切らない"異色さ""おかしさ"は満載なので、ご安心を。時に笑いと紙一重のダークさ、人間の業(!?)までをも描きつつ、観客の間口をグッと広げたところはさすが。笑えるのに、たまらなく切ない、究極の二面性をあぶり出す脚本はいつもながら完成度高し!



CHECK IT! 02

二枚目俳優2人が"兄弟"漫才に挑戦!

「ど〜も〜!」と威勢よく登場する2人は、瑛太×塚本高史という何とも贅沢なコンビ。最近いかに二枚目な芸人が増えたとはいっても、やっぱり本物の二枚目にはかなわない。そして本物の芸人ばりに、至ってナチュラルにネタを披露する2人に目がくぎづけになる。そのネタがまた微妙なところが、たまらない! 特に、演技とはいえ渾身の一発ギャグでスベりまくる瑛太は絶妙。かなり心臓が強い感じも◎です!

なくもんか

監水田伸生 脚宮藤官九郎
出阿部サダヲ 瑛太 竹内結子 塚本高史 皆川猿時
片桐はいり いしだあゆみ ほか

●11月14日(土)より全国東宝系にて公開

幼いころ、ムチャクチャな父親に捨てられた祐太(阿部)は、親代わりとなった「デリカの山ちゃん」初代・店主夫婦の恩に報いようとばかりに働きまくる。いつも笑顔でハムカツを揚げ続ける祐太だが、生き別れた弟・祐介(瑛太)が人気芸人になっていることを知り…。

➡P62







SUZUKI & ARAKI
TRADING CARD 2010.1 ON SALE

"鈴木裕樹・荒木宏文" VOL.2 トレーディングカード

待たせしました！ 全国のD-BOYSファンの熱いリクエストにより"鈴木裕樹・荒木宏文" VOL.2 トレーディングカードが2010年1月に発売決定！
年8月に発売されたズキアラファイナル写真集「鈴木裕樹360°」「荒木宏文-360°」からの未公開カットやオフショット、そしてプライベートショットを完全
ード化！ 大好評の直筆サインカード・直筆メッセージカード・生写真カード・生チェキカードそして衣装カードなどのレアカードも1ボックスに1枚封入決定！！



格：1パック7枚入り ¥630（税込） 1ボックス42枚（6パック）入り ¥3,780（税込）
時発売：専用バインダー（9ポケットシート1枚付） 1冊¥2,100（税込）

ズキアラのお宝レアカードが1ボックスに1枚封入決定！

商品構成▶ 全143種類（ただし特典カードを除く） ●レギュラーカード（72種類）
●スペシャルカード（36種類） ①箔押しカード（18種類） ②トランスパックカード（18種類）
●レアカード（27種類） ①直筆サインカード（6種類） ②直筆メッセージカード（2種類）
③衣装カード（10種類） ④生写真カード（6種類） ⑤生チェキカード（3種類）
●Wレアカード（8種類） ①直筆サイン入り生写真カード（6種類） ②W衣装カード（2種類）

"鈴木裕樹・荒木宏文" VOL.2 トレーディングカード
特典カード付き予約受付はこちらで行っています！

ショップ
■カードA〜C：アニメイト各店
お問い合わせ：アニメイトお客様係03-3972-0022（土・日・祝日を除く10時〜16時）
アニメイトホームページ http://www.animate.co.jp/

携帯 インターネット
■カードD：D-BOYSオフィシャルサイト通販 http://www.d-boys.com/
■カードE：トレカ事務局通販 http://www.tic.jp/
（携帯からは・・・TICトレカ事務局携帯サイト http://www.tic.jp/i/）

※ケータイから2次元コードを読み取って頂くと、それぞれのトップページへアクセスできます。パケット通信料はお客様のご負担となります。

企画・制作：株式会社学研パブリッシング ■発売元：有限会社プロデュース216 ■販売元：株式会社ムービック ■商品に関するお問い合わせ：株式会社ムービック TEL03-5995-1332（土日祝を除く平日10:00〜16:00）

New Shot Express

ついにクランクインした話題作から堀北×松ケンのラブストーリーまで、続々到着するスチールをいち早くお届け。最新情報と共に要チェック！

岡田、堤、真木ら最強メンバーが1年半の時を経てついに始動!!

＊SP THE MOTION PICTURE（仮）
［10年、全国公開］

スペシャルドラマから１年半。映画『ＳＰ』が９月５日、ついにクランクインを迎えた。２年間にわたるフィリピン武術のトレーニングでたくましくなった井上役の岡田准一をはじめ、堤真一、真木よう子らの息の合った演技で撮影は順調に進行。映画ではさらなる大規模テロに第四係が立ち向かう。

９月に六本木ヒルズ・アリーナで行われた撮影では、何と４日間で延べ3000人以上のエキストラを動員。比類なきアクションとスケール感、俳優陣の気合は相当なもので、「SPのバッジと装具、その重みを腰に感じて立っている」という岡田、「1人の観客として、出来上がったものを早く見てみたい」という堤のコメントからも、来年の公開に向けてより一層期待感が高まる。





堀北×松ケン×手越が奏でる切なく揺らぐラブストーリー、公開決定

＊誰かが私にキスをした
［10年3月、全国公開］

堀北真希、松山ケンイチ、手越祐也の３人が豪華共演する本格ラブストーリーから、ヒロイン・ナオミのスチールをお届け。公開にあたりこれまでの『ナクシタキオク』から新タイトルへと改題。インターナショナルスクールに通う、事故で記憶をなくした少女と、ユウジ、ミライ、エースという3人の青年の四角関係を、『カンバセーションズ』（05）で注目されたハンス・カノーザ監督が演出。来年3月、物語が動き出す。



NYで出会う人々のさまざまな愛の形を、世界中から集まった10人の監督が描くオムニバス映画。スチールを見れば、監督のみならず、キャスト陣のその豪華さに驚くはずだ。日本からは06年以来久々にメガホンを取る岩井俊二が参加。主演にオーランド・ブルーム＆クリスティーナ・リッチを起用し、どんな愛を紡ぐのか、注目が集まる。そのほか、ナタリー・ポートマンが映画監督に初挑戦するなど、話題は満載。それぞれのエピソードが絡み合いながら1つの愛へと向かうラブアンサンブルムービー、日本ではバレンタインの2月に公開。



監督・岩井俊二
主演・オーランド・ブルーム
夢のコラボが実現！

＊NEW YORK, I LOVE YOU（原題）

［10年2月、TOHOシネマズ シャンテ、Bunkamuraル・シネマほか全国公開］



実力派若手俳優が共演の『パレード』から新着スチールが到着！

＊パレード

［10年春、渋谷シネクイント、新宿バルト9ほか全国公開］

本誌19号で撮影現場の模様をお伝えした『パレード』から、新たなスチールが到着した。吉田修一の同名小説を行定勲監督で映画化。藤原竜也、香里奈、貫地谷しほり、林遣都、小出恵介という旬なキャスト陣で送る話題作は、先に行われた第14回釜山国際映画祭のワールドプレミアでも人気を集め、計3回の上映は即完売。確実な手応えをつかみ、来年春、満を持して公開を迎える。







川端文学が映画化
演技派キャストが登場

＊掌の小説　［公開未定］

今年の東京国際映画際、日本映画・ある視点部門に出品されたオムニバス映画のスチールをご紹介。文豪・川端康成の短編集「掌の小説」から、「笑わぬ男」「有難う」「日本人アンナ」「不死」という珠玉の4編を気鋭の若手監督4人が映画化。吹越満、香椎由宇、福士誠治ら演技派俳優が、川端文学の持つ美をつややかに映し出す。



板尾創路監督作品がついにそのベールを脱ぐ!

＊板尾創路の脱獄王

［10年1月16日(土)、角川シネマ新宿ほか全国公開］

多彩に活躍する鬼才・板尾創路が、満を持して映画の世界へ!釜山国際映画祭にも正式出品された初監督作のスチールがついに公開された。脚本、主演も板尾自身が務め、微罪ながら脱獄を繰り返す男のワケあり脱走劇が展開される。吉本興業の芸人も多数出演、國村隼、石坂浩二らベテラン勢を配すなど、キャスティングも秀逸。

井上真央主演 外国人の彼との珍生活を描いた人気コミックエッセーが映画化

＊ダーリンは外国人

［10年春、全国東宝系にて公開］

日本人のさおりと外国人の彼・トニーが、文化の違いやギャップを乗り越えていくさまをユーモアたっぷりに綴る本作から、キュートなスチールが到着。小栗左多里の同名人気コミックエッセーを、井上真央、オーディションで選ばれたジョナサン・シェアが軽快に演じる。8月にクランクインし、9月に日本での撮影がクランクアップ。その後はアメリカでも撮影を敢行し、現在は来春の公開に向けて準備が進んでいる。





古都の美しい風景の中で綴られる男女の再生物語

＊聖家族～大和路

［10年5月8日(土) より全国順次公開］

「風立ちぬ」などで知られる作家・堀辰雄の名作を、彼が愛した奈良を舞台に描く平城遷都1300年祭記念作品。昭和末期の世界観の中で、師である九鬼の死にほんろうされながら生きる画家・扁理の苦悩と再生を描く。主演はラーメンズの片桐仁。9月にクランクインし、興福寺、海龍王寺など、原作にも登場する古寺で撮影を行っている。



溝端淳平がよさこい祭りに情熱を燃やす青年を熱演!

＊君が踊る、夏

［10年秋、全国公開］

東京でカメラマンを目指す青年が、故郷・高知へ戻り、かつての仲間たちとよさこい祭りへの参加を目指す…。土佐の若者たちの夢、友情、そしてよさこいへの思いを紡いでいく感動作が、9月28日にクランクイン。主演の溝端淳平は「美しい景色に取り込まれ、演技に集中できた」と語り、共演の木南晴夏も「皆さんに喜んでもらえるように頑張りたい」と抱負を。10月下旬まで高知ロケが行われた後、東京でも撮影予定。1年後の公開が待ち遠しい。

親友同士の2人が
幸せ探しの旅へ…

ドゥーニャとデイジー

青春ドラマ

11月7日(土)より新宿K's cinema
ほか全国順次公開

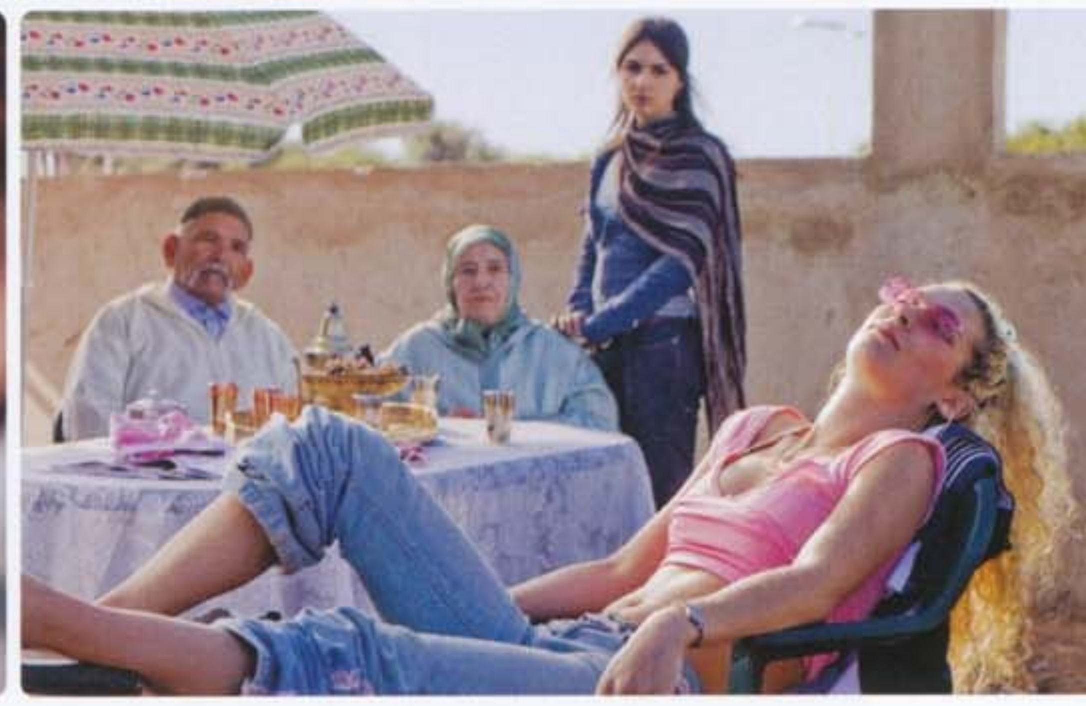


Intro & Story

オランダで高視聴率をマークし数々の賞を受賞したTVドラマを映画化した、ガールズ・ロードムービー。アムステルダムで暮らすモロッコ人の女子大生ドゥーニャと自由奔放なオランダ娘のデイジーは、性格は正反対だが親友同士。ある日、ドゥーニャは厳格なイスラム教徒の親が決めた見合いのためモロッコへ帰郷。だが妊娠したデイジーが追ってきて、彼女の実父を探す旅に付き合うことに。

監ダナ・ネクスタン　脚ロバート・アルベルディンク・タイム
出マリアム・ハッソーニ　エヴァ・ヴァンダー・ウェイデーヴェン　クリスティン・ヴァン・ストラーレン　テーオ・マーセン ほか





正反対のほうが親友になれる!?

家庭環境も影響するが、イスラム教徒のドゥーニャは恋に慎重で、一方のデイジーは恋愛とセックスがイコール。でもなぜか気が合い、けんかもするけど仲直りも早い。性格が正反対な親友同士は多く、ベストな関係の証しか!?

Love on film
vol.21

▶▶▶ 〝素敵映画〟は心のビタミン!

女と女の〝大事〟なカンケイ

人生のパートナーは男と女のみにあらず。女の味方は女なり、そんなイイ関係を極めると人生が豊かになること間違いなし! 今回は素敵な女2人を描いた良質な素敵映画の数々をぜひ、ご覧あれ!

Text by Mayumi Kubo

同性の理解者がいれば人生はもっと豊かに!

〝女の敵は女〟とはよく言うものの、女のイヤなところは女が一番知っている。だからそこは勝負せず、さらりと流すのが女のカッコいい生きる道なのだ。それよりは同性にしか築けない、親密で向上心ある関係を持った女同士こそ無敵と思えてならない。男との恋愛は同時進行であっても、仕事を含めた自分オリジナルの理想や目標を突き詰めたとき、そこには恋愛や結婚とは違う到達点が現れる。だからこそ、プライベートや仕事場での良き理解者であり、互いを高め合う大事な同性の仲間が1人でもいたら、きっと人生が豊かになると思えるのだ。そんな女2人のイイ関係を追った素敵映画をご紹介。

まずは、『プラダを着た悪魔』のモデルといわれる米版「ヴォーグ」の有名編集長、アナ・ウィンターを追ったドキュメンタリー『ファッションが教えてくれること』。有名デザイナーに歯に衣着せぬ意見を言い、ファッションショーは彼女が到着しないと始まらないという、ファッション業界の超VIP。不必要に気さくに接しないため〝氷の女〟と称されることもあるが、それは仕事に妥協を許さない彼女のスタイル。分刻みで瞬時の判断力を求められ、彼女の決断ひとつですべてが動きだす。そんな彼女の片腕となるクリエイティブ・ディレクターのグレイス・コディントンは20年来の同志。だが、アナはテーマに合わないと判断すればグレイスの提案にも却下の嵐。グレイスは途方に暮れつつもトライを続ける。そして、雑誌作りでアクシデントや軌道修正

時代を超え
料理でつながる2人

ジュリー&ジュリア

ヒューマンドラマ

12月12日(土)よりTOHOシネマズシャンテほか全国公開

憧れの女性を目標に才能開花

幼いころから憧れていたジュリアのレシピに挑戦する30歳のジュリー。理解ある旦那はいるが、自分の夢とは何かを再確認し、再出発に悪戦苦闘する姿勢は共感必至。憧れの女性に近づきたい願望は自分磨きに通じるのだ。

Intro & Story

米国でフランス料理を広めた料理研究家ジュリア・チャイルドと、彼女のレシピを再現して人生を変えたジュリー・パウエルの実話を基にした人間ドラマ。49年、外交官の夫とパリに来たアメリカ人主婦ジュリアは、名門料理学校ル・コルドン・ブルーに学び、英語の仏料理本を出版する。50年後のNY。30歳のOLジュリーは、ジュリアの524のレシピを1年で作り、ブログに載せる計画を実行する。

監脚ノーラ・エフロン 原ジュリア・チャイルド with アレックス・プリュドム ジュリー・パウエル
出メリル・ストリープ エイミー・アダムス スタンリー・トゥッチ クリス・メッシーナ ほか











有名女性編集長に見る
仕事の厳しさと快感

ファッションが教えてくれること

ドキュメンタリー

11月7日(土)より新宿バルト9ほか全国順次公開





Intro & Story

米国版「ヴォーグ」の敏腕編集長にして、ファッション業界に絶大な影響力を持つアナ・ウィンターの実像に迫るドキュメンタリー。07年、秋のファッション特大号の締め切り5か月前。編集長アナはトレンド傾向を見極め、テーマを決めて準備に入る。編集部員は彼女の要求に応えるため必死だが、用意した服やモデルは却下され、撮影のやり直しを命じられる。そんな中、締め切りが迫ってくる。

監R・J・カトラー
出アナ・ウィンター グレイス・コディントン アンドレ・L・タリー シエナ・ミラー タクーン・パニクガルカール・ラガーフェルド ジャン=ポール・ゴルチェ ほか

妥協なき"戦友"

編集長アナと20年も仕事で組む、クリエイティブ・ディレクターのグレイス。交通事故を機にモデルから編集者に転身、抜群のセンスを持つ。目標に向かって一切の妥協を許さず、せめぎ合う2人はまさに"戦友"。

つきもの。最終決定を下すアナの潔い(ボツ案)再採用とグレイスの喜びに満ちた瞬間、揺るぎない信頼関係の中で尊重し合う2人が何と素敵なこと。アナ60歳、グレイス68歳! 世界のファッション界をリードし、美を極めるカリスマの"あうんの呼吸"にため息。

若い女子だって、触発し合う2人の関係は互いを高める成長のポイント。『ドゥーニャとデイジー』は、対照的な18歳の親友同士を描くロードムービー。人口の17%が移民を含む外国人というオランダの社会背景も興味深い。アムステルダムで暮らすモロッコ人のドゥーニャとオランダ人娘のデイジーは育った環境も性格も正反対。そんな2人がひょんなことからモロッコへ向かい、カサブランカやマラケシュを旅することに。価値観や環境の違いから、時にぶつかり合いながら、自分とは何者かとアイデンティティーを模索し始める2人。家族の真の愛情を再認識し、青春期の喜びと苦さを分かち合う女子2人のイイ関係に元気がもらえる。

ラストは面識はなくとも、困難を克服して同じ夢を達成した実在の2人を描く『ジュリー&ジュリア』。アメリカにフランス料理を広めた料理研究家ジュリア・チャイルドと、50年後に憧れの彼女のレシピを再現してブログに掲載、さえないOL生活から作家になったジュリー・パウエルを描きだす。共に理解ある夫に恵まれながらも自分でも驚く料理の素質を発見し、日々努力して自らの夢を具現化した。男性優位のジュリアの時代と"9・11"以降の閉塞感ある現代に生きるジュリーの対比も見事で、生きることを愛する真理を学べる人生賛歌だ。

Cinema Goods Presents

公開待機作品や最新DVDのレアアイテムをプレゼント！　どしどしご応募ください。

11 『ナイトミュージアム2』DVD
腕時計
3名様



真夜中に博物館の恐竜や石像、展示物が動きだすアドベンチャー『ナイトミュージアム2』。DVD&Blu-rayが12月に発売される本作から、オリジナルの腕時計を3名様に。

12 『おと・な・り』DVD
トートバッグ
5名様



岡田准一×麻生久美子が、アパートの壁越しに聞こえる音をきっかけに結び付けられていく等身大の男女を演じた。DVDが11月4日(水)発売の本作から、トートバッグを。

13 『余命1ヶ月の花嫁』DVD
アンジェリカ ハートミラー
5名様



乳がんにより、余命が1か月だと宣告された女性の実話を映画化。待望のDVDが11月6日(金)発売。劇中で榮倉奈々演じる千恵さんが使っていたミラーのハートバージョンを。

14 『群青 愛が沈んだ海の色』DVD
オリジナル図書カード
5名様



愛する人を失った涼子（長澤まさみ）の悲しみと、そんな彼女を支えようとする人々を描いた『群青～』のDVDが11月25日(水)発売。図書カード（500円分）を。

15 『ターミネーター4』DVD
オリジナルパーカー
3名様



『ターミネーター』シリーズ最新作のDVD&Blu-rayが11月20日(金)に発売。インパクトのあるバックプリントがカッコいいパーカーを。色は黒・サイズはM。

6 『マイマイ新子と千年の魔法』
マイマイエコバッグ
5名様



11月21日(土)より全国公開される『マイマイ新子～』。大自然の中で空想好きな少女・新子が、仲間たちとともに成長していく姿を描く。エコバッグを5名様に。

7 『よなよなペンギン』
特製絵本
3名様



いつか空を飛べると信じる少女・ココの心温まるファンタジー。12月23日(水・祝)公開の本作から、映画の幻想的な世界観が詰め込まれた特製の絵本を3名様に。

8 『ジャック・メスリーヌ　フランスで社会の敵No.1と呼ばれた男』
3色切換えボールペン&ポストカード
5名様



伝説の犯罪王の壮絶な人生を描いた長編大作が11月、TOHOシネマズ シャンテほかにて公開。ノワール編とルージュ編が同時上映。ボールペンの色は編集部にお任せください。

9 『カールじいさんの空飛ぶ家』
トラベルダイアリー　1名様
ミニコンパス　3名様



9a
9b

愛する妻を亡くした悲しみを乗り越えるため、旅に出ることを決意したカールじいさんの物語。12月5日(土)公開。ダイアリーかコンパス、どちらか選んで。

10 『ティンカー・ベルと月の石』
キーホルダー
3名様



妖精たちの世界を守るため、冒険へと旅立つティンカー・ベルの物語。12月23日(水・祝)より公開のシリーズ第2弾となる本作から、可愛いキーホルダーを。

1 『スノープリンス 禁じられた恋のメロディ』
スノプリ特製★夢を描く色鉛筆
5名様



ジャニーズJr.森本慎太郎の映画初出演&初主演作が12月12日(土)公開。絵を描くことが好きな主人公・草太にちなんで、カラフルな色鉛筆を5名様に。

2 『曲がれ！スプーン』
特製ピンバッジ
5名様



ヨーロッパ企画の舞台「冬のユリゲラー」を原作にした、本広克行監督×長澤まさみ主演作が11月21日(土)より全国公開。超能力で曲がった(!?) 特製のピンバッジを。

3 『ブラック会社に勤めてるんだが、もう俺は限界かもしれない』
特製クリアファイル
2名様



"ブラック会社"に勤めることになってしまった元ニート・マ男（小池徹平）の奮闘を描く本作は11月21日(土)公開。特製クリアファイルを。"ブラックな書類"を挟もう！

4 『僕の初恋をキミに捧ぐ』
W缶バッジ&オリジナルトートバッグ
5名様



井上真央×岡田将生の話題作が全国東宝系にて公開中。20歳まで生きられないと宣告された逞と、彼を献身的に支え一途に愛する繭の切ないラブストーリー。

5 『天使の恋』
オリジナル髪ピタ
5名様



人気携帯小説の映画化で、佐々木希が、過去のトラウマから自分に役立つ人とお金にしか興味のない17歳を体当たりで演じる。11月7日(土)公開。髪留めを。

プレゼントの応募方法　左のアンケートはがきの表に必要事項と欲しいプレゼント番号を、裏にアンケートの答え（任意）をご記入の上、50円切手をはって投函してください。応募の締め切りは09年12月末日必着。当選者は抽選にて決定し、発表は発送を持ってかえさせていただきます。

Cinema Complete!

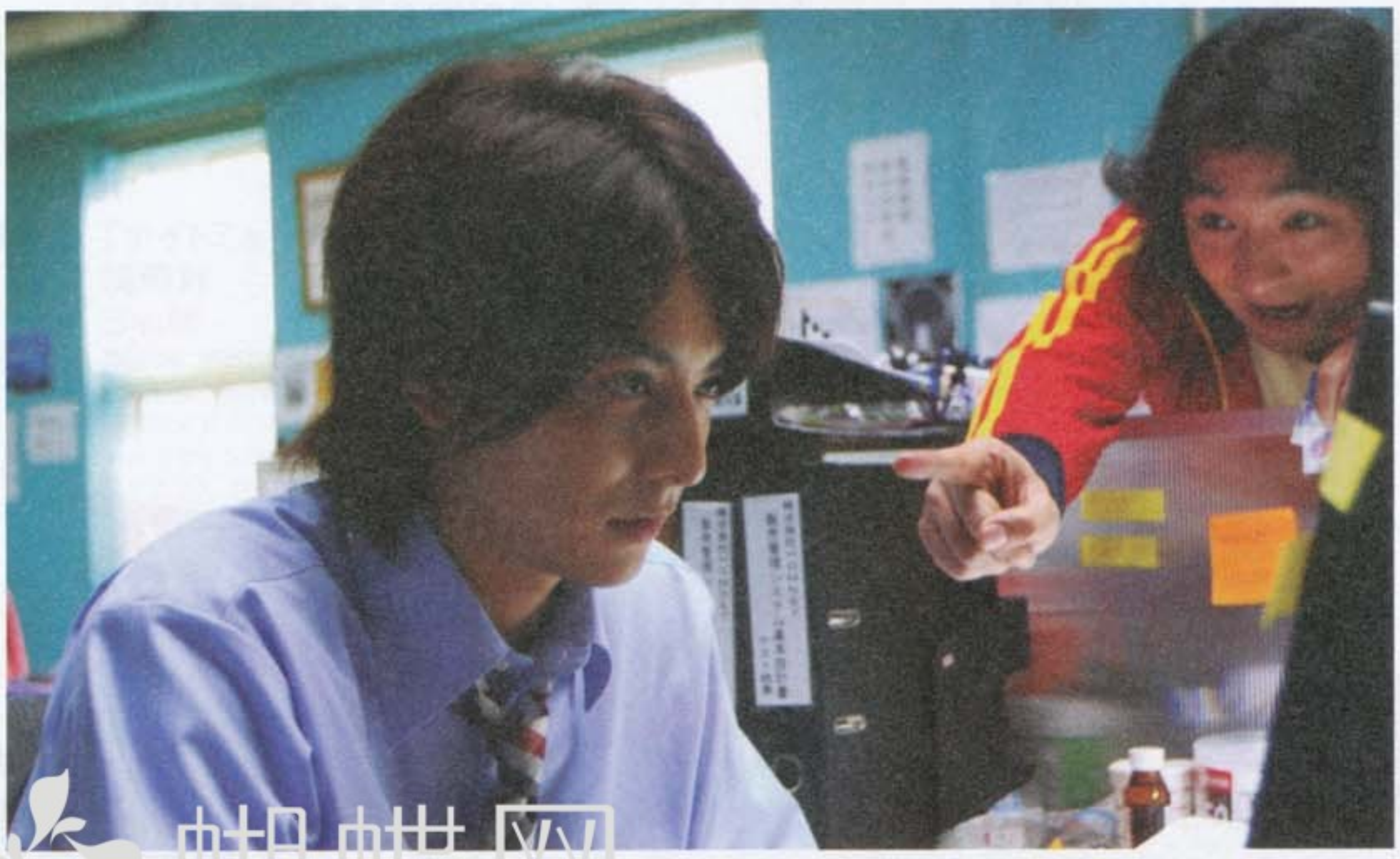
2009年11月-2010年1月











ブラック会社に勤めてるんだが、もう俺は限界かもしれない

コメディ／ドラマ

11月21日(土)よりシネクイントほか全国公開

引きこもり＆ニートだったマ男（小池）は、母の死を機に改心。プログラマーの資格を取得し、小さなIT企業にめでたく就職する。が、そこはありえないほど過酷な、恐ろしいブラック会社だった…。

監佐藤祐市　原黒井勇人　脚いずみ吉紘
出小池徹平　マイコ　池田鉄洋 ほか



Cinema Topics Characters

Roadshow Japanese new cinema

黒井システム株式会社



元ニート

マ男（小池徹平）
本名・大根田真男。引きこもりだったが、母の死を機にプログラマーの資格を取り、「黒井システム」に就職。過酷な環境の中、必死で働きプロジェクトリーダーに大抜てきされるが…。



Love命

中西さん（マイコ）
本名・中西亜矢子。容姿端麗な派遣社員で会社のマドンナ。一見常識人だが、実は非常識人。惚れっぽい性格で、藤田さんに恋をして大暴走。



責任感ゼロ

リーダー（品川祐）
本名・阿部道大。スキルの伴わない古株の社員。リーダーにもかかわらず責任感とやる気に乏しい上、マ男や上原さんをいびりまくる俗物。



人格者

藤田さん（田辺誠一）
本名・藤田巧己。会社で唯一のマトモな人。仕事もでき、性格も温厚なイケメンで、マ男の憧れの存在に。でも私生活は謎に包まれている。

個性派キャストがぶっ飛んだ怪演で魅せる

瑞々しい印象の小池徹平だが、意外にも自身初のサラリーマン役がはまっている。最初は若干スーツに“着られている”感が残るのもリアルだ。そんな彼を取り巻く会社の面々はいずれも個性的なキャラぞろいだが、中でももはや人として崩壊寸前の上原さんを演じた中村靖日、そしてガンオタ（ガンダムオタク）はニンマリのワードを連発する井出役の池田鉄洋などの怪演は必見。恋愛至上主義の中西さん（マイコ）みたいな人も、結構いるかも…。



お調子者

井出（池田鉄洋）
本名・井出哲也。リーダーの腰ぎんちゃくで、異常に仕事ができない。ガンオタ。



エリート

木村くん（田中圭）
本名・木村翔太。大手から転職してきたエリート。一見好青年だが出世欲の塊。



挙動不審

上原さん（中村靖日）
本名・上原学。スキルは高いが、常に挙動不審。いつも仕事を押しつけられている。



お局

瀬古（千葉雅子）
本名・瀬古さだ子。経理も兼ねるお局プログラマー。社長の愛人という噂も。



黒幕

社長（森本レオ）
本名・黒井策士。社会人経験ゼロのマ男を採用した、懐の広い人物。現場には無関心。

日本の病んだ今を鋭くえぐる快作!?

安すぎる給料に当たり前のサービス残業、何日も続く徹夜、認められない必要経費…。「それ、私の会社です！」という人も多いのではないだろうか。そういう意味でも、日本の病んだ今をタイムリーに描いたと言える本作。2ちゃんねるのスレッドから生まれた、いわゆる“スレッド文学”が原作というのも納得の、臨場感とリアリティーにあふれた作風は、佐藤祐市監督（『キサラギ』）の手によって損なわれることなく見事に映像化。だが最大の魅力は、“笑える”ということ。こんな時代だからこそ笑い飛ばして、元気になろうよ！と言わんばかりなのだ。世界一働き者といわれる日本人の底力を見せつけつつ、主人公の成長のプロセスも丁寧に描き、ラストは感動さえ呼び起こす…！

物語の舞台はほぼ会社の中という、1シチュエーションドラマの要素が強いため、キャストは非常に重要。だが実力派かつ超個性派なキャスト陣が勢ぞろいし、とにかく飽きない。元ニートの主人公・マ男を演じた小池徹平をはじめ、映画、テレビ、舞台、お笑いと幅広いジャンルから集結した彼らの演技合戦は見もの。過酷極まりないブラック会社の現状…なのに、観賞後なぜか働きたくなる(!?)不思議な効果は、ぜひ体験すべし。

Text by Seiji Ebihara



笑う警官

ヒューマンドラマ

11月14日(土)より全国公開

元交際相手の女性を殺害したとして、現役警察官の津久井（宮迫）に容疑がかけられ、異例の射殺命令が下される。一連の流れに違和感を覚えた所轄の刑事・佐伯(大森)は、極秘捜査を始めるが…。

監脚角川春樹　原佐々木譲　出大森南朋
松雪泰子　宮迫博之　大友康平 ほか



国家権力の闇に切り込む 骨太な社会派サスペンス

「警官の血」などで知られる人気作家・佐々木譲が、北海道警を舞台に描いたベストセラー「道警シリーズ」の第1作『笑う警官』を映画化。02年に実際に起きた北海道警の組織ぐるみの汚職事件をヒントに、警察内部の腐敗に鋭く切り込んだ骨太なサスペンス。『ハゲタカ』での好演も記憶に新しい大森南朋が、本作では警察という巨大組織の闇に挑むクールな刑事・佐伯役に挑む。また佐伯とともに捜査に加わる女性刑事に松雪泰子、殺人容疑をかけられる現役警察官に宮迫博之といった多彩なキャストが集結。闇の奥にさらなる闇が広がる、意表を突く逆転劇とスリリングな展開から目が離せない！

Cinema Topics　Roadshow Japanese new cinema

角川春樹が11年ぶりにメガホンを



監督は、実に11年ぶりにメガホンを取った角川春樹。近年、製作総指揮で『蒼き狼〜地果て海尽きるまで〜』『椿三十郎』など、ストレートな大作を手がけてきた監督が、本作ではどこまで深くアンダーグラウンドな世界に切り込んでいくか注目だ。

Text by Hibiki Kurei



曲がれ！スプーン

コメディ　P91

11月21日(土)より全国東宝系にて公開

ＴＶ番組の企画で本物の超能力者を探し出すハメになったADの米（長澤）。視聴者からの投稿で日本全国を旅して回る彼女が、喫茶店「カフェ・ド・念力」にやって来る。

監本広克行　原脚上田誠（ヨーロッパ企画）
出長澤まさみ　三宅弘城　諏訪雅 ほか



夢見るADが出会った、使えないエスパー集団

本広克行監督が『サマータイムマシン・ブルース』に続いて、劇作家・上田誠率いる劇団ヨーロッパ企画の戯曲を映像化した、超能力ファンタジー・コメディ。使えそうで使えない能力を持ちながら、ひそかに暮らす超能力者（エスパー）が年に1度集う、地方の喫茶店「カフェ・ド・念力」。ここを偶然訪れてしまった、超常現象番組の女性ADの不思議な体験を描く。自らの能力がバレちゃいけない連中に巻き起こる災難という、密室劇ならではのシチュエーションの下、長澤まさみがキュートにコメディエンヌとしての魅力を発揮。クリスマスイブを舞台に、ラストには心温まる奇跡が待っている！

Cinema Topics　Roadshow Japanese new cinema

小劇団を代表する俳優陣が夢の共演!?



個性的なエスパーに扮するのは、ヨーロッパ企画の諏訪雅、中川晴樹やナイロン100℃の三宅弘城、動物電気の辻修といった、今を時めく小劇団を代表する俳優たち。また、『サマータイムマシン〜』に出演した面々も、あるシーンに登場。



ランディーズ

青春／アクション P78

11月14日(土)より渋谷ユーロスペースにてレイトショー公開

「Hey!リキ」永田晃一のデビュー作がついに映画化

阪神に在籍していた外国人助っ人、ランディ・バースに憧れ、池袋で助っ人稼業「ランディーズ」を営む桜井蘭(川村)とケンジ(浅利)。蘭と因縁の間柄である「ジャイアンズ」の武史(伊崎登央)が街に戻ってきたことで、再び抗争が…!? 川村、浅利のW陽介を筆頭に、注目の若手俳優らが熱演。

監脚藤原健一　原永田晃一
脚ザハナヨシタカ
出川村陽介　浅利陽介　木南晴夏　聡太郎　久保田悠来 ほか



大洗にも星はふるなり

コメディ P32

11月7日(土)よりシネセゾン渋谷、シネ・リーブル池袋ほか全国公開

暴走&妄想炸裂のシチュエーションコメディ

大洗にある、真冬の海の家で巻き起こる男7人のハチャメチャな妄想劇。「33分探偵」の福田雄一が作り上げた濃ゆい世界観の中で繰り広げられる、山田、山本ら個性派俳優陣のアドリブ合戦は圧巻。戸田恵梨香扮する、憧れのマドンナ・江里子の次々と変貌するキャラにも注目だ。

監脚福田雄一　出山田孝之　山本裕典　ムロツヨシ　小柳友　白石隼也　安田顕　佐藤二朗　戸田恵梨香 ほか



劔岳 撮影の記 標高3000メートル、激闘の873日

ドキュメンタリー

11月14日(土)より新宿バルト9ほか全国公開

『劔岳 点の記』の壮絶ドキュメント

6月に公開され、大ヒットロングランを記録した『劔岳 点の記』。ディレクターである大沢嘉工が、監督である木村大作、そして200日に及ぶ山での撮影を克明に記録。圧倒的な自然の美しさと厳しさに果敢に挑んだ2年間と、製作、俳優陣の作品への情熱を、余すところなく映し出す。

監大沢嘉工
出木村大作　浅野忠信　香川照之　松田龍平　仲村トオル ほか



こまねこのクリスマス ～迷子になったプレゼント～

人形アニメ

11月7日(土)よりライズXにて公開

3年ぶりに"こまねこ"が帰ってくる!

06年に公開され、海外でも高い評価を受けた『こま撮りえいが こまねこ』。3年ぶりの今作では、クリスマスに"こまちゃん"の身に起こった事件を通して、友達や家族との心温まるやりとりを描く。前作以上に表情豊かなこまねこが、ほっこりした幸せを与えてくれる。

監合田経郎



マイマイ新子と千年の魔法

アニメ／ドラマ

11月21日(土)より全国公開

子供たちのキラキラした季節を映し出すアニメ

昭和30年代の山口県を舞台に、空想の世界に思いを馳せるマイマイ(つむじ)を持った少女・新子と、東京からの転校生・貴伊子ら仲間たちとの交流を描くアニメーション。『時をかける少女』『サマーウォーズ』を手がけたアニメーションスタジオ、マッドハウスが製作している。

監脚片渕須直　原髙樹のぶ子
声福田麻由子　水沢奈子　森迫永依　本上まなみ ほか



ゼロの焦点

サスペンス P82

11月14日(土)より全国東宝系にて公開

松本清張生誕100周年に送るサスペンス大作

今年、生誕100周年を迎える松本清張の作品の中でも名作と名高い「ゼロの焦点」を犬童一心監督で映像化。豪華女優陣を迎え、昭和30年代、主人公の夫が失踪したことがきっかけで出会った3人の女性の数奇で複雑な運命を描き出す、サスペンス・エンターテインメント作。

監脚犬童一心　原松本清張
脚中園健司　出広末涼子　中谷美紀　木村多江　西島秀俊　鹿賀丈史 ほか



RISE UP ライズアップ

ラブストーリー

11月21日(土)より全国順次公開

上空500mの美しい風景が彩る青春ラブストーリー

『バッテリー』の林遣都、『魔法使いに大切なこと』の山下リオというフレッシュな顔ぶれで送る、パラグライダーを題材にした青春スカイムービー。事故により失明した少女・ルイとパラグライダーに打ち込む少年・航のラブストーリーを、石川県獅子吼高原、上空500mからの風景が彩る。

監中島良　脚入江信吾
出林遣都　山下リオ　太賀　中林大樹　嶋尾康史　青木崇高 ほか



なくもんか

コメディ／ドラマ P47

11月14日(土)より全国東宝系にて公開

阿部×瑛太が綴る笑って泣ける家族愛

商店街の中の総菜屋を舞台に、生き別れた兄弟と周囲の人々に巻き起こる予測不可能な出来事の数々。宮藤官九郎が初めて"家族"をテーマに執筆した脚本を、阿部サダヲと水田伸生監督が『舞妓Haaaan!!!』以来のタッグを組み、笑って泣けるエンターテインメントに仕上げた話題作。

監水田伸生　脚宮藤官九郎
出阿部サダヲ　瑛太　竹内結子 ほか



銀色の雨

浅田次郎原作 男女3人の揺れる心情

父親を亡くし、新聞配達をしながら学校へ通う和也（賀来）。ある日、ささいなけんかで家出した和也は、偶然出会った菊枝（前田）、ボクサーの章次（中村）とともに暮らすことになるが、やがて意外な真実が明らかに…。浅田次郎原作の小説を、放送作家として活躍する鈴井貴之が脚色。

青春／ドラマ　P84

11月28日(土)よりシネマート新宿、シネマート六本木ほか全国公開

監脚鈴井貴之　原浅田次郎
出賀来賢人　前田亜季
中村獅童 ほか



E. YAZAWA ROCK

ロックシーンを変えた 矢沢の素顔と魂

日本のロックミュージシャンの先駆的存在として、約30年にわたりその魂を叫び続けてきた矢沢永吉。海外での映像やプライベートな表情を織り交ぜながらカリスマの素顔を映し出したドキュメント映画。成り上がってきた生きざまだけじゃない、家族への優しいまなざしも魅力的。

ドキュメント

11月21日(土)より新宿バルト9ほか全国公開

監増田久雄　出矢沢永吉 ほか



バカは2回海を渡る

男2人、4000kmに及ぶ ロードムービー

弓削智久、須賀貴匡は、短編映画『FREE』撮影のためアメリカを訪れたが、道に迷ってしまう。仕方なく進んだヒッチハイクだったが、それは「生きていることへの意味」を探す旅となる。サンフランシスコからラスベガスへ、ショートフィルムを作る2人を追ったドキュメンタリー。

ドキュメンタリー　P96

11月28日(土)より渋谷ユーロスペースにてレイトショー公開

監渡邊貴文
出弓削智久　須賀貴匡



いぬばか

総勢110匹もの 可愛いワンコが大集合

桜木雪弥の累計85万部の同名人気コミックを映像化。愛犬るばんを連れて熊本から上京したすぐり（スザンヌ）が、るばんをきっかけにさまざまな人々と出会い、動物の命と向き合っていくハートフルストーリー。スザンヌが映画初主演。約27犬種、総勢110匹の可愛いワンコが登場！

アニマル／ドラマ

11月21日(土)より渋谷シアターTSUTAYAほか全国順次公開

監ヨリコ ジュン　脚山田典枝
出スザンヌ　徳山秀典
岡田亮輔　相沢まき
前田健 ほか



スノープリンス 禁じられた恋のメロディ

森本慎太郎映画初出演 はかなくも美しい物語

昭和初期の寒村。両親を亡くした少年・草太（森本）は、祖父と犬のチビと暮らしている。貧しいために学校に通えない草太だが、町一番の裕福な家の少女と心を通わせていく。素直に、けなげに生きる彼らの姿を描いた今作では、ジャニーズJr.の森本慎太郎が映画初出演にして主演を務める。

ヒューマンドラマ　P37

12月12日(土)より全国公開

監松岡錠司　脚小山薫堂
出森本慎太郎　桑島真里乃
香川照之　檀れい　マイコ
山本學　浅野忠信 ほか



つむじ風食堂の夜

食堂に集う人々の 心温まる日常を描く

映像と音楽をコラボレーションさせた「CineMusica」第7弾は、八嶋智人主演、食堂に集う人々の日常を綴る心温まる物語。ある冬の夜、人口降雨の研究をする私（八嶋）は、常連客で賑わうある一軒の食堂へ入る。そこで手にした万歩計が、私をここではないどこか遠くへと向かわせる…。

ヒューマンドラマ　P94

11月21日(土)よりユーロスペースほか全国順次公開

監篠原哲雄　原吉田篤弘
脚久保裕章　出八嶋智人
月船さらら　下條アトム
スネオヘアー ほか



大怪獣バトル ウルトラ銀河伝説 THE MOVIE

故郷・M78星雲に危機！ ウルトラ戦士の総力戦

暗黒の力に魂を奪われ、光の国で反乱を起こしたために、ウルトラマンキングにより永久牢獄に閉じ込められた巨悪・ウルトラマンベリアル。数万年の後に脱獄し、100体もの怪獣を操り暴れ回る強敵に、次々と倒されるウルトラ戦士たち。果たして光の国を再興できるのか？

ヒーロー　P81

12月12日(土)より全国公開

監坂本浩一　出南翔太
小西博之　上良早紀
俊藤光利　八戸亮
五十嵐隼士　黒部進 ほか



華鬼　三部作

少女と鬼が織り成す 新感覚ファンタジー

原作は累計25万部突破のパソコン小説。山奥に存在する"鬼ヶ里"に嫁ぐことを運命づけられた少女たちと、数百年もの間、若い男の姿で生き続ける鬼たちが織り成す学園ファンタジー。「華鬼×神無編」「麗二×もえぎ編」「響×桃子編」の3作がリンクする、新感覚ストーリー。

ファンタジー／ラブストーリー

11月21日(土)より池袋HUMAXシネマ お台場シネマメディアージュほか全国順次公開

監脚寺内康太郎　脚佐上佳嗣
古澤健　出荒木宏文　逢沢りな
細貝圭　川村ゆきえ
村井良大　加護亜依 ほか



蘇りの血

ヒューマンドラマ

12月19日(土)よりユーロスペースほか全国公開

監督・豊田利晃が描く 人間の生命力と存在意義とは

『空中庭園』以来4年ぶりとなる豊田監督最新作は、寓話の世界が舞台。闇の世界を司る大王(渋川)が患う病を治すため、マッサージ師・オグリ(中村)が招かれた。忠誠を誓わないオグリに嫉妬した大王は、彼を「あの世」へと葬ってしまう。しかし、オグリは心身が不自由な姿で現世に戻り…。

監脚豊田利晃
出中村達也 草刈麻有 渋川清彦 新井浩文 板尾創路 マメ山田 ほか



ONE PIECE film STRONG WORLD

アニメ

12月12日(土)より公開

シリーズ史上空前のスケール 世界最強の男が現れる

単行本累計発行部数1億6500万部の世界的人気を誇るシリーズの映画10作目。原作者・尾田栄一郎がこの作品のために新たにストーリーを完全に描き下ろし、自ら製作総指揮も務める。海賊王と並ぶ世界最強の男・悪魔の実の能力者"金獅子のシキ"がルフィたちの前に立ちはだかる。

監境宗久 製尾田栄一郎
脚上坂浩彦
声田中真弓 中井和哉 岡村明美 山口勝平 平田広明 大谷育江 ほか



アサルトガールズ

SF/アクション P44

12月19日(土)よりテアトル新宿、池袋テアトルダイヤほか全国順次公開

黒木メイサらが魅せる 強く美しい女ハンター

鬼才・押井守が8年ぶりに挑んだ長編実写映画は、黒木メイサ、菊地凛子、佐伯日菜子が豪華競演するSFエンターテインメント。強力な銃器を手にした3人の美しき女ハンターが、熱核戦争後の荒廃した地表を模した砂漠の戦場を駆け抜け、獲物を仕留めるための熾烈な戦闘を繰り広げる。

監脚押井守 製原田健
企林裕之 出黒木メイサ 菊地凛子 佐伯日菜子 ほか



のだめカンタービレ 最終楽章 前編

音楽/ラブコメディ P20

12月19日(土)より全国東宝系にて公開

指揮者に就任した千秋に 大きな試練が待ち受ける

パリでコンクール優勝を果たした千秋(玉木)は、オーケストラの常任指揮者に就任。しかし、やる気が感じられないオケの態度に愕然としてしまう。音楽学校の進級試験を控え練習に励むのだめ(上野)に、千秋は定期公演での演奏を頼む。妄想を広げるのだめだったが…。

監武内英樹 原二ノ宮知子
脚衛藤凛 出上野樹里 玉木宏 瑛太 水川あさみ 小出恵介 ウエンツ瑛士 ベッキー 山田優 ほか



よなよなペンギン

アニメ/ファンタジー

12月23日(水・祝)より全国公開

クリスマスに届く 奇跡の冒険ファンタジー

ココは亡き父の言葉を信じ、いつか空を飛ぶことを夢見る少女。いつものようにペンギンの着ぐるみ姿で夜の街を歩いているココの元に招待状が届き、見たこともない世界へ。日仏のクリエーターが集結し、絵本のようにカラフルで幻想的な世界と、奇跡の冒険ファンタジーを描き出した。

監原りんたろう 脚金春智子
声森迫永依 田中麗奈 太田光 田中裕二 ほか



ウルルの森の物語

ヒューマンドラマ

12月19日(土)より全国東宝系にて公開

『マリと子犬の物語』の スタッフ・キャストが再集結

母親の入院を機に、東京から北海道へ移り住むことになった昴(桑代)としずく(北村)。1人ぼっちのオオカミに似た子犬と出会ったしずくは、母親(桜井)と離れて暮らす自分たちの境遇と重ねる。北海道の美しく広大な自然を舞台に、たくさんの野生動物との触れ合いと家族の絆を描く。

監長沼誠 脚吉田智子 森山あけみ 出船越英一郎 深田恭子 濱口優 桑代貴明 北村沙羅 光石研 桜井幸子 ほか



釣りバカ日誌20 ファイナル

ヒューマン/コメディ

12月26日(土)より全国公開

日本映画を代表する 長寿シリーズがついに完結

笑いの中にも、その時どきの社会情勢や世相を反映させてきた『釣りバカ日誌』。22年の歴史を締めくくる今作は、シリーズ初となる北海道の大自然が舞台。会長賞を受賞し釣り休暇をもらったハマちゃん(西田)は、スーさん(三國)とともに北海道へ。最強コンビが最後の活躍!

監脚朝原雄三 原やまさき十三
脚山田洋次 出西田敏行 三國連太郎 浅田美代子 松坂慶子 吹石一恵 塚本高史 ほか



映画 レイトン教授と永遠の歌姫

アニメ/ミステリー

12月19日(土)より全国東宝系にて公開

ゲームソフトとして誕生した 本格謎解きミステリーの映画化

レイトン教授(大泉)の元に、オペラのチケットが同封された1通の手紙が届いた。差出人はかつての教え子で、オペラ歌手のジェニス・カートン。行方不明になっていた友人が「永遠の命を手に入れた」と少女の姿をして現れたというのだ。この不可解な出来事をレイトンは解明できるのか?

監橋本昌和 原レベルファイブ
脚松井亜弥 声大泉洋 堀北真希 水樹奈々 相武紗季 渡部篤郎 ほか



『彼岸島』
石黒英雄

松本光司原作の人気コミックを映画化した『彼岸島』で、
絶海の孤島で究極のサバイバルに挑む主人公・明を演じた石黒英雄。
韓国のキム・テギュン監督との過酷な撮影の日々を
振り返ると同時に、初参加した海外映画祭での
貴重な体験を語ってくれた。

Photo by Yosuke Komatsu　Text by Hibiki Kurei
Hair & Make up by Koji Mitsukura(traffic)　Styling by Takanori Akiyama

過酷な状況での撮影など、刺激的な現場でした

『彼岸島』の主演が決まったのは、僕が「ごくせん」TVシリーズの撮影中でした。そのとき、〝島に行って吸血鬼を倒す話〟とか、〝日韓合作〟と言われても、正直ピンとこなかったんですよ。原作の存在を知らなかったし、『オールドボーイ』を見てから韓国映画にハマっていたとはいえ、俳優経験の浅い僕がまだそういう大作に出られるわけがないと思っていましたから…。でもその後、原作を読んだら、物語の面白さにハマってしまい、ましてや『火山高』や『オオカミの誘惑』のキム・テギュン監督とご一緒できることに興奮しました。

キム監督と顔合わせをしたときに、「かなりハードな撮影になるので、体力づくりをしてください」と言われたんですよ。そこで、クランクインまでの約3か月ほど、かなり筋トレに力を入れました。そして、撮影では〝大ケガはしないで、ムチャをする〟という目標を立ててました！ 傷やアザといったケガはあったとしても、骨折以上のケガは絶対にしないということなんですけどね(笑)。

僕が演じた明の役作りに関しては、原作を読み直して、ゆっくり考えていきました。でも、結果的に自分にとって、決して難しい役ではなかったと思います。僕は明と同じく兄がいるんです。それに、人を守りたいと思う気持ちや、恋愛に関して憶病なところがなんだか似ているんですよ(笑)。いつも、役を頂くと、まず自分と役柄をどれだけ近づけることができるか、ということを考えるんです。でも、今回に関してはそういう共通点もあって、自然と明に近づけた気がしました。

事前に殺陣の練習にも力を入れていたので、インしたときには、かなり上達していたんですよ。でも、初めのほうの明は普通の高校生の設定なので、監督からは不器用に動くことが求められて…。それが、どこか歯がゆかったし、撮影も順撮りじゃなかったので、気持ちの高め方は難しかったですね。

また、森の中で目隠しをして殺陣をするシーンは、夜間の上、雨降りで足場も悪かったんです。アクション監督の方も、キム監督に日を改めた方がいいと言うぐらい、最悪の状況だったんですよ。でも、日を改めるほど、撮影スケジュールに時間がない。だから、これまでにないほど集中力を研ぎ澄まして、撮影に挑みました。何とか2テイクほどでOKになって、ホテルに戻ったらベッドに倒れ込みました(笑)。

とにかく、振り返ってみると、いろいろ大変で、刺激的な現場でした。でも、クランクアップの瞬間から、続編に出たいと思っている自分がいるんです。そのために、また肉体改造をしたいと思いますし、さらにツラい撮影になると思いますが、それがより自分を成長させてくれると思うんですよ！

先日、この作品で韓国の釜山映画祭に参加することができたんです。上映会のチケットはすべて完売して、見終わった後はお客さんが拍手をしてくれました。その後、僕が壇上に上がって、「どうでした？」と聞いたら、お客さんが韓国語で「面白かった」と言ってくれて…。そのほかにも、アメリカの映画会社の方など、お客さんのリアルな反応を体感できた上、パーティーにも参加させていただくなど、貴重な体験をさせていただきました。

パーティーでは、『猟奇的な彼女』のクァク・ジェヨン監督や『デュエリスト』のイ・ミョンセ監督、それから『チェイサー』『ノーボーイズ,ノークライ』の俳優、ハ・ジョンウさんにお会いして、ご挨拶をすることができたんです。ジョンウさんに「あなたの作品を見て役者として刺激を受けました」と伝えられたことは光栄でしたね。

映画祭には僕の大好きなジョシュ・ハートネットさんも参加されていたのですが、ちょっと見かけただけでした。彼とはいつか共演…、いやお話しできるだけでいいです(笑)。そのためには、もっともっと作品を重ねて、自分の芝居をよりいいものにしていきたいと思います！



HIDEO ISHIGURO

「泣ける映画は？」

キム・テギュン監督の『クロッシング』ですね。『彼岸島』とは全く違うテイストの作品ですが、あの作品を見たことで、監督の出してくる要求にさらに応えたいと思ったほどです。





彼岸島

監キム・テギュン　原松本光司　脚大石哲也
出石黒英雄　渡辺大　水川あさみ　山本耕史 ほか
●10年1月9日(土)より新宿バルト9ほか全国公開

行方不明の兄・篤（渡辺）が"彼岸島"と呼ばれる孤島に生存していることを知った、高校生の明（石黒）。兄を捜し出すため、謎の美女・冷(水川)に導かれるまま、仲間と島に向かうことを決意した明だったが、その島は吸血鬼と化した住人に支配されていた。

➡ P65

「彼岸島」メディアMIX！

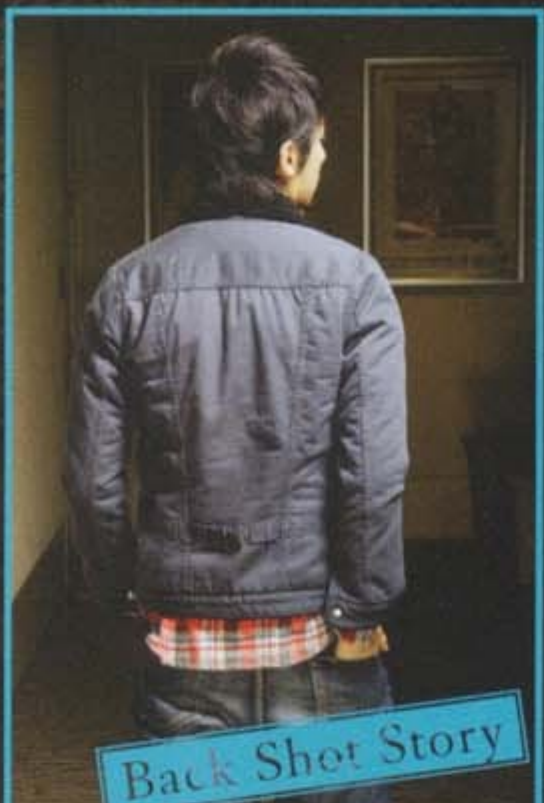
単行本の売り上げ累計は410万部を超え、現在も連載中のコミックが原作。また、オリジナルストーリーによるゲーム化など、メディアMIX展開が充実。その人気はアジアやヨーロッパに飛び火し、このたび韓国との合作が実現した。



彼岸島
松本光司
第1～27巻発売中
第28巻11月6日発売
各560～580円（税込）

ツラい撮影が、より自分を成長させてくれると思うんです





韓国から帰国後、初めての取材とあって、テンション高めの石黒さん。現地で出会った外国人プレスや韓流スター、果てはピカチュウや小学校時代の同級生（それも女子！）など、いろんなものまねを交えての大盛り上がりの取材になりました。

いしぐろ・ひでお　1989年1月10日生まれ。栃木県出身。04年、第17回ジュノン・スーパーボーイ・コンテストでグランプリを受賞し、05年に「ごくせん」で俳優デビュー。08年『うた魂♪』で映画デビュー。09年は映画『激情版　エリートヤンキー三郎』で主演を務めたほか、『携帯彼氏』が公開中。11月にはauオリジナルドラマ「恋ばな」がLISMO Channelにて配信予定。

Questions About Cinema

Hideo Ishiguro

Q1：初めて見た映画
『劇場版ポケットモンスター ミュウツーの逆襲』
Q2：最も好きな映画
『アルマゲドン』
Q3：好きな映画監督
100人以上いるんで、1人には絞れないです！　ただ、好きな俳優といえば、ジョシュ・ハートネットさん。
Q4：音楽が印象的な映画
『ホワイト・ライス』『アイ・カム・ウィズ・ザ・レイン』
Q5：『彼岸島』といえば！
「戦い」ですね！

『ランディーズ』

池袋を舞台にケンカ無敵の若者たちを描いた人気アクションマンガ「ランディーズ」が満を持しての映画化。
全編にわたり、幾度となく登場する乱闘シーンを若き役者たちはどんな思いで演じたのか。
そして、完成を見てあらためて感じたことを主要キャスト4人に聞いた。

Photo by Osamu Hoshikawa　Text by Sumie Matsumoto
Hair&Make up by Hiromi Igarashi(Ange)　Styling by Yukiko Torimaru（浅利）
協力:STAR★OF THE COLOR

泥くさくて、それぞれの道を生きている
こういう仲間っていい



聡太郎　浅利陽介　川村陽介　久保田悠来

本気の乱闘シーンで終わった後はクタクタ

川村 『ランディーズ』、ついに完成したね。俺、完成を見て「クタクタになったかいがあったな」って思った。マンガが原作だけど、結構オリジナルな部分も多いし、原作の釣り堀のシーンが好きだったから、そこをやれたのはうれしかったなぁ。

浅利 あれは楽しかったよね。

川村 すげぇ楽しかった。自分たちの撮影が終わって、ほかの撮影やってる横で本気の釣りをやってみたりとか。

浅利 川村さん、バンバン釣るんだもん。僕、魚のフンしか釣れなかった。

久保田 それ、逆に難しい…(笑)。

浅利 僕が完成を見た感想は、「みんなカッコいいな」って。特に、川村さんと澤屋敷(純一)さんが戦うシーンの浴びせ蹴りから延髄切り。あれはカッコよかった！

川村 あの延髄切りは、本気で蹴ってるからね。

浅利 あれ、当たってるよね？

川村 当たってるどころじゃないよ。本番が一番強く当たっちゃって、後で澤屋敷が「いや〜、今のはキタぁ」って。俺、「ホントごめんね。怒らないで」って謝ったもん(笑)。

久保田 最後の乱闘シーンもすごいよね。あと、昔のシーンを屋上で撮ったとき、本物のお酒を飲んじゃったっていうの、あった…(笑)。

川村 そうそう。開けるはずじゃない瓶を開けちゃったんだよね。

久保田 それを川村君と浅利君がゴブッて飲んじゃって。でも、その部分、映ってなかったね(笑)。

聡太郎 僕、あのときズボン脱いだんだけど、そこもカットになってた(笑)。

川村 大変なことはいろいろあったよね。俺は、ほぼ毎日ケンカのシーンがあったから体力的にキツかった…。最後の大乱闘のシーンなんか、その後に武史(伊崎央登)とのタイマンがあって、その前にもタイマンシーンを撮って、それを全部1日で撮ったから終わったあとクタクタだったもん。

キメるとこキメてるからカッコいいなって思える

久保田 今回って、結構リアルファイトっていうか、基本ちょっと当てるみたいな感じだったからね。

浅利 そうそう。僕は殴られてばっかりで、ことごとく傷だらけ(笑)。実は今だから言えるんだけど、澤屋敷さんに馬乗りにされるシーンのとき、僕、脇腹の骨を痛めてサポーターを巻いてたのね。その上から乗っかってこられたから、すっごい痛くて(笑)。

全員 あはははは！

聡太郎 僕は、浅利さんがサポーターしてるなんて知らなかったから、ちょっとアクションシーンで痛かったとき大騒ぎしちゃって(笑)。

川村 そうだよ！

聡太郎 「僕、絶対、肋骨折れてます」とかずっと言ってて。そしたら浅利さんがホントに痛めてて、それを知った瞬間すごく恥ずかしくなりました(笑)。

浅利 はははは！

川村 なんかさ、『ランディーズ』って、すんげぇ泥くさくて、それぞれの道を人並みに生きてて、個性もバラバラなんだけど、男だから成り立つっていうか…。俺、「ああ、こういうグループいいじゃん」ってすごく思った。

浅利 僕は、赤星(聡太郎)のセリフだったかな。「チャラチャラしてるヒマなんかねぇだろう」っていうのがすごく胸に響いたなぁ。

久保田 僕は、蘭(川村)もそうだし、信一(高橋努)もそうだけど、男がひかれる男だなって。結局、みんなが『ランディーズ』に集まったのは蘭に魅力があるからだし、武史が執着を持ってるのも蘭だからだと思うんだよね。蘭はホント、すごいカッコいい。

川村 ありがとう(照笑)!!

聡太郎 でも、蘭だけじゃなくて、みんなそれぞれにカッコいい。そういう映画だなって思う。

川村 そうだね。それに、ずっとカッコつけてないところもよさだよね。ちゃんとダッセーし、地味に生きてるんだけど、キメるとこキメにいってるから、「カッコいいな」って思える。ぜひ、それぞれのカッコよさを見てもらいたいね。でも、あえて"ぜひ俺のここを見てほしい！"ってところを挙げるとしたら…、美紅ちゃん(木南晴夏)といるときのエロイこと考えてる顔とか動き(笑)。俺、美紅ちゃんとのシーンにすべてを懸けたんで(笑)。

聡太郎 それじゃ、今までの発言が台無しじゃない(笑)？

川村 いや、半分は冗談だけど、半分はホント。この作品ってケンカがすごく多いし、一見したらダークな、見てて苦しくなっちゃいそうな映画なんだけど、俺はキメるところとヘタレな部分のギャップをすごくつけたいと思ってて。だから、美紅ちゃんとのシーンは見てほしい。あとは、何と言っても最後の大立ち回り。ホントに疲れたんで見てほしいです(笑)。

聡太郎 僕は、澤屋敷さんにモンゴリアンチョップ的なものをするところ。その流れで三角締めをしたときの澤屋敷さんの表情が素晴らしいので、ぜひ見てほしいです。



川村 自分じゃないんだ(笑)。

聡太郎 あと、ピンサロのシーンでの僕を見てほしい(笑)。

川村 ホント面白いから本番で笑いそうになってツラかったよ(笑)。

久保田 僕は家族愛かな。僕だけ唯一、妻子持ちの役なので。みんなとはちょっと違った守るものがある感じを見てほしいです。

浅利 僕はしいて挙げるなら、ケンジが初めて殴るシーン。僕、タイガーマスクが好きだから、ちょっとトリッキーな感じのパンチにしたいなって思って。腹を殴られた後、ぐるっと回ってパーンと殴るあの動きは殺陣師さんの指導でやったんですけど、あそこは結構好きです。

川村 あれは超カッコよかった。男くさい、すげぇいい作品になったんで、ぜひたくさんの人に見てもらいたいね！

「泣ける映画は？」

川村 『アメリカン・ヒストリーX』。ツライ人生で、一番最後に弟がやられちゃってるのが衝撃でした。

浅利 『アバウト・シュミット』。ジャック・ニコルソン演じるおじいちゃんが、最終的に自分の好きなように生きる姿がいいなぁって。

久保田 『セブン』。最後のブラッド・ピットの葛藤に泣けました。

聡太郎 『ゲロッパ！』。父と娘がイザコザを越えて、気持ちを分かち合うシーンにジンとしました。



そうたろう
1986年1月29日生まれ。アメリカ・カリフォルニア州出身。AB型。99年、第12回ジュノン・スーパーボーイ・コンテストで審査員特別賞を受賞。09年は『カイジ 人生逆転ゲーム』など、6本の映画に出演。

かわむら・ようすけ
1983年6月5日生まれ。埼玉県出身。AB型。00年、映画デビュー。08年にドラマ「ROOKIES」で注目を集め、その後も『ROOKIES ―卒業―』『風が強く吹いている』など、話題作に多数出演中。

くぼた・ゆうき
1981年6月15日生まれ。神奈川県出身。A型。07年に舞台「switch」で初主演。以後、「ミュージカル テニスの王子様」など、さまざまな舞台作品に出演。映画での主要キャスト抜擢は本作が初。

あさり・ようすけ
1987年8月14日生まれ。東京都出身。O型。4歳から芸能活動を開始し、『ALWAYS 続・三丁目の夕日』や『イキガミ』、ドラマ「コード・ブルー ドクターヘリ緊急救命」など人気作に多数出演。2010年春には初の主演映画『手のひらの幸せ』が公開予定。

映画の麻雀シーンをきっかけにクランクアップ後に、川村さんと浅利さん、[illegible]さん、[illegible]さんたちと渋谷の雀荘に行ったのだとか。この日の取材中も和気あいあいと、本当に仲のいいランディーズメンバーでした！

Back Shot Story

★★★

Questions About Cinema

Sotaro
Q1：初めて見た映画
『ドラえもん のび太と雲の王国』
Q2：最も好きな映画
『グラン・トリノ』
Q3：好きな映画監督
井筒和幸さん
Q4：音楽が印象的な映画
『となりのトトロ』
Q5：映画『ランディーズ』といえば！
絆

Yosuke Asari
Q1：初めて見た映画
チャールズ・チャップリンの『黄金狂時代』
Q2：最も好きな映画
『凶気の桜』
Q3：好きな映画監督
フランシス・フォード・コッポラ
Q4：音楽が印象的な映画
『紅の豚』
Q5：映画『ランディーズ』といえば！
ランディ・バース

Yousuke Kawamura
Q1：初めて見た映画
『風の谷のナウシカ』
Q2：最も好きな映画
『アメリカン・ヒストリーX』
Q3：好きな映画監督
M・ナイト・シャマラン
Q4：音楽が印象的な映画
『魔女の宅急便』
Q5：映画『ランディーズ』といえば！
任侠

Yuki Kubota
Q1：初めて見た映画
『ドラえもん のび太の宇宙開拓史』
Q2：最も好きな映画
『セブン』
Q3：好きな映画監督
デヴィッド・フィンチャー
Q4：音楽が印象的な映画
『天空の城ラピュタ』
Q5：映画『ランディーズ』といえば！
輩(やから)



ランディーズ

監藤原健一 原永田晃一 出川村陽介 浅利陽介 木南晴夏 聡太郎 久保田悠来 増田修一朗 澤屋敷純一 高橋努 ほか
●11月14日(土)よりユーロスペースほか全国順次公開
桜井蘭(川村)は、ケンジ(浅利)とともに便利屋「ランディーズ」を営んでいた。そんなある日、蘭をつぶそうと最凶チーム「ジャイアンズ」のリーダー・武史(伊崎央登)が戻ってくる。 ➡P62

ランディーズと仲間たち！



ピンサロ店長・赤星丹次(聡太郎)
お笑い芸人・岡崎二郎(増田修一朗)
青果店の店主・春日正美(久保田悠来)
ケンカは無敵・桜井蘭(川村陽介)
心優しい・須藤ケンジ(浅利陽介)

ORIGINAL BOOK



永田晃一の連載デビュー作。池袋で便利屋を営むランディーズ。弱きを助け、強きを倒すその姿が読む者を熱くする。
『ランディーズ完全版』
永田晃一著 少年画報社刊
700円(税込)

便利屋"ランディーズ"の名前の由来は…



80年代、阪神タイガースに所属し史上最強の助っ人と呼ばれていた、ランディ・バース。"ランディーズ"の名前の由来であり、蘭の愛車にはバース人形が置かれている。

衣装協力／Slapshot (川村)、インディアン東京 ☎03-3409-7077 (浅利)

『大怪獣バトル ウルトラ銀河伝説 THE MOVIE』

南 翔太

Photo by Rena Fujimoto　Text by Yoko Oochi

子供たちの永遠のヒーローと数多の人気怪獣たちが勢ぞろい。TVシリーズ「ウルトラギャラクシー　大怪獣バトル」がこのほどパワーアップ、ついに劇場へ。



ウルトラマンと同じ世界に立てたことが最高にうれしい

今回、僕が演じたレイは異星人と地球人とのハーフで、古代の怪獣を使って戦う力を持っているという役です。だから決してウルトラマンに変身することはないんですが、今回の映画で「ウルトラマン」の黒部進さん、「ウルトラセブン」の森次晃嗣さん、そして「ウルトラマンダイナ」のつるの剛士さんや「ウルトラマンメビウス」の五十嵐隼士さんと共演できたことがとてもうれしかった。

同時にこれまで放送されてきたTVシリーズの「ウルトラギャラクシー　大怪獣バトル」がようやくウルトラマンの世界と同じラインに立つことができたと感じて感慨深いです。だからあらためてレイを応援してくれる子供たちに「ウルトラマンに変身しなくても、ヒーローになれるんだよ」と伝えたい。

レイとの出会いは大きくて、実はこの役を頂くまで、三枚目の役が多かったんですね。なのでシリーズの最初はかなり戸惑いました。それまでのクセで常にリアクションしていないと不安で仕方なかったのに、しゃべらずに目で演技することや、思いをたたえたたたずまいや動き、といったことをものすごく勉強させていただきました。

このシリーズに出演して変わったのは、内面だけでなく外面も作り込もうという意識です。実は番組当初、共演者で大先輩の小西博之さんに体のキレの悪さを指摘されて、カッコいい動きに憧れてキックボクシングと殺陣と現代アクションを習い始めました。気持ちだけでなく、役者としての動きや体まで磨くことの意味を教わりました。

そうやって3年間、レイという役に挑んできたので、今回、映画になったことが本当にうれしい。実は試写を見るまでは楽しみと不安で、実際に見た後は感激で泣きそうになっちゃった(笑)。初めてワイヤーアクションも経験して、つられる状態が意外に苦しいとか、いろいろ発見もあって面白かったです。でも実は今回、一番楽しかったのは激情のまま、悪に流されてしまうレイを演じることができたこと。普段は正義の塊なので、ぶち切れるという経験が新鮮でした。続編があるなら、悪の中に眠る正義という世界観を描く物語で演じてみたいです。でもまだ今は、先のことは考えられなくて、与えられたレイという役を精いっぱいやっていきたいんです。



終始、笑顔で映画の感想を話してくれた南さん。インタビュー中もクールなレイとは打って変わってニコニコと身ぶり手ぶりを入れてハキハキ話す姿もほほえましく、意外な素顔を披露してくれました。

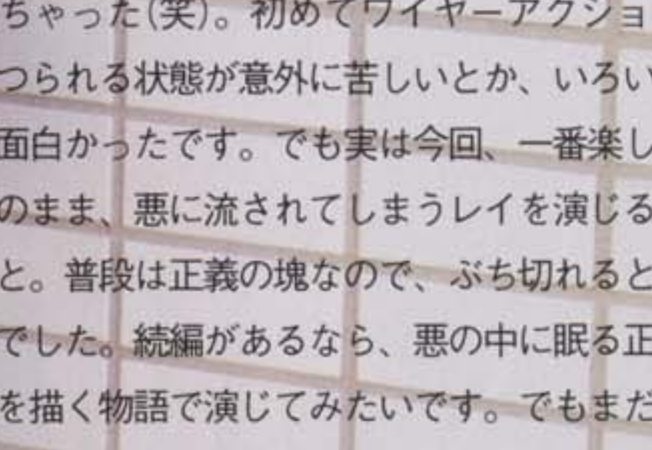
★★★

Questions About Cinema

Shota Minami

Q1：初めて見た映画
アニメ『はれときどきぶた』
Q2：最も好きな映画
『ニュー・シネマパラダイス』
Q3：好きな映画監督
最近はコーエン兄弟です
Q4：音楽が印象的な映画
『バック・トゥ・ザ・フューチャー』
Q5：『ウルトラマン』といえば！
夢！　です

みなみ・しょうた
1982年3月27日生まれ。愛知県出身。B型。ミュージカル「秘密の花園」でデビュー。ドラマ「ウルトラギャラクシー　大怪獣バトル」（BS11デジタル）などで主演を務める。



大怪獣バトル
ウルトラ銀河伝説　THE MOVIE

監坂本浩一　脚岡部淳也　樫原辰郎　小林雄次　出南翔太　小西博之　上良早紀　後藤光利　八戸亮　五十嵐隼士　つるの剛士 ほか

●12月12日(土)より全国公開

ウルトラマンの故郷・M78星雲「光の国」に過去最大の危機が訪れる。はるか数万年前、宇宙牢獄に幽閉されていた巨悪が解き放たれたのだ。"怪獣使いのレイ"（南）はウルトラマンらと立ち向かう。

➡ P63



この作品で、女の子は大事にしなきゃいけないと思いました

『ゼロの焦点』

崎本大海

生誕100年を迎える日本ミステリー界の巨匠・
松本清張の同名傑作小説が映画化された。
戦後12年目の日本を再現した時代性と、失踪した夫の謎を追う
妻の視点で、多面的な人間の本質を見つめる本作。
ベテラン俳優陣の中、唯一の若手として光る崎本大海が新境地を語る。

Photo by Yasuyuki Takayama　Text by Mayumi Kubo
Hair & Make up by Masako Hosokawa（Bellezza Studio）
Styling by Gen Miura（FROM UP）

Questions About Cinema

Hiromi Sakimoto

Q1：初めて見た映画
親と映画館で見た『魔女の宅急便』
Q2：最も好きな映画
ディカプリオ好きなので『ギャング・オブ・ニューヨーク』
Q3：音楽が印象的な映画
ビンセント・ギャロの『バッファロー'66』
Q4：好きな監督
監督と言われると途端に分からない…
Q5：『ゼロの焦点』といえば？
雪待ち。5、6時間待ちが当たり前でした(笑)



当時のエネルギー感が逆に新鮮だった

　この映画は、ひと言でいうとホントに刺激的でした。若い人たちが見たらすごいショックを受けると思います。というのは、今は実際の生活でもあまり他人に"踏み込まない"感じだし、最近の映画は物事を客観的にとらえたものが多いですよね。だけどこの映画は、誰もが生きるのに必死だった57年のお話で、人間のパッションというかエネルギーがすごくあって、一線を越えて踏み込んでいる感じがして新鮮でした。雪が降る寒い金沢ですごくエグい出来事が起きるんですけど、それが単純明快ではなく、表に見えているものと裏で進行しているものが違う。そこは自分でも常に意識して取り組もうと思いました。

　演じた鳴海亨は原作にない人物で、中谷美紀さんが演じられた社長夫人・佐知子の弟役。亨は冷めているように見えて、いら立ちとか反抗的な部分を内面に持っているようなところがあって、求められているのは表に出るものだけじゃない。そこは作品全体のトーンと同じですね。セリフも少なかったし、内に秘めているものを表現するのはホントに難しかったです。

　犬童（一心）監督に最初にうかがったのは、「君は、お姉ちゃんのことを一番に思っていることを考えてくれ」ということ。僕には姉はいないですけど、母を思う気持ちを姉に置き換えて考えました。自分が守られているんだけど、すごく心配しているところもあって、でもそれを素直に表現できないところから入っていった。監督には、とにかく力を抜くことを指示されたのが印象に残っていますね。大変だったシーンは、中谷さんが取り乱しているのを僕が必死で止めるところ。そこへ夫役の鹿賀丈史さんも入ってくるんですが、監督は血の量や雪の加減にすごくこだわりがあったらしく、撮影に24時間もかかりました(笑)。

　お2人を前にすると、僕がいくら作り込んで入っても太刀打ちできないんですよね。だったら逆に、目に見えたものをそのまま受け止めてレスポンスしていくしかないと、腹をくくりました。ホントに自分が作り込んだものなんてちっぽけだなと思わされるぐらい、でかい俳優さんたちでしたね。でも子役時代には、渡辺謙さんに蹴っ飛ばされても向かっていったり、反町隆史さんにぶん殴られても立ち上がったりするシーンも経験してるから、大俳優さんと格闘するのは慣れてるんです(笑)。その当時は何も考えずにやっていた部分があるけど、今は逆に考えすぎてもよくないのかなと思ったりして…。考えた末に現場に行っても、頭の中で固めたものに意味がなくて、生のリアクションなりアクションになる感覚が今回は特にありました。

　この映画は松本清張の原作ですが、女性の視点というのが斬新ですよね。ただ、いい男が1人も出てこないので(笑)、男性の下劣なところ、女性を見る目線ひとつにしても大事なファクターだったと思います。ホント、この作品で女の子は傷つけちゃいけない、大事にしなければいけないと思いました(笑)。僕が思うカッコいい男とは、家庭をちゃんと守る人なんです。でも、今の自分は家庭を持つことはまだ想像できなくて、自分と仕事、友達や仲間が大事。将来、家族を守るためには仕事をしなきゃいけないけど、どうせなら自分の好きな仕事をしたいですね。ただ、僕はひと目惚れで恋しちゃうことが多くて、仕事とのバランスが取れずにダメになってしまうことが多いんです(笑)。だから僕の夢は、一生かけて大事にしたいと思える女性に出会うこと。あと、空を飛ぶことや、役者として"これ以上ない"という作品を作る夢も叶えたいですね。

「泣ける映画は？」

　一番泣いたのは、ディカプリオの『ブラッド・ダイヤモンド』。ひねくれ者が自分の過ちに気づきながらも素直になれなくて、酒を飲んで泣くシーンが好きです。当時、悩んでいた自分と重ね合わせていたのかな(笑)。

さきもと・ひろみ
1986年8月23日生まれ。東京都出身。B型。子役時代からドラマなどで活躍。主な映画出演作は『かまち』(03)、『男たちの大和／YAMATO』(05)、『破天荒力～箱根に命を吹き込んだ男たち』『まぼろしの邪馬台国』(08)。現在、テレビ「クイズ！ヘキサゴンII」にレギュラー出演、つるの剛士とのユニット"フレンズ"のCD「泣いてもいいですか」が発売中。



人懐っこい笑顔を絶やさず、カメラマンにはポーズや表情の要望を自ら尋ねる気遣いがあり、素直に一生懸命話す態度は好感度抜群！　この数か月、歌に集中して芝居をしていないことも役者に生かせると言い、「僕、ポジティブなんです」と再び笑顔が返ってきた。



ゼロの焦点

[監督]犬童一心　[原]松本清張　[脚]中園健司　[出]広末涼子
中谷美紀　木村多江　杉本哲太　崎本大海　鹿賀丈史 ほか
●11月14日(土)より全国東宝系にて公開

　鵜原憲一（西島秀俊）は禎子（広末）と結婚して7日後、仕事の引き継ぎのため金沢へ向かい、行方不明に。見合い結婚で夫の過去を知らない禎子は手がかりを捜すために金沢へ旅立つ。そこで得意先の社長夫人・室田佐知子（中谷）と受付嬢の田沼久子（木村）と出会うが、同じころ発生した連続殺人事件の被害者らが憲一にかかわる人々と判明する。

➡ P62

松本清張とは?

1909～1992年。社会派推理小説を得意とした小説家。「点と線」「黒革の手帖」など多数の作品が映像化されている。53年に「或る『小倉日記』伝」で芥川賞受賞。

『銀色の雨』

鈴井貴之監督 *Takayuki Suzui* × 賀来賢人 *Kento Kaku*

浅田次郎の同名短編を映画化した『銀色の雨』で、初めて地元・北海道以外で撮影をした鈴井貴之監督。バラエティ番組でも知られる彼が、主人公・和也役に抜擢したのは、賀来賢人。そんな2人が撮影裏話や青春の苦みについて語り合う。

Photo by Tomoki Qwajima（SOLTEC）　Text by Hibiki Kurei
Hair&Make up by Tatsuya Nishioka（鈴井）　Akemi Samo（賀来）
Styling by Kyu（鈴井）　Shogo Itoh（賀来）





鈴井　今だから言えるんですが、和也役のオーディションでは、かなり多くの人に会っていて、ほぼ決まりかけていたころ賀来君に会いました。会った瞬間に決めてしまいましたから、まさに9回裏サヨナラ逆転ホームランだったんですよ。朗らかで素敵な笑顔を持っているんだけど、どこか不安げな表情をしたり、緊張していたり、そんな微妙なバランスがよかったです。

賀来　あのオーディションの日は、ドラマの収録が押してしまって、予定の時間よりも1時間ぐらい遅れてしまったんですよ。

鈴井　ああ、そうだったね!!

賀来　本当に申し訳ありませんでした。1人だったこともあって、何か気まずくてそんな表情になったんだと思います（苦笑）。

鈴井　それまで、僕が持っていた和也のイメージは、ずっとうつむき加減でいるような子。でも、賀来君に会ったことで、人間って悩んでいる渦中であっても、ほっとしたり、笑顔になったりすることがあるんじゃないか、きっと、それを表現してくれるんじゃないか、と思ったんですよ。だから、いい印象でしたよ…初対面は（笑）。

賀来　それって、どういうことですか（笑）。僕が鈴井さんに初めてお会いしたときの印象は、テレビで見ていた「水曜どうでしょう」（HTB）のミスターのイメージとは違って、目が笑ってなくて、なんか怖かったです（笑）。

鈴井　初対面のイメージは悪くしておいて、付き合っていくうちに意外にいいヤツだなと思わせる作戦なんですよ（笑）。

賀来　それ、自分から言っちゃダメなんじゃないですか（笑）。そういえば、大泉（洋）さんに初めてお会いしたときに、19歳でミスターと仕事をするのは早すぎると脅されたんですよ。

鈴井　余計なことを言う男だな（笑）。

演者の葛藤と監督のこだわりがぶつかり合った雨のシーン

鈴井　これまでは自分が北海道在住だから、北海道の作品を撮り続けてきたり、自分が作り出した物語じゃないと監督したくない、という気持ちがありました。でも、そういうこだわりがナンセンスに思えて、北海道以外の場所で、原作ものの『銀色の雨』に挑戦してみようと。賀来君は、今回初主演という挑戦をしたわけだよね？

賀来　そうですね。初主演ということで、緊張もありましたし、現場での自分の立ち位置などを考えていました。でも、現場に入ると、スタッフさんはベテランの方が多く、共演者の方も同年代の方はいなかったんです。だから、まるで孫のように優しく扱っていただいたので、ありがたかったです。監督とはいい意味で緊張感があって、いろいろお話をさせていただいて、最終的にはいい方だなと（苦笑）。

鈴井　（笑）。初主演で、今まで演じたことのない役だけに、大変だったと思います。でも、ウソじゃなく、賀来君はとにかく理解力が早かったです。1つ話せば、すぐに分かってもらえて次に進むことができたのは助かりました。

賀来　確かに和也はこれまでやったことのない役でした。リアルな悩みを抱



この作品に参加して、
人間として成長できたと思います

頑張れないときは、
じっと雨がやむのを待てばいい



Takayuki Suzui



すずい・たかゆき
1962年5月6日生まれ。北海道出身。O型。タレント・構成作家としてTV番組「水曜どうでしょう」(HTB)などを手がけ。01年に『man-hole』で監督デビューし、その後『river』『銀のエンゼル』を続けて発表。10年、新たなプロジェクト「OOPARTS」を始動。オーディション開催中！ 詳しくはhttp://ooparts-hokkaido.net/



かく・けんと
1989年7月3日生まれ。東京都出身。O型。07年映画デビューし、『Little DJ～小さな恋の物語～』や『ぼくたちと駐在さんの700日戦争』などに出演。また、09年にはTVスペシャルに続き、『ごくせんTHE MOVIE』に出演。『海の金魚』『ソフトボーイ』が10年公開予定。

Kento Kaku

えていながらも、喜怒哀楽を顔に出すことがないわけですから、演じる上でのテンション も難しくて。

鈴井 分かります。余計なセリフも、動きも一切ない芝居ですからね。でも、カメラの前にいる限り、演技をしなくてはいけない。それを僕が要求するわけだから、不安になるのは分かる。でも、リアルな日常の物語で、奇想天外な演技をされてしまうと、それだけで興ざめしてしまうんですよね。そういう意味では、雨のシーンもどれも難しかったと思います。11月中旬に、皆さんびしょぬれになって、震えながら芝居をしていましたから。かわいそうだし、なんて過酷なことをさせてしまったのかと。

賀来 とにかく寒かったです(笑)。特に撮影前半では和也の役柄もつかめないまま、毎日のように、ただひたすら雨の中を走ってましたから。悩みまくりです(笑)。

鈴井 はははは(笑)。でも、その悩んでいる姿が、逆にいい表情になるんですよ。僕自身も、無理しなくていいですよ、と言いながらも、心のどこかでは「無理しろよ」と思っていました(笑)。

賀来 カットがかかるごとに、大丈夫？と聞いてくださってましたよね。こちらとしては大丈夫ですと言うしかない…です。雨のシーンの中では、クライマックスに海岸で泣きながら雨を受けるシーンが好きなんです。あのシーンは、役に入り込めた！と自分で思えたこともあって、本当に和也になって雨を浴びています。

鈴井 監督としては、どのシーンが一番とは言えないですけど(笑)。でも、物語の導入となる、和也が新聞配達をしているときの雨のシーン。あの薄暗さや息苦しさは、この作品の世界観を表していると思います。

見終わった後に日常へと組み込まれていく作品とは

賀来 今回『銀色の雨』という作品に参加できたことで、僕自身、仕事や現場の取り組み方についての考え方が変わったと思うんです。主演という立場に立たせていただいたり、(中村)獅童さんと共演させていただいたことで、演技に対する集中の仕方も、完全とは言えないですけれど、理解できたかなと。自分で言うのもなんですが、人間として成長したと思います！

鈴井 僕としては、相変わらず地味な作品を作ったと思いますね(笑)。でも、決して地味＝悪いことじゃないんだと。いくら小さい物語でも、いろんな息吹があって成立している。この作品に関しては、ただ劇場に見に行くだけでなく、見終わった後に見た方の日常になんらかの形で組み込まれていってくれれば。1人でも多くの方が、そういう作品としてとらえてくれたら、うれしいです。

賀来 僕が和也の年齢だったころは、やはり理由もなく、いろんなものにイライラしていたと思うんです。僕も、他人に相談ができなく、自分で抱え込んでしまう性格ですから。だから、この映画は日常生活の隠し撮りを見ているような感覚ですね。そういう意味では、いろいろ感じやすい僕と同世代の人に見てほしいと思うんです。

鈴井 理由もなく周りにイライラしてしまうって、何かに気づいてしまったことなんだと思います。つまり、賀来君も和也も、少し大人なんですよね。みんな生きること＝前に進む、頑張るイメージがあるけれど、何かの理由から頑張れないときもある。そういうときの対処法は、じっと雨がやむのを待つ。人生いろんなことがあるけれど、時間の経過は、何事にもかえられない特効薬。この映画は、それを教えてくれると思います。

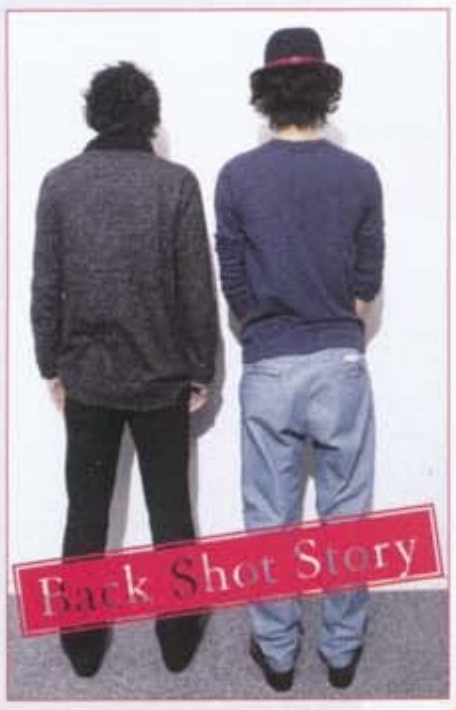
「泣ける映画は？」

鈴井 『火垂るの墓』の節子の姿を思い出せば、いつでも泣けてくる。最近、何を見ても泣けるんですが…(笑)。

賀来 『帰ってきたドラえもん』で、のび太が頑張る姿には号泣ですよ。



衣装協力／カーディガン ¥13,650 イルツ(キッチン)、シャツ ¥16,800 サージュデクレ(バイズ表参道ヒルズ店)、ベルト ¥14,700 シカタ(シカタ日本)(鈴井)、カットソー ¥8,925 アダム エ ロペ(アダム エ ロペ白金台本店)、ブレスレット ¥12,600 ジュディー・オウガー・デザイン(ロストヒルズ原宿店)、シューズ ¥50,400 クルーズ(アーバンリサーチ ドアーズ 茶屋町)(賀来) ※表記の無いものはすべてスタイリスト私物



打ち上げ以来、約半年ぶりに監督と再会！ ということで取材前は若干緊張していた賀来さん。一方、タレントとしても活躍している鈴井監督は、写真撮影では次々にポーズを決めてくださいました。賀来さんから「なんか監督らしくないです(笑)」と、不思議がられていました。





銀色の雨

監脚鈴井貴之　原浅田次郎　脚宇山圭子
出賀来賢人　前田亜季　中村獅童　濱田マリ　音尾琢真
大島優子　佐々木すみ江 ほか
●11月28日(土)よりシネマート新宿、シネマート六本木ほか全国順次公開

新聞配達をしながら、陸上部の練習に励む高校2年生の和也(賀来)。ある日、母の[illegible]緒(濱田)とケンカした和也は、家出をして東京へ行こうと[illegible]るが、最終電車を逃[illegible]てしまう。雨の中、駅前で途方に[illegible]れる彼の前に[illegible]かつて弟のように
かわいがってくれた[illegible](前田)が現れる。 ➡P63

Characters

3人の奇妙な関係

ある雨の夜に偶然出会う3人。ひょんなことから、菊枝の家に同居することになった和也と章次。菊枝を姉のように感じる一方で、章次に亡き父の面影を見る和也。



スナック勤務・菊枝
(前田亜季)
以前、和也を弟のようにかわいがっていた。傷ついたり、捨てられたりした人や猫をほっておけない性格。ネイリストだが、夜はスナック勤務。



高校生・平井和也
(賀来賢人)
父を知らずに育った、高校2年生。陸上部に所属しているが、日ごろのやりきれない気持ちから家出をし、偶然にも菊枝たちに出会う。



プロボクサー・岩井章次
(中村獅童)
病気の母のために18年ぶりに帰郷した、元日本チャンピオンのプロボクサー。昔の不良仲間・柳沢から恨みを買い、暴力的な圧力をかけられる。

原作は「鉄道員(ぽっぽや)」の浅田次郎

「地下鉄(メトロ)に乗って」、「鉄道員」などが映画化されている小説家・浅田次郎。本作の原作となった「銀色の雨」は短編集「月のしずく」に収録されている一編。原作では昭和40年代の大阪を、現代の鳥取県米子市に舞台を変え描いている。



「月のしずく」文春文庫刊 610円(税込)

TEAM NACSが特別出演！

メンバーの1人、音尾琢真は章次(中村獅童)の恩人役という重要な役で出演。ほかのメンバーも、あるシーンに特別出演しているので要チェック!!





うぉんびん
1977年9月29日生まれ。韓国出身。O型。96年、俳優・モデルデビュー。00年にドラマ「秋の童話」、02年には深田恭子と共演した「フレンズ」でブレイク。05年に兵役に就くため、『マイブラザー』を最後に活動休止。

ウォンビン

WON BIN

『母なる証明』

『殺人の追憶』のポン・ジュノ監督による、ミステリー『母なる証明』。殺人事件の容疑者となる、純粋無垢な青年・トジュンを演じるのは韓流四天王の1人、ウォンビン。兵役後、5年ぶりの復帰となる彼が、なぜこの難役に挑んだのかを語った。

Photo by Osamu Hoshikawa　Text by Hibiki Kurei

綱渡りをしているような難役に挑んで得たもの

5年ぶりの復帰作として、いろんな作品の出演依頼を頂いたんですが、この作品ほど自分の心を動かした作品はありませんでした。俳優として、トジュンという役に挑戦してみたいと思ったんです。もちろん、これまで繊細な演出が際立つ作品を撮ってきたポン・ジュノ監督も、彼が書いた脚本も素晴らしい。そして、〝韓国の母〟と称される、大先輩のキム・ヘジャさんとも共演できる。もし、このお話を断ったら、きっと今後の人生で後悔するだろう。つまり、たった一度だけのチャンスだと思ったんです。

監督からは、トジュンのキャラクターに関する具体的な説明はなかったんです。反対に、監督からどんな人だと思う？　と聞かれたほどでした(笑)。そのため、現場に行ってから答えを見つけ出した感じですね。二重人格者と思える部分があったかと思えば、純粋なところもある。しかも、それは純粋に見えるではなく、純粋さそのものでなくてはいけないと。そういう、いろんな面を持ち合わせている役柄なので、演じるときに、どこまでどう表現していいのか、というサジ加減が難しかったですね。やりすぎては興ざめしてしまうわけで、まるでサーカスの綱渡りをしているようでした。

撮影中には、たくさんのエピソードがあったんですが、蒸し鶏を食べるシーンが忘れられません。セリフではなく、監督のイメージに合わなかったようで、NGを連発してしまいました。最終的には、鶏の脚を16本も食べていました。朝からの撮影だったので、おなかいっぱい食べさせてもらいましたが(笑)。

この作品は、30代になっての初仕事でもありました。20代のころは物事を1つの角度からしか見ることができなかった気がします。ほかのことを見渡す余裕がなかったんですね。30代になって現場に行ったところ、自分以外にも、目を向ける余裕ができていた。演技面でも、どこかほぐれたような気がしますね。ひょっとしたら、相手役がヘジャさんだったことで、現場で助けていただけるのではないかと、余裕が出たのかもしれませんが(笑)。大ベテランなのに、新人のような新鮮な気持ちで、現場に取り組む彼女の姿には驚きました。本当に素晴らしい女優さんだと思います。

監督は厳しいという噂がありますが、実際に組んでみるとそんなことはなく、本当に素晴らしい方でした。周りにいるキャストやスタッフに対して、配慮を忘れることがない。人間的にも惚れ込んでしまったんです。それにディレクションが分かりやすい。自分なりの考えを妥協しない監督だとは思いますが、まずは俳優の意見を尊重してくれて、そこに足りないものを足していく。それから、ほかの監督と違うのは、演技をするときのたとえ方が実にうまいんですよ。

5月のカンヌ映画祭で初めて全編を見ることができました。そこで、皆さんがスタンディングオベーションをしてくれたんです。心から拍手をしてくれたことが分かったので、本当に感動してしまいましたね。ドジュンは確かに難しい役でしたが、達成感ややりがいも感じて、この作品を選んで本当によかったと思っています。

結果的に『母なる証明』は、自分にとって、特別なプレゼントのような作品になりました。自分の俳優人生において、新たなスタートを切れたような作品でもあります。それまでが俳優人生の第1ラウンドだとしたら、この作品以降は第2ラウンドだと言えるでしょう。もちろん、俳優としてこれからもさまざまなジャンルの作品に出演して、いろいろな演技に挑戦したいと思っています。これまでの僕の作品を気に入ってくれていた方が、この作品を見たら、驚いてしまうかもしれません。なぜなら、素敵な夢見るストーリーだったり、王子様のような姿で登場するわけではありませんから(笑)。そういった期待にはお応えできていないんですが、テーマは誰もが感じる母親の情です。ヘジャさん演じる母親の視点を追って、一流のミステリーを楽しんでもらえたらうれしいです。そして、日本の方にもこの作品と、トジュンを愛してもらいたいです。





母なる証明

公開中

夫を亡くして以来、一人息子のトジュン(ウォンビン)と静かに暮らす母親(キム)。ある日、町で殺人事件が起こり、トジュンが第一容疑者になる。弁護人も頼りにならない中、母は息子の無実を証明しようとする。

原監脚ポン・ジュノ　脚パク・ウンギョ　撮ホン・クンピョ
出キム・ヘジャ　ウォンビン　チン・グ　ユン・ジェムン　チョン・ミソン ほか　09年・韓国



自分の俳優人生において、新たなスタートを切れた作品

取材場所である、夕方の銀座の街並みに似合う、スーツ姿で現れたウォンビン。穏やかな表情が草食系男子な雰囲気を漂わせる。そんな中、カメラマンの「子供をあやすような優しい笑顔を」という要望に対し、「難しいですね…」と困惑した笑顔が印象的でした。



日本人女性のリアルな姿が描かれていると思います

ふぁん・いーちぇん
1978年11月3日生まれ。台湾出身。B型。02年CDデビュー、現在までに5枚のアルバムをリリース。ドラマ、ミュージカル等にも出演。09年、オムニバス映画『愛到底』（日本未公開）など。

ファン・イーチェン

VAN

『海角七号／君想う、国境の南』

台湾映画史上歴代第1位となった、空前のヒット作『海角七号／君想う、国境の南』。本作で日本人女性と恋に落ちる青年・アガを演じた、ミュージシャンのファン・イーチェンを直撃した！

Photo by Osamu Hoshikawa　Text by Hibiki Kurei

なぜ、この作品が台湾でここまでヒットしたのかというと、物語の細部にわたって描かれているのが、台湾人のごく日常的な出来事であること。そして、台湾でも映画ではあまり使われない台湾語がいっぱい出てくるので、子供から老人まで楽しめる、親しみやすい作品に仕上がっているからなんです。

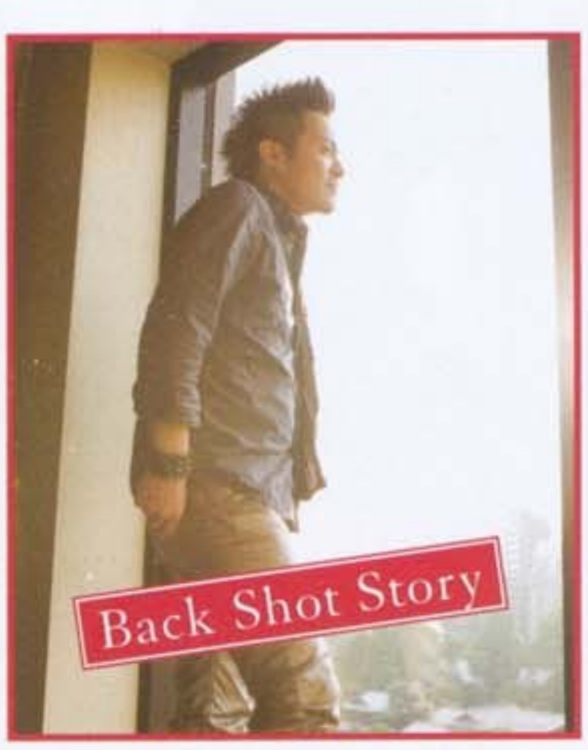
今までドラマには出演したことはありましたが、映画出演は初めてでした。だから、まずは現場に慣れること自体が大変でしたね。カメラ位置ひとつとっても理解不能。それを把握できていないことに不安を感じました。（歌手としての）自分のキャリアが役立ったのは、クライマックスのシーンでステージに立って歌うところだけです（笑）。映画を通して、主演は1人かもしれないけれど、ほかの共演者の方を含め、全員が1つにならないといいカットは撮れないんだということを、身をもって感じましたね。

この作品には、友子という日本人の女性が出てきます。僕が日本のTVドラマを見ていて持っていたイメージだと、日本の女性は声が小さくて、とても優しいけれど、自己主張がなかなかできなかったりする…。でも、共演の田中千絵さんが演じた友子は気性が荒いんですよね。そういう意味では、リアルな日本人女性の姿が描かれているのかなと思います。それに、実際の田中さんは声が大きい女性でした（笑）。

アガはミュージシャンの夢に破れた青年です。僕自身もデビュー当初はバラードをメインに歌い、マイルドなイメージだったんです。その方向性が正しいのか、自分でも分からなかった時期もあったし、それを否定する自信もありませんでした。でも、自分の本質はどこにあるのか、気づき始めたんです。それを問い詰めた結果、無理はしないことに行き着いた。以前よりワイルドになったかもしれませんが、今のほうが素に近い自分だと思うんです。この『海角七号～』という作品に出会ったことで、やっとスタートラインに立てたのかもしれません。だから、誰々とセッションしたいとか、誰と共演したいとか、そんな贅沢なことは言えないです。唯一の望みとしては、日本でもリリースされる映画のサントラの中に入っている、自分が作った曲を聴いてもらい、1人でも多くの方にファン・イーチェンを知ってもらえたらうれしいですね。

「泣ける映画の」

『アルマゲドン』で、ブルース・ウィリス演じるハリーが、娘役のリヴ・タイラーに電話をするシーンは、何度見ても胸打たれます。



Back Shot Story

今や台湾で知らない人はいない大スターでありながら、気さくに取材に応じてくれたイーチェン。ワイルドな面を持つ一方、撮影中にはカメラマンの要求ににはにかんだり、今でも「ドラゴンボール」のファンであることを熱く語ってくれるなど、どこか少年らしさも見せてくれた。



海角七号／君想う、国境の南

●12月より、シネスイッチ銀座ほか全国順次公開

ミュージシャンの夢破れ、郵便配達のバイトをしている青年・アガ（イーチェン）は、郵便物の中から、日本統治時代の住所「海角七号」あての小包を見つける。そこには、日本人教師から台湾人女性への恋文が綴られていた。

➡ P69

監脚ウェイ・ダーション　出ファン・イーチェン　田中千絵　中孝介　シノ・リン　レイチェル・リャン ほか　08年・台湾



CLOSE UP TALK クローズアップトーク

再タッグ!!

『曲がれ！スプーン』

本広克行→監督

KATSUYUKI MOTOHIRO

←上田 誠 原作・脚本

MAKOTO UEDA
（ヨーロッパ企画）

05年に劇団“ヨーロッパ企画”の舞台「サマータイムマシン・ブルース」を映画化した本広克行監督と、同舞台の作・演出を担当した上田誠。2人が再びタッグを組み、舞台「冬のユリゲラー」をベースにした映画『曲がれ！スプーン』を作り上げた。舞台作品を映画にするという難作業に、2人はどう立ち向かったのか？

Photo by Osamu Hoshikawa　Text by Aya Yokomori

『サマータイムマシン～』で思ったこと、気づいたこと

本広　この映画をやろうと思った個人的な理由は、『サマータイムマシン・ブルース』の復讐です(笑)。全然当たらなかったから、今度こそと。

上田　言ってましたよね。

本広　まずそれがあって、そこにいろんな理由がくっついていきました。この作品から逆に『サマータイムマシン～』に注目させたいとも思ったし。

上田　僕は『サマータイムマシン・ブルース』で初めて映画の脚本をやらせていただいて、あのときにいろいろ気づかされたものがあったんです。例えば映像なら、カメラが1人の人物に寄り添えるということ。『曲がれ！スプーン』の基となった「冬のユリゲラー」は群像劇なんですが、それなら映画は主人公の長澤まさみさんに寄り添っていこう、と。

本広　そもそも、彼女が主役というところから企画が始まりましたからね。

上田　もともと「冬のユリゲラー」は、「あの娘にサイコキネシス」という作品が基なんです。それは超能力番組の楽屋が舞台で、超能力否定派の人がガンガン超能力を使い始めてしまい、最後には全員が宙に浮かんでいるって話で…。ま、本当に今話していても、皆さんがキョトンとしてしまうくらい膨らまない話なんですけど(笑)、それを喫茶店を舞台にした話に変えたのが「冬のユリゲラー」なんです。

本広　今回の映画でも、かなり脚本は



この映画を作るきっかけは "復讐"でした(笑)

なんだかんだで13稿くらい書き直しましたよね

書き直してもらいましたね。

上田　確か13稿でしたかね(笑)。でも、「冬のユリゲラー」は今までに再演もしていて、そのたびに手直しをしているから、この作品自体を書くのは実は5回目だったんです。

本広　映画の公開前後にまた再演するみたいですけど、そのときもまた書き直すんですか？

上田　もちろんしますよ(笑)。

本広　普通そんなに書き直せないですよ。上田君がすごいのは、そうやってメディアによって作品を"変換"できるところ。普通できないですよ。

上田　いや、"変換"は面白いので。

本広　今回の映画では、演出的にはより細かいところを描くことにしました。例えば瓶が割れるシーンは、ただ割れるだけじゃなくて、コルクが回りながら抜けて、その後に割れるとか。ある人物に扮装するシーンがあるんですけど、その衣装はどこから持ってきたのかとか、そういう"つながり"にも気を配りましたね。

最初はラブストーリーの要素も入っていたんです

上田　『サマータイムマシン・ブルース』は、昨日と今日をタイムマシンに乗って行き来する話だったじゃないですか。主役を追いかけていたら、昨日が今日になって、昨日にいたら、さっきまで主役だった奴らが敵になっているような…主観と客観が入れ替わる構造だったんです。今回もそれと同じで、長澤さん演じる米(よね)ちゃんを追いかけていたら、カフェに集うエスパーたちにだんだん寄っていって、米ちゃんがカフェに来たときには彼女のほうが敵になっているという構図。その入れ替わる感覚をうまく出せたらいいなと思っていました。

本広　ところで「冬のユリゲラー」を上演したときは、劇団員のキャスティングはどう決めていったんですか？

上田　体形かなぁ(笑)。中川（晴樹）さんは目が大きいから透視能力を持つエスパーにしようとか、そんなんだった気がします。でも、あらためて言われると何でしょうね(笑)。あとは、うちの劇団で中川さんは赤レンジャー的な存在で、そんな人が一番しょうもない透視能力だったら面白いかな…とか(笑)、あんまり決めた理由は覚えてないですね。逆に監督は、今回の映画でなぜああいうキャスティングにされたんですか？

本広　まずヨーロッパ企画とやると決めたときに、中川君と諏訪（雅）君を入れてやるべきか、それとも今をときめくイケメンを入れたほうがいいのか悩んで(笑)。そのときに、長澤さん以外は有名でなくても、とにかくうまい役者さんを集めようと思ったんです。

上田　確かに、長澤さんの恋愛対象になるような男性はいないですよね。

本広　最初のころは、ちゃんとボーイフレンドがいたのにね。

上田　お台場でUFOレポートをしている米ちゃんの後ろを、米ちゃんの彼氏がデートしているとか。

本広　それで「私は仕事してるのに何をしてるの！」みたいなシーンがあったんだよね(笑)。

上田　実際に描いてみたら違った？

本広　やっぱりこの映画は、藤子不二雄っぽい世界観で、子供たちを楽しませなきゃいけないと思ってて、小学生的な感触を入れたかったんですよね。

上田　監督の要望で、彼氏に振られてトイレで泣きまくっている米ちゃんの姿を書いたこともありましたね。全部ボツになりましたけど（笑）。

本広　恋愛要素を入れちゃうと、なんかおかしくなっちゃうんですよね…。

上田　テレパシーを使える椎名が恋愛対象になっていたのに、その役に辻修さんが決まった途端に「恋愛はないね」ってことになったんですよね（笑）。

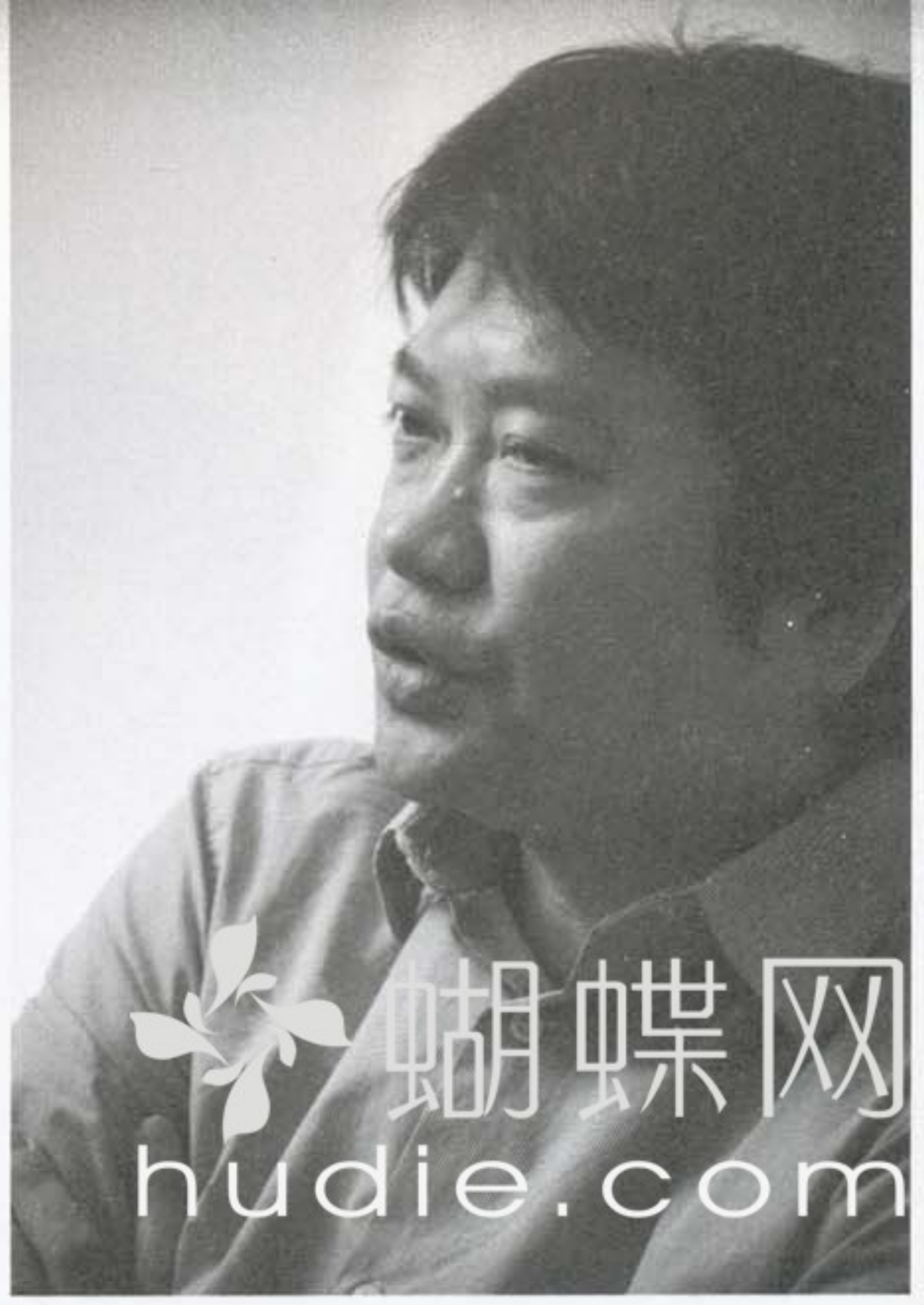
本広　1人が抜きん出ちゃダメだと思ったんです。この作品は、米ちゃん対エスパー軍団の構図にならないと面白くないから、恋愛はやめようと。それで、いろいろ書いてもらったのに恋愛パートをなくしてしまったんです。紆余曲折しましたけど、完成したバージョンが間違いなくベスト！　形としては、舞台版から始まり、いろいろな要素を入れて違うタッチの作品にしたけれど、要素を少し排除したら舞台版に近い形になったということですかね。

上田　最初は、米ちゃんも番組のADではなくレポーターでしたし。逆にいえば、よく13稿で落ち着きましたよね。ちなみに、僕がキャスティングで一番意外だったのは、小山役の三宅弘城さんなんです。しかも舞台版では大学生なのに、映画ではうどん屋のおじさんですからね（笑）。でも、それが僕は面白かったですね。

本広　僕の中では、諏訪君と三宅さんが〝ボケのツートップ〟なんですよ。上田君の群像劇には、大体フォーメーションがあるでしょ。この作品も「ボケが動いて、みんながそれを抑えようとする」という構図だったから、三宅さんをボケにしたのは正解でした。抜群にうまい三宅さんに刺激されて、諏訪君も「やばい！」と思うから、さらに面白味を増してくれたし。いい相乗効果が生まれたと思います。お芝居は1人でやるものではなく、誰かの芝居に対する反射があって成り立つもの。小劇場界の皆さんと芝居を合わせるためにワークショップを開いて、長澤さんにも参加してもらいましたが、そこで意外と彼女が世話焼きなことも発覚したり（笑）。体育会系のマネージャーっぽかった。撮影が始まってからも、スタジオに行くと制作部と一緒になって彼女がスープを配っている。なんだか、あだち充のマンガに出てきそうだなと（笑）。それで、後からそういう要素を米ちゃんに加えていったりもしました。

上田　そういう意味では、ホントに現場の雰囲気は座組に近い感じでしたね。みんながいい感じで意見を出し合って作っている感覚がありました。

本広　僕は、これからもうまい役者さんたちと芝居を作っていきたいと思ってるんです。一生懸命やっている役者さんはいっぱいいますからね。この映画が、そういう人たちの希望になればと思います。小劇場の役者さんたちは今、ほかの映画でもいい厚みを出していたりするし、その流れを切らさないためにも、この映画はヒットしてほしいです（笑）。



もとひろ・かつゆき
1965年7月13日生まれ。香川県出身。テレビのバラエティ番組などを経て、96年に「7月7日、晴れ」で映画監督デビュー。「踊る大捜査線　THE MOVIE2　レインボーブリッジを封鎖せよ！」(03)は、実写日本映画の興収記録を塗り替え歴代第1位に。その他の監督作は、「UDON」(06)、「少林少女」(08)など。

「泣ける映画は？」

本広　最近泣いた映画といえば、『サマーウォーズ』ですかね。大切なものを大事にしたいと思って、皆が1つになって奮闘するのが好きでしたね。

上田　じゃあ、僕は『ドラえもん　のび太の宇宙小戦争』で（笑）。レジスタンスのアジトにのび太たちが行ったとき、壁にもたれた兵士がギターを弾いていて、そこから主題歌に移行していく…その場面はグッときました。



うえだ・まこと
1979年11月4日生まれ。京都府出身。高校時代、学園祭のクラス劇をきっかけに劇作をスタート。98年、大学入学と同時に同志社小劇場に入団し、劇団内ユニット"ヨーロッパ企画"を旗揚げ。その後、00年に正式に劇団として独立した。主な作品に「冬のユリゲラー」「囲むフォーメーション」などがある。

曲がれ！スプーン

監本広克行　脚原上田誠（ヨーロッパ企画）
出長澤まさみ／三宅弘城　諏訪雅　中川晴樹　辻修
川島潤哉　岩井秀人／志賀廣太郎 ほか
●11月21日(土)より全国東宝系にて公開

　クリスマスイブ。喫茶店"カフェ・ド・念力"では、年に一度、本物の超能力者が集うエスパーパーティーが開かれていた。ところが、なぜかそこへテレビの超常現象バラエティ「あすなろサイキック」のAD・桜井米（長澤）がやって来て、自分たちの能力がバレてはならぬとエスパーたちは大騒ぎ！

➡P61







ACTOR CLOSE-UP★

八嶋智人

Norito Yashima

心温まるファンタスティックな現場でした

『つむじ風食堂の夜』

テレビ「王様のブランチ」でも絶賛されたロングセラー小説「つむじ風食堂の夜」がついに映画化！『真夏のオリオン』の篠原哲雄監督の下、オール北海道ロケで行われた撮影の一部始終を、主演の八嶋智人が語ってくれた。

Photo by Tomoaki Sato　Text by Miri Nakamura
Hair & Make up by akira　Styling by Dora（CaNN）

衣装協力／レザーブルゾン、カットソー、パンツ、ベルト（すべてBURNER）
㊤ BURNER 代官山　03-5784-2030



やしま・のりと
1970年9月27日生まれ。奈良県出身。A型。数多くの舞台やTVドラマ、バラエティ番組などに出演してマルチな才能を発揮、独自のポジションを確立する。映画にも多数出演。『秋深き』(08)で初主演を務め、本作が2作目の主演映画となる。

冬の函館の街に吹いた優しいつむじ風の物語

原作の吉田篤弘さんが、僕をイメージしてこの小説を書いたそうなんです。撮影前にご本人にお会いしたら、僕と同じような背格好でメガネをかけていらして、年齢もたぶんそんなに離れてない…ということで、何となく自分と似た感じの役者ということだったのかな(笑)。ただ今回、一般的な僕のイメージとは違う役だったので、すごくうれしかったですね。「こいつにこういう役をやらせてみたらどうだろう」と思っていただけるのって、役者として幸せなことだと思います。

原作がとても素敵で、ちょっと不思議な世界観なんです。全体を通しての雰囲気がどう映像化されるのか、僕も楽しみでした。淡々とした日常の中で登場人物たちがちょっとずつ変わっていくというストーリーなので、何か大きな事件が起きるわけでもなく、話としては地味なのかもしれません。だけど、裏を返すとすごく熱い話なんです。大人になっても「自分はどういう人間なんだろう」とか、頭では分かっていても、生理的に納得できない問題を抱えた人って少なくないですよね。そういう人がどこかへ行って、いろんなキャラクターと出会い、その人たちに刺激されて成長する。普遍的ですけど、地に足を着けて「自分とは何ぞや」というのを知って一歩を踏み出すというのは、すごく大きなことなんじゃないかな。誰でも感じたことのある思いが、懐かしくも新鮮に響くと思います。試写を見たとき、舞台となった函館の街の美しさと相まって、なんてチャーミングな映画なんだと、我ながら拍手したくなりました(笑)。

主人公の〝私〟を演じるに当たって、感じたままそこにいるようにしようと心がけました。下條アトムさん演じる〝帽子屋の桜田さん〟をはじめ、ホントに皆さん個性的で不思議な魅力を持ったキャラクターだったので、その方たちから刺激を受け、僕は自然に〝私〟として素直な気持ちで現場にいることができたんです。

篠原（哲雄）監督もすごく素敵な方で、いろいろ相談しながら、〝私〟としての僕をラストまで優しく導いてくれました。ぶっちゃけ、時間もお金もない現場だったんですが(笑)、逆にみんなで集中して1つのものを作れたというか、誠実に作品と向き合えたような気がしています。

映画に出てくる建物は、すべてセットではなく本物。〝つむじ風食堂〟は来々軒というラーメン屋さんだし、僕が住んでるアパートは旧ロシア領事館…といった具合に、函館の素敵な場所がたくさん出てきます。函館って、いろんな外国の空気が入り交じって、和洋折衷かつ不思議な雰囲気のある街なんですよね。ちょうど去年のクリスマス時期に撮影していて、雪もたくさん降ってすごく寒かったんですが、街の人がとてもあったかくて助けられました。クリスマス当日、ロケ場所の向かい側にある家の方が休憩時間に僕を招き入れ、お茶とクリスマスケーキをごちそうしてくださったり、トイレを貸してくれたりしてね。あと、地元の大学生ボランティアを含め、スタッフの結束力たるや抜群で、助監督が携帯電話の天気予報を見ながら「あと20分後に雪降ります！」とか言うと、それに合わせて臨機応変にテキパキ働く姿も印象的でした。

これは心温まる、とてもファンタスティックな映画です。どんな状況からでも前向きになれるはずです。きっと皆さんも函館に行きたくなりますよ(笑)。僕もまた行きたいです。

「泣ける映画は？」

僕は『リトル・ダンサー』ですね。主人公の少年がお父さんの前で初めて踊ったところから、ずっと泣きっぱなしでした。



写真撮影中、「ちょっと体の動きをつけて」「今度はクールな表情でお願いします」というカメラマンの矢継ぎ早な要望にも、即座に応えてポージング。とても紳士でチャーミングな“メガネ王子”八嶋さんでした！



つむじ風食堂の夜

監篠原哲雄　原吉田篤弘　脚久保裕章
出八嶋智人　月船さらら　下條アトム
スネオヘアー　田中要次　芹澤興人
生瀬勝久 ほか
●11月21日(土)よりユーロスペースほか全国公開

ちょっとレトロな街の片隅にある、風変わりな食堂。そこに毎夜集う風変わりな常連客たちと、至って普通な主人公の“私”(八嶋)。なじめるはずもない人々とともに時間を過ごしていくうちに、“私”は忘れかけていた過去の自分と、未来の自分に対峙するようになっていく。

➡P63



この作品の音楽を自然と
そこにあるものと
感じてくれたらうれしい

才能のある人と一緒に
仕事ができるのは
本当に幸せなことだと思う

『バカは2回海を渡る』

弓削智久×
TOMOHISA YUGE

金子ノブアキ
NOBUAKI KANEKO

ドキュメンタリータッチで綴られた異色のロードムービー
『バカは２回海を渡る』で、監督・主演を務めた弓削智久と、音楽を担当した金子ノブアキ。
異なる形で作品にかかわった２人が、それぞれの視点から映画への思いを語り合った。

Photo by Tomoaki Sato Text by Seiji Ebihara











この作品にかかわって感覚の扉が一気に開いた

弓削 あっくん（金子の仲間内での愛称）とは、かなり古い付き合いだよね。僕が事務所に入ったころだから…。

金子 初めて顔を合わせてから10年近くになるのかな? 共通の友達がいてね。長いこと直接顔を合わせない時期があっても、「無事です」ということだけは人づてに聞いてた(笑)。

弓削 でも、本格的に仕事でかかわったのは、今回が初めて。あっくんが、ソロで（音楽活動を）やるって聞いて、ぜひお願いしたいな、と。

金子 俺、すごく腰が重いんで(笑)、正直、新しいことへの挑戦には消極的だったんだけど、この話をもらったことで、「よし、やってみよう！」って気になって。いざ始めてみると、自分の中でバーッて扉が開いた感覚があった。作品に背中を押してもらった感じ。

弓削 この映画は僕発信のものだから、音楽を依頼するに当たって、「こんな感じで」って要望なりイメージなりを伝えるのが本来の形なんだろうけど、今回はあえてそのプロセスを踏まずに、あっくんに任せた。でも、実は電話でくらいは話しておいたほうがいいんじゃないかと思って、「あっくん」って登録してあった番号にかけてみたんだけど、違うあっくんが出て(笑)。

金子 そうだったんだ(笑)。番号交換したの、10年くらい前だもんね。でも、最初に編集前のテープを見せてもらって、イメージは十分にそれで伝わってきた。現場でリアルに録音されている音とか歌とか、結局はそれに勝るものってないと思う。せっかくそこにリアリティーがあるのに、取ってつけたような音を乗せたら、逆に映像の呼吸を止めてしまうから。今回、音楽を作る上で、そこはすごく意識したところ。



弓削 試写室で初めて全編通して映像に乗った音楽を聴かせてもらったんだけど、予想をはるかに上回る出来だったから、本当にうれしかった。試写を見ながら、「すっげ〜！ やっぺ〜！」なんて1人で歓声を上げてたら、周りのスタッフに「うるさい！」って怒られたくらい(笑)。口で説明しなくても、作品の意図をしっかり理解してくれていたし、こういう才能のある人と一緒に仕事が出来るのは、本当に幸せなことだと思う。特に、虹が映し出されるシーンの（音楽の）展開がヤバい！

金子 あそこは結構ミラクルだったんだよね。イメージのまま一気に音を作って、後から映像に当て込んでみたんだけど、思いのほかバッチリはまってて、自分でも「これはきたぜ！」と(笑)。映像と音楽が高め合っていることを実感できて、それは1人のアーティストとして最高の喜びだった。映画に音楽を付けたのは初めてで、すごく刺激的な体験だったんだけど、その初めての体験の舞台がこの作品だったのは、本当に幸運なことだったと思う。

人間としてのスケールを思い知らされる旅

弓削 撮影は本当に驚きの連続だった。何と言っても、圧倒的な風景のパワーにやられました。今までいろいろな場所で、いろいろな風景を見てきたけど、モニュメント・バレーは、これまでの人生で最高の景色。岩肌ひとつとっても自然の力が感じられて、それだけで感動した。そういう意味でも、あらためて東京ディズニーランドのビッグサンダー・マウンテンはすごいな、と(笑)。

金子 現物と見比べても、リアルに再現されてたんだな〜、って(笑)？

弓削 そう(笑)。でも、ああいう景色の中にいると、自然に自分と向き合おうっていう気持ちになるから不思議。自分のことを大切に思ってくれている人に感謝の気持ちがわいてきたし、逆に自分のダメなところを、まざまざと見せつけられる旅でもあった。

金子 それは本当にそう！ 自分も4〜5年前に半年くらいアメリカでライブツアーをやったんだけど、この映画の映像を見て、そのときのことをすごく思い出した。ああいう場所で過酷な旅をしていると、自分がどんなとき、どんなことに対してイラつくのかがはっきり分かる。「何で歯磨き粉のフタ閉めねぇんだよ！ カピカピになっちまうだろ！」とか本気でキレたりして(笑)。

弓削 自分がちっちぇ〜人間だなってあらためて思い知らされるんだよね(笑)。あと、過酷という意味では、砂漠で倒れるシーンの撮影がヤバかった。スケジュールの都合上、どうしてもその場所で撮らなきゃならなかったんだけど、そこがガラガラヘビの巣窟で…。

金子 それは、確かにヤバい(笑)。

弓削 エリアに一歩踏み込んだだけで、そこら中から「シャー！」って威嚇の音が聞こえて。カットをかけるのも自分の役割だったから、早々に「カット！」って言った(笑)。

金子 ヘビの巣窟で倒れた人間が「カット！」って、どれだけシュールなシチュエーションなんだよ(笑)。

弓削 作品としては「どっぷり浸る」というものではないので、軽い気持ちで見てもらえたらいいかな。サーフムービーのようにただ眺めるだけでも構わないし、「どこか旅行に行きたくなった」

と思ってくれるだけでもいい。

金子　壮大な景色を眺めながら旅を疑似体験できるっていうのが、この作品の醍醐味。音楽はその中で、見る人が自然とそこに流れているものと感じてくれたらうれしい。純然としてそこにあるものを、そのまま感じ取ることが、最高の贅沢だと思うから。

弓削　少なくとも何かしら心の琴線を弾くようなものになっているはず。見てくれた人にとって、何かのきっかけをつかむような作品であれば幸せです。

「泣ける映画は？」

弓削　悩みにぶつかったときに見るのが、『ショーシャンクの空に』。そのときの自分の置かれている状況や気持ちによって、泣くポイントが変わる。そういう意味でも奥深い作品だなって思う。

金子　最近、涙もろくなってるんですけど、それを差し引いても『ベンジャミン・バトン　数奇な人生』は本当によかった。3時間の上映時間があっという間。心にぶっ刺さりました。

Back Shot Story

10年来の知り合いということで、普段の会話も自然体の2人。しかし、その表情を狙おうとしたカメラマンから「そのまま話してて」との注文を受けると、「逆にそう言われるとしゃべりにくい」と苦笑い。シャイで可愛い(!?)一面が垣間見えました。



TOMOHISA YUGE

ゆげ・ともひさ

1980年5月25日生まれ。東京都出身。A型。99年にテレビドラマ「小市民ケーン」で俳優デビュー。07年に出演した「サクゴエ」では脚本も担当し、「Gone with the Film Festival」で最優秀外国語映画賞を受賞。以降、脚本家としても活動している。12月5日より出演作『スラッカーズ　傷だらけの友情』、10年1月9日に『彼岸島』が公開。

NOBUAKI KANEKO

かねこ・のぶあき

1981年6月5日生まれ。東京都出身。B型。97年にバンド・RIZEを結成し、00年にメジャーデビュー。09年7月には、初のソロアルバム「オルカ」を発表。音楽活動のほか、俳優としても、09年の「クローズZEROⅡ」やドラマ「ブザー・ビート～崖っぷちのヒーロー～」「サムライ・ハイスクール」に出演。本作で初めて映画音楽を手がけるなど、活躍の場を広げている。



バカは2回海を渡る

監渡辺貴文　脚監田弓削智久
出金子ノブアキ"to create"　出須賀貴匡
●11月28日(土)より渋谷ユーロスペースにてレイトショー

短編映画『FREE』を撮影するためにアメリカに渡った弓削智久監督と須賀貴匡。サンフランシスコからラスベガスまで、4000kmにも及ぶ過酷な撮影旅行に挑んだ2人に渡辺貴文監督が密着。やがて人間にとって根源的な「生きる意味」を見いだしていく姿を、ドキュメンタリータッチで綴る。

➡P63

Question on Music ♫

Q 印象的な映画音楽といえば？

弓削　同じロードムービーということで意識したんだけど、パール・ジャムのエディ・ヴェダーが手がけた『イントゥ・ザ・ワイルド』のサントラが好き。

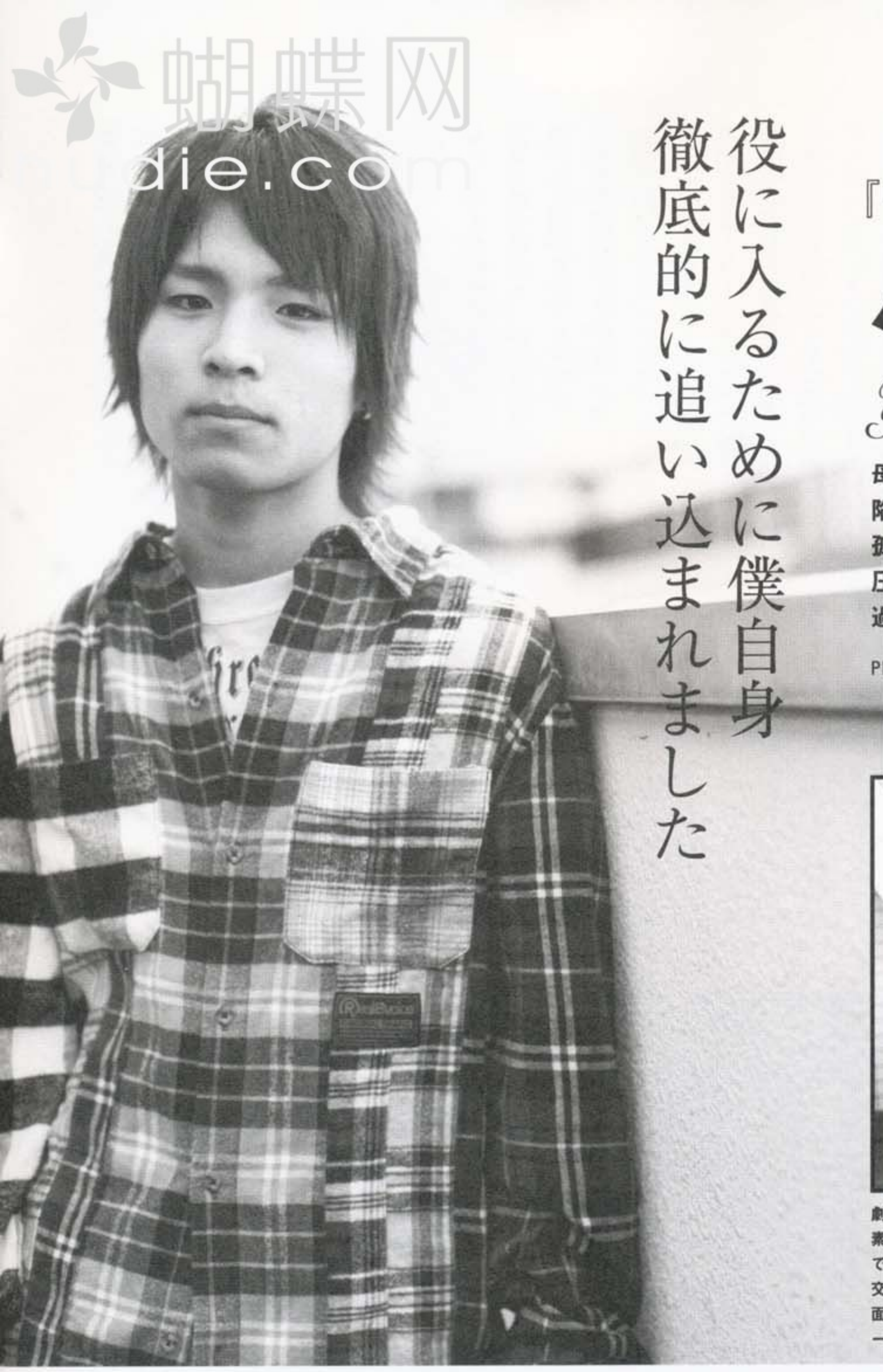
金子　『デッドマン』のニール・ヤングが最高。作品の映像が流れるモニターを見ながら、ギター1本で一発録りしたらしいんだけど、それが本当にスゴい！

Q 映画にとって音楽とは？

弓削　脚本と同じくらい重要なもの。音楽次第で作品の出来が左右されると思う。そういう意味で、今回あっくんにかかわってもらえたのは、作品にとっても幸せなことだった。

金子　作品にとって重要なものではあるけど、裏を返せば"気配"を感じさせるものであってはいけないと思う。今回の作品でも、風通しのいい音楽であることを意識しました。

PICK UP NEW FACE



役に入るために僕自身徹底的に追い込まれました

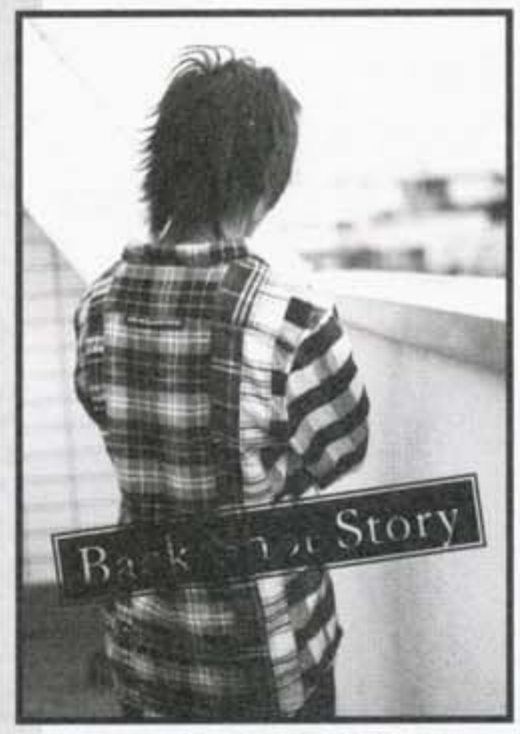
『ワカラナイ』

小林優斗

Yuto Kobayashi

母親を病気で亡くし、食べることすらままならない状況に陥った少年の心模様を精緻に描いた問題作『ワカラナイ』。孤独と閉塞感にさいなまれる主人公・亮を圧倒的な存在感で演じ切った17歳・小林優斗に、過酷な撮影の舞台裏を聞いた。

Photo by Tomoki Kuwajima Text by Seiji Ebihara



劇中での張り詰めた雰囲気とは裏腹に、素顔は明るく礼儀正しい優斗君。取材でも、しっかりとした受け答えに笑いも交えて、絶妙な返しをしてくれました。面白い答えが多すぎて、全部の話がページに収まり切らなかったのが残念！

撮影中ずっと1人という孤独感が心にきた

　最初は（オーディションに）受かると思っていなかったので、役が決まったと聞いて本当にびっくりしました。自分はまだ芝居が全然できないので、撮影の前に少しでもそれを補おうと、もらった台本をひたすら読み込むことから始めました。でも、実際に撮影が始まると、亮の置かれた状況は予想していたよりさらに孤独で過酷なものだったので、その役を演じるに当たって僕自身も徹底的に追い込まれました。

　撮影の数日前から1人でユースホステルに泊まるよう指示されていたんですけど、そこで普通に過ごしていたら、監督から「亮はそんな服着てると思うか？　飯食ってると思うか？　風呂入ってると思うか？　自分で考えろ！」って言われて。それから、服はずっと役衣装のままで、風呂も入らず、食事も劇中の食べるシーン以外は何も口にしないという生活が始まりました。

　一番キツかったのは〝孤独感〟。監督から、スタッフやほかの共演者の方々に「小林としゃべるな」という指示があったみたいで、撮影中は本当に独りぼっちでした。特にクランクインを翌日に控えた夜、みんなが宴会で大騒ぎしている中、「亮は勉強熱心って設定だから、優斗は寝ないで勉強してて」と言われ、ユースホステルに戻らされたのはキツかった…。それも監督の狙いだったと思うんですが、そのときは本当に心にきました。ただ、そういうアプローチをしたからこそ、少しでも亮の気持ちに近づけたと思うし、最後まで役を演じ切れたんだと思います。

　とはいえ、撮影中のことがちょっとしたトラウマになっていて、いまだに人前でご飯を食べてると「誰かに怒られるんじゃないか…」って怖くなっちゃうんです(笑)。その分、何気なく口にしている食事や普段の暮らしにもありがたみを感じるようになりました。

　役者の仕事は、今後も続けていけたらと思っています。でも、先のことはまだ見えないので、今は頂いた役に全力で取り組んでいくだけ。今回の経験を生かして、どんな役にも体当たりで挑戦していきたいと思います！

「泣ける映画は？」

　動物が大好きで、家でも犬を5匹飼っているんですけど、その分、動物モノに弱いんですよね。最近では『マリと子犬の物語』で泣きました。犬が人間のためにここまでしてくれるとは…。何てけなげなヤツなんだ、って(笑)。

こばやし・ゆうと
1992年1月17日生まれ。東京都出身。O型。08年の『俺たちに明日はないッス』でスクリーンデビューを果たし、2本目の出演となる本作で初主演を飾る。17歳とは思えない類まれな存在感で今後の活躍が期待される演技派新人俳優。
●ファンレターのあて先
〒150-0044　東京都渋谷区円山町5-6　キングビル8F　（株）ノックアウト内　小林優斗あて
●オフィシャルホームページ
http://www.knockoutinc.net/



ワカラナイ

監脚編小林政広
出小林優斗　柄本時生　田中隆三　渡辺真起子
小澤征悦　横山めぐみ　ベンガル ほか
●11月14日(土)よりヒューマントラストシネマ渋谷にて、11月28日(土)より新宿バルト9にて公開

　入院中の母（渡辺）を抱え、コンビニのアルバイトで生計を立てている16歳の少年・亮(小林)。長引く母の闘病生活で家計は圧迫され、バイト先でくすねた食料で食いつなぐ日々。しかし、それが原因でバイトをクビになり、いよいよ生活が困窮する。

『風が強く吹いている』

大森 Sumio Omori 寿美男 監督

箱根駅伝を映画で撮る――『風が強く吹いている』でこの無謀とも思える試みに挑戦したのが、『39 刑法第三十九条』や大河ドラマ「風林火山」で知られる脚本家の大森寿美男。初監督作品にしてとんでもない難コースを走り切った今の心境は…？

Photo by Tomoki Kuwajima　Text by Yohei Maita



人物を立たせれば、物語にも走りにもリアリティーが出る

が決まらないまま箱根駅伝の取材に行き、メインスタッフのみんなから監督をやったらという誘いを受けたときは舞い上がっちゃって、宝くじに当たったような気分で引き受けたんですけど、いざ準備が始まって、それが貧乏くじだったことに気づきました(笑)」

そう、この作品を映画化するのは、素人が箱根を目指すくらい無謀な挑戦だった。何しろ、あの箱根駅伝をゼロから作らなければいけないのだから。

「撮るのは大変だろうと覚悟はしていたんですけど、それ以前に撮れないんですよ。道路の使用許可が下りなくて。結局、使える道を求めて九州まで行きました。北九州、福岡、大分のフィル

道を探し九州へ…スタートラインにつくのが一番大変

『風が強く吹いている』は、直木賞作家・三浦しをんが箱根駅伝を描いたスポーツ小説の傑作。2人の主人公（ケガで一流ランナーの道を閉ざされたハイジと、ある事件で走る場を奪われた天才ランナー、カケル）以外はずぶの素人という10人が箱根駅伝を目指すという荒唐無稽な設定を、深いキャラクター造形と圧倒的筆力でリアリティーにあふれた感動物語に仕立てている。

「僕も箱根駅伝は大好きでずっと見てきた人間ですから、こんな話はありえないというのはすぐ分かる。でも、三浦さんが描いた人物が1人ひとり生き生きとしているから、実際にあった物語のように思いたくなったんですね。だったら、それをドキュメンタリーのように、彼らが箱根に向け奮闘する1年を追いかける映画にすればいいんじゃないか、と。小説のように1人ずつの背景や細かいエピソードを拾うことはできないけど、彼らの走る姿や生きる表情にカメラを向け、ちゃんと箱根駅伝の臨場感も伝わるリアルな映画にしようと思ったんです」

しかし、これは脚本家・大森寿美男としての思いであり、これが自分の初監督作品になるなどとは、脚本執筆の段階では思ってもいなかった。

「もちろん実現可能な脚本を書かなきゃと思っていたし、頑張れば撮れるという脚本にはしたんです。でも、まさか自分が頑張る羽目になるとは…。監督

ムコミッションの人たちが熱意を持って一緒にやりましょうと言ってくれたんです。走る道と沿道の観客（延べ人数で3万人！）、そして役者たちの走り…この物語を撮るだけの器と中身がそろうのかという演出以前の問題が一番大きくて、初監督にできることといえば、高い理想を持ちながらただ心配し、祈ることだけという感じでした」

そうは言いつつも、祈るだけで映画が出来るはずもなく、スタッフと役者の懸命の頑張りによってスタートラインに立ってからは、監督・大森寿美男の腕がいかんなく振るわれた。

「とにかく走る映画にしたかったので10人分の走りをいかに飽きさせずに見せるかを考えました。ただ、走りを撮る手法なんて限られているわけで、そのためには1人ひとりの個性が必要だと思ったんですよ。ランナーのキャラクターが明確なら、同じ走りの画でも10人分の違う思いで見てもらえるだろうと。それぞれ個性的な10人がタスキをつなぐからこそ感動する。キャラを立たせることが何よりも重要でした」

そのために、彼らが暮らす寮に役者が自由に動ける場を作った。カメラの動きや撮りたい画に合わせて芝居をつけるのではなく、通しの芝居を何度も繰り返させることによって、役者の中にそれぞれのキャラクターをなじませていったのだ。

「芝居を止めずに舞台のように撮るというやり方には、彼らも最初は戸惑ったと思いますよ。でも、正解でしたね。そういう撮影をしたことによってだんだん、彼らの芝居を撮っているのではなく、彼らがそのキャラクターに見えてきた。そうなってからはすごく楽でした。まるで寮に隠しカメラを備えつけて、彼らの暮らしを覗いているような感じになった。最初に思い描いていたドキュメンタリータッチの世界観がうまく表現できたと思います」

彼らは箱根駅伝に挑戦することで人生を変える一歩を踏み出した。大森氏もまた、初監督作品を撮り切ったことによって何かをつかんだのだろうか？

「つかんだような気はしてるけど、つかみ損ねているのかもしれない（笑）。ただ、いい経験にはなりました。映画ってマラソンと一緒で、走ってるときは苦しいことのほうが多いけど、終わったときの爽快感はクセになる。今回はフルマラソンを初めて走ったようなもので、それもこんな難コースを走り切ったんだから、もう一度走ってみたいなとは思います。ただ、今度はもっと穏やかなコースを、伸び伸び走ってみたいです（笑）」



Sumio Omori's Profile

おおもり・すみお
1967年8月3日生まれ。神奈川県出身。97年、オリジナルビデオ「新・静かなるドン」で脚本家デビュー。以後、朝ドラ「てるてる家族」、大河ドラマ「風林火山」などを手がける。映画の代表作は『39 刑法第三十九条』『黒い家』(99)、『昭和歌謡大全集』(03)、『次郎長三国志』(08)など。



風が強く吹いている

監脚大森寿美男　原三浦しをん
出小出恵介　林遣都　中村優一　川村陽介　斉藤慶太　斉藤祥太　ダンテ・カーヴァー　橋本淳　森廉　内野謙太 ほか
●公開中

ケガで一線を退いたランナーのハイジ（小出）は、箱根駅伝出場というひそかな野望を抱いていた。天才ランナーのカケル（林）が同じ大学に入学したことで、ハイジの計画は動きだす。陸上部の寮に住まわせてもらっていた素人8人もハイジの夢に乗ってくるが…。





『交渉人 THE MOVIE』

Text Hibiki Kurei

あのクールで華麗な交渉人、宇佐木玲子がハイジャック犯に挑む！











交渉人 THE MOVIE

監 松田秀知　脚 寺田敏雄　出 米倉涼子
陣内孝則　筧利夫　笹野高史　高知東生
高岡蒼甫　大杉漣　伊武雅刀 ほか
●2010年2月、全国公開

偶然出会った、不審な青年を追って無理やり、飛行機に乗り込んだ玲子（米倉）。やがて、高度1万メートルの上空で、凶悪犯にハイジャックされてしまうジェット機。乗客の命を守るため、玲子はSIT交渉班の桐沢警視（陣内）らの協力を経て、犯人たちに立ち向かう。

Actor's Comment

米倉涼子 宇佐木玲子役

ドラマから生まれた「交渉人」が、映画になるなんて夢のよう。芸能活動10年目の節目に、思い入れのある玲子役で映画に挑戦できることをうれしく思っております。ここからが本当のスタート。パワーアップして、ドラマとは違った魅力をお届けできるよう頑張ります。

陣内孝則 桐沢圭吾役

米倉さんについて行きます！　とにかく頑張ります！　今回は金魚鉢のようなセットを作っていただきまして、私だけ単独で、金魚鉢のようなガラス張りのセットの中にいるんですよ。ちょっと偉くなったような気がして、すごくうれしかったですね。

筧 利夫 木崎誠一郎役

我々を役者とは思わず、交渉するEXILEと思ってください！　素敵なステージとパフォーマンスをお届けするため、毎日熱い撮影を繰り広げております。前シリーズでは玲子が犯人に要求され、スーツを脱ぐ場面がありましたが、今回はパンツまで脱ぐかもしれません!?

映画版ならではのスケール感と豪華出演者

08年1月に放送されるや、高視聴率を叩き出したTVドラマ「交渉人～THE NEGOTIATOR～」。極限状態の中で、さまざまな凶悪事件を解決していく警視庁捜査一課SIT交渉班の姿を描いた、エンターテインメントな警察ドラマが戻ってきた！

現在放送中の第2シリーズから、10年2月公開の『交渉人 THE MOVIE』へ続く「交渉人」プロジェクト。米倉涼子演じる、女交渉人・宇佐木玲子をはじめとする、おなじみのレギュラー陣に、今回からSIT交渉班に2人の新メンバーが加わった。塚地武雅（ドランクドラゴン）演じる音響係主任・桜庭健二と、八神蓮演じる交渉班新人・王子隼人だ。片や音オタク、片やメガネ男子という、個性的な2人の活躍は気になるところだ。

高度1万メートルを飛ぶジェット機を舞台に、玲子が数百人の乗客を人質とするハイジャック犯と戦う「映画版」。空港で偶然出会った不審な青年を追って、玲子が乗り込んだ飛行機がハイジャック！　地上との緊迫する頭脳戦を交え、凶悪犯と熾烈な戦いを繰り広げる玲子。果たして、犯人の狙いは？乗客、そして玲子の運命は？　実物に限りなく近いジェット機のセットを制作し、テレビでは描き切れないスケール感あふれる「交渉人」。さらに、映画版のみのキャラクターが登場するなど、ファンならずとも見逃せない！

Hot News Flash!

完成披露会見から注目の映画情報まで。気になる話題をたっぷりお届け！


相原／マイコ


斉藤 始／池内博之


島 大介／緒形直人


真田志郎／柳葉敏郎


森 雪／黒木メイサ


沖田十三／山崎 努


徳川彦左衛門／西田敏行


藤堂平九郎／橋爪 功


佐渡先生／高島礼子


古代 守／堤 真一


古代 進／木村拓哉



木村拓哉主演で『ヤマト』実写化！映画史上最大のプロジェクトが飛び立つ

TVシリーズから35年、現在も絶大な人気を誇る国民的アニメ「宇宙戦艦ヤマト」が、木村拓哉主演で実写化されることが発表になった。タイトルを『SPACE BATTLESHIP ヤマト』と一新し、『BALLAD 名もなき恋のうた』のヒットも記憶に新しい山崎貴がメガホンを取る。木村は「自分が子供のころに夢見ていた船に、素晴らしいキャスト＆スタッフと乗れることに感激しています」と。その言葉どおり、共演者には豪華俳優陣が並ぶ。日本中が注目する今作は、10年12月公開。



井上・岡田『僕キミ』コンビが展望台で完成報告

『僕の初恋をキミに捧ぐ』（公開中／監督：新城毅彦）の井上真央と岡田将生がそろって完成会見を行った。主演の井上は「女の子は岡田君目当てに来てもいいというぐらい素敵なんです！」と相手役の岡田の魅力をアピール！　また岡田は「すごく純情な、素晴らしい映画です」と作品をPRした。

山田孝之主演作『大洗～』完成会見にキャスト勢ぞろい



山田孝之主演作『大洗にも星はふるなり』の完成披露試写会に、山田、山本裕典、ムロツヨシ、小柳友、白石隼也、安田顕、佐藤二朗、福田雄一監督がアロハシャツ＆ビーチサンダルのおそろいの衣装で登場した。山田は「見どころがないのが見どころ！　絶対に後悔させない最高の映画です！」と。11月7日(土)公開。

二宮×松山が初共演！「GANTZ」2部作製作決定

累計1000万部を超える人気コミック「GANTZ」の実写映画化で、二宮和也、松山ケンイチが共演を果たす。前後編の2部作というビッグプロジェクトで、結末は映画オリジナルになるという。苦悩する2人の主人公、玄野役の二宮は「大好きな作品に出られるだけで幸せです！　作品についてはひと言で言うとマニアック（笑）」と。また、加藤役の松山は「テーマは傷つけ合うことの無意味さ。斬新で大胆な新しい映画に挑戦しようと思います」と意気込みを語った。監督は『ホッタラケの島』などを手がけた佐藤信介。11年公開。









阿部サダヲ主演作完成 ハムカツを振る舞う！

阿部サダヲ主演のコメディ『なくもんか』（11月14日(土)公開）の完成会見に、阿部、共演の瑛太、竹内結子、塚本高史、いしだあゆみ、水田伸生監督、脚本の宮藤官九郎が登場した。阿部は「本当に笑える映画です。僕はもう3回も見ました（笑）」と面白さをアピール！　また、劇中で惣菜店の店主を演じた阿部が、実際にハムカツを揚げて皆に振る舞う一幕もあった。



ハンス監督絶賛 堀北主演作完成

堀北真希、松山ケンイチ、手越祐也が共演することで話題の『誰かが私にキスをした』の製作報告会見に、堀北、そしてハンス・カノーザ監督が登場した。記憶を失い本当の自分を見つけ出そうとする女子高生を演じた堀北は「セリフに英語があり、撮影中は挑戦の毎日でした」と苦労した点を語り、監督は「堀北さんは国際的なスターになれる。いずれは世界中の方々に見てほしい」と絶賛した。10年3月公開。



小池主演『ブラック～』は撮影もかなり過酷!?

小池徹平、品川祐、佐藤祐市監督らが『ブラック会社に勤めてるんだが、もう俺は限界かもしれない』の舞台挨拶を行った。小池は「夜中まで撮影が続くと、本当に眠くなって耐えられない役者さんも…」と品川をチラリ。また「泣けて笑える。この素晴らしい作品にかかわれてうれしいです」と。11月21日(土)公開。



内野聖陽、『悪夢～』に自信たっぷり！

『悪夢のエレベーター』（公開中）のプレミア試写会に、内野聖陽、佐津川愛美、モト冬樹、斎藤工、堀部圭亮監督が登場した。主演の内野は「笑いのテイストもちりばめられていて、エンターテインメントな作品。自信作です！」と作品の出来に太鼓判。堀部監督は「脚本には1年くらいじっくり時間をかけました」と製作のエピソードを語った。



史上初!?　藤原竜也が豪華客船で鉄骨渡り！

『カイジ　人生逆転ゲーム』（公開中／監督：佐藤東弥）でゲームの舞台となる“エスポワール号”として登場した豪華客船・ふじ丸の船上で、主演の藤原竜也がイベントを行った。藤原は劇中のゲームを模した鉄骨レッドカーペットを渡って登場。「鉄骨渡りのシーンは大変でした。松山ケンイチ君と光石研さんとほぼ毎日朝から晩まで大量の雨の中で演技しました」と。公開週末のランキングで1位の好スタートを切った。

「ヒロインの生き方は勧めません」松主演『ヴィヨン～』公開



今年生誕100年を迎えた太宰治の小説を原作にした映画『ヴィヨンの妻～桜桃とタンポポ～』（公開中／監督：根岸吉太郎）の公開初日舞台挨拶に、主演の松たか子、浅野忠信らが顔をそろえた。献身的な妻を演じた松が「彼女の生き方を勧める気はないです（笑）」と発言すると会場は笑いに包まれた。また夫役の浅野は「面白い表現を学べ、太宰さんに感謝しています」と原作者に敬意を表した。

渡辺謙主演『沈まぬ太陽』完成 ロスと東京で生中継会見

『沈まぬ太陽』（公開中）の完成披露試写会が行われ、三浦友和、松雪泰子らキャスト陣と若松節朗監督が登壇。さらにロサンゼルスでハリウッド作品を撮影中の主演・渡辺謙が生中継で舞台挨拶に登場した。渡辺は「同じ会場で同じ時間を、同じ空気、同じ感動を一緒に味わいたかったです。世界中でさまざまな困難が立ちはだかっていますが、この映画が明日への希望のかすかな光になればありがたい」と、会場へ足を運べない残念さをにじませながらも作品をPRした。



川島海荷とはんにゃ・金田が共演で名コンビ!?

10年夏公開予定の『私の優しくない先輩』（監督：山本寛）の製作発表会見に、主演の川島海荷、はんにゃの金田哲が顔をそろえた。金田が「相方の川島（章良）と同じ姓でもこんなに違うのか（笑）！」と笑いを誘い、川島は「初のラブコメディなので、金田さんに負けないように思いっきり頑張りたいと思います！」と意気込みを語った。



木村・ビョンホン・ジョシュに韓国熱狂『アイ・カム～』

『アイ・カム・ウィズ・ザ・レイン』が釜山国際映画祭で特別上映され、木村拓哉、イ・ビョンホン、ジョシュ・ハートネットが久々の再会。世界各国から集まった総勢370名の記者を前に木村は「友人のビョンホンが（映画祭に）誘ってくれた。いつもとは違う意味合いで参加できて感謝しています」と。また、10年1月13日にDVDの発売が決定。





石黒英雄『彼岸島』でファンから大歓声

石黒英雄主演作『彼岸島』（10年1月9日(土)公開）が釜山国際映画祭で上映され、石黒とキム・テギュン監督が舞台挨拶を行った。深夜0時にもかかわらず集まった約1000人の観客を前に、石黒が韓国語で「プレミアにお越しいただきありがとうございます！」と挨拶をすると大歓声が。また、「韓国のお客さんはみんな温かい！」と感動しきりの様子だった。

行定×藤原『パレード』に釜山でファン行列！

第14回釜山国際映画祭で『パレード』（10年春公開）のワールドプレミアに、行定勲監督、主演の藤原竜也、原作の吉田修一が出席した。韓国でヒットした『デスノート』の藤原、同映画祭6度目となる行定の登場とあり、会場は大行列！　行定は「理想的なキャスティングができた作品です。今の日本を代表する若手が集結しています」と自信をのぞかせた。



『花のあと』完成報告に北川景子が着物姿で！

藤沢周平原作『花のあと』（監督：中西健二）の完成報告会見が行われ、主演の北川景子、甲本雅裕、宮尾俊太郎らが北海道から取り寄せた紅葉のカーペットから、豪華絢爛な和装で登場した。北川は「時代劇は今回が初めてで、立ち居振る舞いなど初歩からの準備をしました。古き良き時代の昔ながらの情緒を学ばせていただきました」と。10年3月13日(土)公開。



小日向文世、主演作公開に「夢のようです！」



04年度アカデミー脚色賞を受賞したアレクサンダー・ペイン監督の『サイドウェイ』をリメイクした『サイドウェイズ』の舞台挨拶に、主演の小日向文世をはじめ、生瀬勝久、菊地凛子、鈴木京香、チェリン・グラック監督、映画音楽を手がけたジェイク・シマブクロが登場。小日向は「皆さんに見ていただけて夢のよう」と感慨深く語り、生瀬は「撮影中に誕生会をしていただき感動しました」と。10月31日(土)公開。

柳楽×清水監督『戦慄迷宮3D』全世界配給決定！

『戦慄迷宮3D THE SHOCK LABYRINTH』の舞台挨拶に、主演の柳楽優弥、清水崇史監督が顔をそろえた。本作の全世界配給決定の知らせを受け、柳楽は「すごいですね！よい結果になってくれたらうれしい」と、驚きを隠せない様子。また、清水監督は「今まで見たことのない映画が出来たと思っています」と熱く語った。



イケメンズラリ！『書の道』先行上映会開催

12月公開の『書の道』先行上映会舞台挨拶に、主演の柳下大、古原靖久、三浦涼介、牧田哲也、河合龍之介、平田弥里、川野浩司監督が顔をそろえた。イケメン俳優がズラリと登場し、仲のよい掛け合いで舞台挨拶が進行、その和気あいあいとした雰囲気に会場は笑顔と歓声に包まれた。





アニマル浜口夫妻も熱烈応援！『カールじいさん～』監督来日

『カールじいさんの空飛ぶ家』の公開に先駆け、ピート・ドクター監督らが来日し記者会見を行った。監督は「人々が見たこともないものを見せようと思って常に作品を作っている」とそのクオリティーに自信をのぞかせた。また、本作では絆の深い夫婦が登場することから、スペシャルゲストとしてアニマル浜口夫妻が登場。「気合だ！ ×10回。カールだぁ！」と、会場を盛り上げた。



JUJU、福田が『～クリスマスキャロル』のライブに登場

11月14日(土)公開の『DISNEY'S　クリスマスキャロル』(監督：ロバート・ゼメキス）の公開を記念して、日本一早いクリスマスライブが開かれた。歌手のJUJUが映画イメージソングの「PRESENT」を披露し「この作品には、未来は変えられるというテーマがあります」と。また、11月11日に行われるジャパンプレミアに向けてストーリーメッセンジャーを務める福田沙紀が登場し、JUJUとともに巨大クリスマスキャロル・ツリーに明かりをともした。

『マイマイ新子～』チャリティー上映会が開催



土砂災害に見舞われた山口県復興支援の一助として、子供たち350人を無料招待した『マイマイ新子と千年の魔法』(11月21日(土)公開）のチャリティー上映会に、声優を務めた水沢奈子、原作の高樹のぶ子が訪れた。高樹は「作品の舞台となった山口の惨状を見るのはツラかった。この映画では時を超えて生命がバトンタッチされていく。今回の災害で多くの方が亡くなりましたが、その命はこの地で受け継がれていく。頑張ってほしいです」とエールを送った。

川島海荷初主演作でラブシーンにも挑戦！



『携帯彼氏』（公開中／監督：船曳真珠）の完成披露舞台挨拶に、川島海荷、朝倉あき、石黒英雄らフレッシュな顔ぶれが登場した。主人公・里美を演じた川島は「純愛のイメージが強いケータイ小説の中でも、この作品はサスペンスなので違ったイメージで見ていただけたらうれしい」とPR。また石黒は「僕はサスペンスではなく恋愛部門担当(笑)。映画は素直な気持ちで見てほしいです」と照れくさそうに語った。

竹中・皆藤『ワンピース』最新作でアフレコ！

人気マンガ「ワンピース」の映画10作目『ワンピースフィルム　ストロングワールド』(12月12日(土)公開／監督：境宗久）で、竹中直人と皆藤愛子がゲスト声優として参加することが決まり、アフレコが行われた。最強の敵・金獅子のシキを演じた竹中は「シキは恐ろしい男ですが、おちゃめなところもあるので面白かった」、皆藤は「普段はこんなに大きな声は出さないのでアフレコは難しかったです」と感想を語った。



『ポニョ』の誕生に密着 貴重映像がDVDに



『崖の上のポニョ』の宮崎駿監督を約2年半密着取材したドキュメンタリーDVD「ポニョはこうして生まれた。～宮崎駿の思考過程～」(12月8日(火)発売）の発売を記念し、スタジオジブリ・鈴木敏夫プロデューサーのトークショーが行われた。鈴木は「作品は監督とプロデューサーとの会話の中から生まれます。貴重な映像なのでじっくり観賞してほしい」と。また、劇中に登場するポニョラーメンが実際に作られ、アニメクリエーターを目指す学生たちと試食会を行うなど充実の15時間となった。

『引き出しの～』初日 常盤へ熱いラブレター!?



常盤貴子主演『引き出しの中のラブレター』(公開中)の初日舞台挨拶に、常盤、林遣都、岩尾望、三城真一監督が顔をそろえた。常盤は「派手な作品ではありませんが、コツコツと多くの人に温かい思いが伝われば」と挨拶。また男性3人から常盤へラブレターのサプライズプレゼントが読まれると、「本当にうれしくて泣きそうになりました！」と感動と驚きを見せた。

主演作『海角七号～』日本公開決定 ファン・イーチェン来日！



台湾映画史上No.1の興行収入を記録した映画『海角七号/君想う、国境の南』が12月、日本公開される。それに先駆け、主演のファン・イーチェン、田中千絵、中孝介、ウェイ・ダーシェン監督が記者会見を行った。イーチェンは「歌手である自分が映画出演なんて夢にも思いませんでした。僕にとって転機となる作品になりました」と。また「いつか僕も日本でライブをやりたいです！」と目を輝かせた。

 Photo by Hiromi Miyasaka、Keigo Kokonoe　Text by Kaoru Endo、Mayu Sekita

Cinema★Cinema
試写会Presents

注目作の試写会にシネ★シネ読者をご招待！ 公開前に感動を味わって！

応募方法

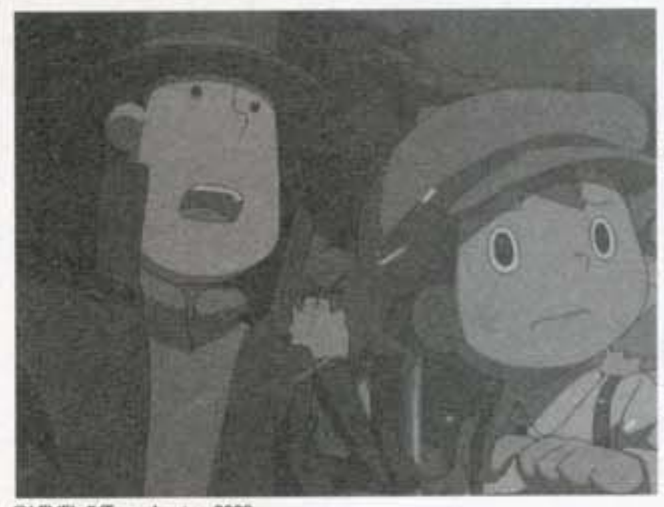
郵便はがきに第1希望、第2希望の作品タイトル・郵便番号・住所・氏名・年齢・電話番号・Cinema★Cinemaへのご意見を明記の上、右上の応募券をはり、【〒141-8510 東京都品川区西五反田2−11−8 18階 株式会社 パブリッシング Cinema★Cinema No.21「試写会プレゼント」係】までご応募ください。 応募の締め切りは、①11月16日(月)、②12月1日(火)、③12月3日(木)、④12月9日(水)必着。当選者の発表は発送をもってかえさせていただきます。


©2009ポニーキャニオン／ネイキッド／ヒューマックスコミュニケーションズ

1『ランブリングハート』
5組10名様

日程：11月29日(日) 開場14:00／開映16:30
会場：山野ホール（渋谷区代々木1-53-1）
監村松亮太郎 脚桑原裕子
出臼田あさ美 桐山漣 大口兼悟 ほか
●10年1月、シネマート新宿 ほか全国順次公開

見た目はそっくりだけど、中身は正反対の双子の姉妹、翠(臼田)と葵(臼田＝2役)。ある日、都会で1人暮らしをする現実主義で保守的な姉・翠の元に、恋には一直線！ 自由奔放な妹・葵が、片思いの彼を追いかけ転がり込んでくる。葵が来たことで、今まで平穏だった翠の恋心が思わぬほうに動き出していく…。※女性限定の試写会になります。


©LEVEL-5/Team Layton 2009

2 映画『レイトン教授と永遠の歌姫』
5組10名様

日程：12月13日(日) 開場12:00／開映12:30
会場：東商ホール（千代田区丸の内3-2-2 東京商工会議所ビル4F）
監橋本昌和 脚松井亜弥
声大泉洋 堀北真希 水樹奈々 ほか
●12月19日(土)より全国東宝系にて公開

レイトン教授(大泉)の元にかつての教え子でオペラ歌手のジェニス（水樹）からオペラのチケットが同封された手紙が届く。内容は1年前に亡くなった友人のミリーナが7歳の少女になって現れ“永遠の命を手に入れた”と話しているというものだったが…。大人気のニンテンドーDSソフト「レイトン教授」シリーズの待望の映画化。


©2010 映画「ゴールデンスランバー」製作委員会

3『ゴールデンスランバー』
5組10名様

日程：12月17日(木) 開場18:00／開映18:30
会場：ヤクルトホール（港区東新橋1-1-19 ヤクルト本社ビル）
監中村義洋 原伊坂幸太郎
出堺雅人 竹内結子 吉岡秀隆 ほか
●10年1月30日(土)より全国東宝系にて公開

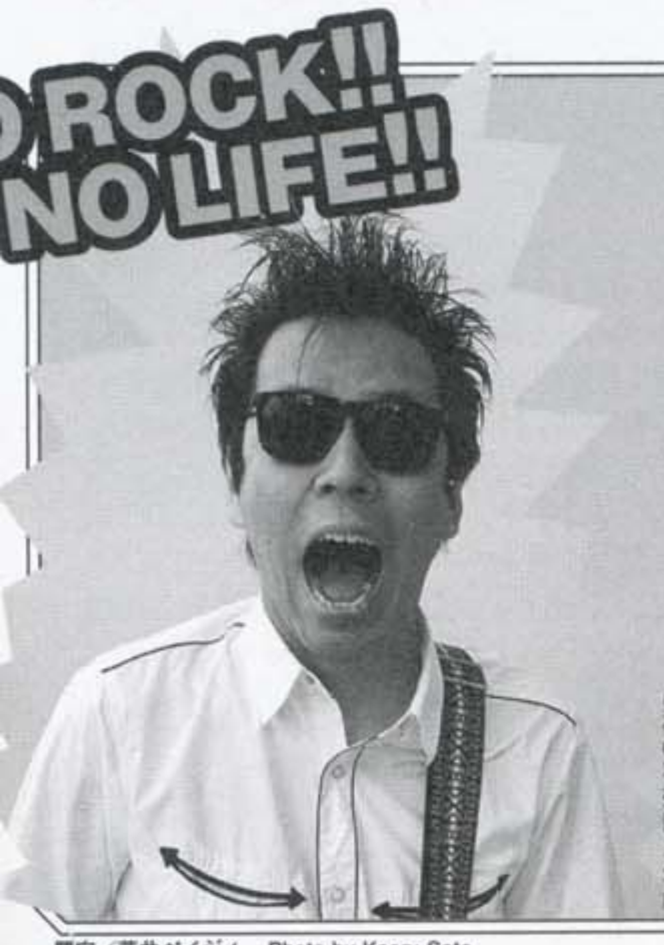
ベストセラー作家・伊坂幸太郎の小説「ゴールデンスランバー」の実写化。舞台は仙台。凱旋パレード中の首相が何者かによって暗殺された。現場近くで、宅配ドライバーの青柳（堺）は旧友・森田(吉岡)と再会していた。森田から謎の言葉を受けると、警官から銃を向けられ、身に覚えのない暗殺犯に仕立てられてしまう…。


©2009 DW STUDIOS L.L.C.All Rights Reserved.

4『ラブリーボーン』
5組10名様

日程：12月22日(火) 開場18:00／開映18:30
会場：東京厚生年金会館（新宿区新宿5-3-1）
監ピーター・ジャクソン 原アリス・シーボルト
出シアーシャ・ローナン マーク・ウォールバーグ ほか
●10年1月29日(金)より丸の内ピカデリーほか全国拡大公開

30カ国以上で出版され、世界中で読まれた名作を「ロード・オブ・ザ・リング」シリーズでアカデミー賞に輝いたピーター・ジャクソン監督が完全映画化した話題作。14歳の少女スージー(ローナン)はある日、家の近くのトウモロコシ畑で殺害されてしまう。スージーは天国から残された家族に起こるさまざまな出来事を見守っているが…。



藤井ペイジ！の映画館への階段 vol.5
「ハードロック芸人の名誉挽回!?」

ハロー！「怖いからホラー映画は絶対観ない」と言いつつ、たまに行っては10分でやっぱり後悔するという行動を、半年に1度くらいしてしまうハードロック芸人・藤井ペイジ！だ。

この連載も今回で5回目ということで、過去のコラムを自分で読み返してみた。なんだこれは…泣ける映画ばっかり紹介してるじゃねえか！ このままだとハードロック芸人の名折れ。というわけで、今回はロック中のロックな映画を紹介するぜ。その名も『パイレーツ・ロック』！

1966年のイギリス。世界中がブリティッシュロックに熱狂していたのに、当のイギリス・BBCラジオでは、ロックをかける時間を1日45分に規制していたんだ。そこで、24時間ロックを流し続ける海賊ラジオ局が誕生した。それも本当に海の上に！ 8人のDJが船の上で生活しながら放送を続け、そこから発信されるロックを、なんと国民の半数が聴き、熱狂していたという…燃える設定だろう？ ロッカーは規制が厳しいほど、抑圧が強いほど燃えるのさ！ しかも実話を基にしているというから、さらに驚きだ。しかし、そんな海賊ラジオ局の栄華も長くは続かない。国民への悪影響を恐れた政府がついに動き出し、彼らを追い詰めて…おっと、この続きは映画館で観てくれ。ラストなんて涙なしでは観られないぜ？ 俺なんてもう、涙でグラサンが曇って…って、結局泣ける映画を紹介してんじゃねえか！ くっそ〜…ちなみに『パイレーツ・ロック』は、すでに絶賛上映中だ。

さあみんな、俺と映画館への階段を駆け上がろう！ 好きな音楽を好きなだけ聴けるってことが、どれだけ幸せなことか再確認できるぜ。ただし、好きなバンドの曲を着信音にしてるやつは、ちゃんと携帯の電源を切ってから観ろよ！

ふじい・ぺいじ／
お笑いコンビ「飛石連休」のでっかいほう藤井宏和の分身。昨年見た映画は180本。現在、DVD「飛石連休 単独ライブ『帯に短しタスキに飛石』」が発売中。11月17日にソロライブ「ペイジワン」の6回目を開催。「ペイジワン」☎03-3355-1664（サンミュージック）
公式HP：http://www.sunmusic.org/get/profile/profile_tobiishi.html

題字／藤井ペイジ！ Photo by Kaoru Sato

Cinema★Cinema のバックナンバー好評発売中！

●在庫僅少



Cinema★Cinema No.14
定価990円（税込）
cover&feat.actor
長野博・つるの剛士・吉岡毅志・五十嵐隼士『大決戦！超ウルトラ8兄弟』

長野博・つるの剛士・吉岡毅志・五十嵐隼士「大決戦！ 超ウルトラ8兄弟」／福山雅治「容疑者Xの献身」／唐沢寿明「20世紀少年」／小池徹平「ホームレス中学生」／松田翔太×山田孝之「イキガミ」／谷原章介×塚地武雅「ハンサム★スーツ」／塚本高史「イエスタデイズ」／林遣都「ラブファイト」／遠藤雄弥×中村優一×鈴木裕樹「シャカリキ！」／小泉今日子×上野樹里×加瀬亮「グーグーだって猫である」／「パコと魔法の絵本」中島哲也監督×後藤ひろひと／永山絢斗「フレフレ少女」／高良健吾／井之脇海／加瀬亮・岡田将生／玉木宏・山田孝之／南沢奈央・溝端淳平／石黒英雄／金城武／佐藤浩市・松田龍平／「レッドクリフ」「P.S.アイラヴユー」「セックス・アンド・ザ・シティ」etc.
・公開作品カタログ 秋映画Complete！



Cinema★Cinema No.15
定価990円（税込）
cover&feat.actor
中居正広『私は貝になりたい』

中居正広・仲間由紀恵・福澤克雄監督「私は貝になりたい」／長瀬智也×福田麻由子「ヘブンズ・ドア」／小栗旬「クローズZERO II」／松山ケンイチ「ウルトラミラクルラブストーリー」／石田卓也×水嶋ヒロ×浅利陽介「GSワンダーランド」／岡田将生「魔法遣いに大切なこと」／高橋克典「特命係長 只野仁 最後の劇場版」／八嶋智人「秋深き」／徳井義実「天国はまだ遠く」／中河内雅貴×小西遼生×鎌苅健太「キラキラMOVIES」／柳下 大／本郷奏多／佐藤智仁／伊藤英明×内野聖陽／金城 武／古田新太／森田直幸／太賀／渡辺大知／塚本晋也監督／大林宣彦監督／内田けんじ監督／「20世紀少年 第2章」／「余命1ヶ月の花嫁」／「ビートロック★ラブ」／「感染列島」／「釣りキチ三平」etc.
・公開作品カタログ 冬映画Complete！

●在庫僅少



Cinema★Cinema No.16
定価990円（税込）
cover&feat.actor
長瀬智也『ヘブンズ・ドア』

長瀬智也・マイケル・アリアス監督「ヘブンズ・ドア」／宮崎あおい×宮藤官九郎監督・佐藤智仁×波岡一喜「少年メリケンサック」／ニコガク野球部13人全員インタビュー「ROOKIES」／鈴之助×伊崎右典×伊崎央登「クローズZERO II」／石黒英雄「激情版 エリートヤンキー三郎」／妻夫木聡「感染列島」／オダギリ ジョー×キム・ギドク監督「悲夢」／豊川悦司「20世紀少年 <第2章> 最後の希望」／佐藤浩市「誰も守ってくれない」／伊藤淳史×高良健吾／アンソニー・ウォン×フランシス・ン／櫻井翔／大河元気／永田彬／西島隆弘／松下優也／北川悦吏子監督／「おと・な・り」「ナクシタキオク（仮題）」「腐女子彼女。」「ジェネラル・ルージュの凱旋」etc.
・公開作品カタログ 1-3月映画Complete！



Cinema★Cinema No.17
定価990円（税込）
cover&feat.actor
櫻井翔『ヤッターマン』

櫻井翔・深田恭子×生瀬勝久×ケンドーコバヤシ・福田沙紀・三池崇史監督「ヤッターマン」／小栗旬×金子ノブアキ×三浦春馬「クローズZERO II」／山本裕典×石田卓也・武田航平「ROOKIES−卒業−」／成宮寛貴×水嶋ヒロ「ドロップ」／岡田将生「ホノカアボーイ」／玉山鉄二「カフーを待ちわびて」／オダギリ ジョー×アンソニー・ウォン「PLASTIC CITY」／江口洋介×大沢たかお×紀里谷和明監督「GOEMON」／六角精児×萩原聖人「相棒シリーズ 鑑識・米沢守の事件簿」／森本慎太郎／小栗旬／小出恵介×林遣都／織田裕二／田辺季正／日和佑貴／若葉竜也／渡辺大／細野ひで晃監督／「映画ドラえもん 新・のび太の宇宙開拓史」「真夏のオリオン」「鴨川ホルモー」「曲がれ！スプーン」etc.
・公開作品カタログ 3-5月映画Complete！

●在庫僅少



Cinema★Cinema No.18
定価990円（税込）
cover&feat.actor
岡田准一『おと・な・り』

岡田准一「おと・な・り」麻生久美子／熊澤尚人監督／木村拓哉「アイ・カム・ウィズ・ザ・レイン」／織田裕二×福山雅治「アマルフィ 女神の報酬」／香取慎吾「座頭市 THE LAST」／草彅剛「BALLAD 名もなき恋のうた」／佐藤隆太×市原隼人×小出恵介「ROOKIES−卒業−」／「ごくせん THE MOVIE」全7ページ総力レポート!!／阿部サダヲ「なくもんか」／堺雅人「クヒオ大佐」／玉木宏「真夏のオリオン」／松山ケンイチ「ウルトラミラクルラブストーリー」／瑛太「余命1ヶ月の花嫁」／加瀬亮×岡田将生／佐々木蔵之介×福士誠治／カンニング竹山／ジョニー・デップ／クリス・パイン／ロバート・パティンソン／テイラー・ロートナー／役所広司監督／三木聡監督／與真司郎／竹内寿／橋本淳／大友陸／宮崎翔太／「ハゲタカ」／「南極料理人」etc.／・公開作品カタログ 5-7月映画Complete！

●在庫僅少



Cinema★Cinema No.19
定価990円（税込）
cover&feat.
仲間由紀恵×亀梨和也『ごくせん THE MOVIE』

高木雄也／三浦春馬／石黒英雄／中間淳太／桐山照史／三浦翔平／玉森裕太／賀来賢人／入江甚儀／森崎ウィン／落合扶樹／織田裕二「アマルフィ 女神の報酬」天海祐希／西谷弘監督／山本裕典「MW-ムウ-」／佐藤健 スペシャルドラマ「MW-ムウ- 第0章 〜悪魔のゲーム〜」／阿部サダヲ×武井証「ぼくとママの黄色い自転車」／斎藤工「カフェ・ソウル」／神木隆之介「サマーウォーズ」／小野賢章「ハリー・ポッターと謎のプリンス」／井上正大／村井良大×戸谷公人／「劇場版 仮面ライダーディケイド オールライダー対大ショッカー」／松坂桃李「侍戦隊シンケンジャー 銀幕版 天下分け目の戦」／山田悠介×白石隼也「学校裏サイト」／「パレード」／「カムイ外伝」／「ブラック会社に勤めてるんだが、もう俺は限界かもしれない」／「ゴールデンスランバー」／「ソラニン」／土屋アンナ／伊原剛志／是枝裕和／西原理恵子etc.／・公開作品カタログ 7-9月映画Complete！

※Cinema★Cinema No.20は在庫切れです。ご了承ください。

バックナンバーのご注文方法

●お近くの書店にご注文ください。

※在庫希少につき品切れの際はご容赦ください。

【インターネットでご注文の場合】ショップ.学研 http://shop.gakken.co.jp
【お電話でご注文の場合】学研通販受注センターフリーコール☎0120-92-5555
受付：平日 9・00〜21・00 土曜 9・00〜18・00 日曜・祝日・年末年始を除く（携帯電話・PHS 通話可能）



山に囲まれたモーテルの4部屋で紡がれる
摩訶不思議な一夜の出来事
『シーサイドモーテル』

近年、演技派俳優として高い評価を受けている生田斗真を主演に、麻生久美子、山田孝之ら個性的な役者たちが勢ぞろいして演技合戦を繰り広げる『シーサイドモーテル』。そのユニークな撮影現場に密着。キャスト陣のコメントとともにお届けする。

Text by Aya Yokomori









COMING SOON NO.1



次世代カメラで撮影された新感覚の恋愛ドラマ

山奥にあるのになぜか名前は〝シーサイドモーテル〟。そんなモーテルの4つの部屋で起こる出来事。一見、バラバラに見えるそれぞれのドラマが、1つのストーリーとしてやがてはつながっていく…というのが本作の展開だ。

生田斗真、麻生久美子が紡ぐのは、103号室のストーリー。原価200円なのに高級な商品と偽ってスキンクリームを売り歩く、生田演じるセールスマン生田が、間違えて部屋に来た麻生扮するコールガール・キャンディと恋に落ちるというもの。

実は今回のモーテル内部は日活スタジオに部屋のセットを作り込んで撮影していた。南の島をイメージしているだけあり、ブルーのガラス玉や貝殻などの小物がズラリと並ぶ103号室は、まさに南国のモーテルといった雰囲気。ほかの物語の部屋も同じセットの内装を替えて撮影しているのだが、例えば山田孝之や玉山鉄二らが出演のキナ臭い犯罪が横行する202号室は、壁などがボロボロで、まるでタランティーノ映画に出てくるようなハードテイストな内装に。そう、かなりこだわっているこの美術も、それぞれの部屋の物語を語る上で大事なポイントなのだ。

そんな中、撮影はかなりハードに続いていた。グアムロケを含め、撮影期間にあまり余裕がないため、連日深夜まで撮影が行われていたのだ。訪れたのは、103号室の撮影2日目。前日に予

南の島をイメージしたモーテルで
連日繰り広げられているのは
キャストが楽しみながらの痛快な掛け合い合戦













COMING SOON No.1



麻生さんが詐欺師だったらだまされると思う(笑)

生田斗真 亀田雅之役

久しぶりのコメディ作品なので、すごく楽しく演じられました。今回の亀田役は詐欺師のようなセールスマン。でも麻生久美子さん演じるキャンディという女性に、逆に裏をかかれてしまうような設定で。亀田はダメな男なのではなく、キャンディのほうが何枚も上手って感じなんですよ。

麻生さんはお芝居はもちろん素晴らしいですが、声がとても魅力的なんです。笑い声とかすごく可愛い。あの無邪気な笑い方は卑怯だな〜って思います(笑)。もちろん計算でもなんでもないんでしょうけど。実際に麻生さんが詐欺師で本気を出したら、自分も含めて世の男子の半分以上はだまされると思いますよ(笑)。芝居に関しては自分がどんなことをやっても彼女が味を持って返してくれるから、安心しながら、冒険できるところもあります。基本的には、ほぼ亀田とキャンディとの会話劇なので、どう緩急をつけるかは常に考えながら演じていました。完成が楽しみですね。

TOMA IKUTA

麻生久美子 キャンディ役

私と生田さんの部屋の物語は会話劇になっているので、駆け引きをテンポよく見せたいなとは思っていました。特に私が演じたキャンディは人をだますのが得意な女性で、彼女は物語が進むにつれて自分の素＝真実をさらけ出していくんです。その嘘と真実の表現のさじ加減が難しかったですね。演じる上では楽しかったのですが、やりすぎないようには気をつけました。

生田さんは礼儀正しくてしっかりしているけど、とてもチャーミングな方で、男らしいのに人懐っこい。あんまりお会いしたことのないタイプです。実は好きなミュージシャンが一緒で、初日からその話題で盛り上がれたということもあってか、とても話しやすくて、楽しくお芝居することができました。

KUMIKO ASO



テンポのいい駆け引きを楽しんで演じました

定していたカットをすべて撮り切れず、昨晩の続きから撮影はスタート。生田は、「これって昨日撮影したシーンですよね」と談笑しつつ、自分の手の動きなどを入念に確認。今回はカメラを1台しか使用しない、いわゆる〝ワンカメ〟のため、角度を変えて同じシーンを撮影しなければならず、役者は何度も同じ演技を繰り返していく。「演じる度にこうしたほうがいいのではというアイデアが浮かんだりして、下手すると違った芝居になりそうなんですよ。それを抑えるのが大変です」と語る生田の言葉からも、そのこだわりぶりがうかがえる。ちなみに魚肉ソーセージを食べるシーンでは、まだちゃんと食事を取っていなかったのか、「うまい！空きっ腹に効く！」と本気でパクつく姿が印象的だった。

また今回は、〝レッドワン〟と呼ばれるPV撮影などによく使われるデジタル・シネマカメラを使用。カメラ内で色調節やデジタルズームアップなどができるため、独特の映像美を生み出すことができる。多くのPVを撮る守屋監督だけに、構図の決まり方と色彩はハンパじゃなくカッコいい。

さらに亀田とキャンディの揺れる恋心に寄り添うように手持ちのカメラワークがなされたり、ラブシーンはテストなしで撮影を行い、2人の感情を盛り上げ、かつ緊張感も感じさせるような方法も。いまだかつてないこだわりの映像と、古田新太、池田鉄洋らも加えた個性派俳優たちの怒とうの会話劇の仕上がりが、今から楽しみだ。

朝倉＆相田＆留衣＆チー坊＆ぺぺ >> 202号室





山田孝之 朝倉陽介役

こんなキャラを演じることはなかなかないと思います

今回の役柄はギャンブラーです。賭場で負けて3000万円の借金をつくり、それを踏み倒して女と逃げてるっていう。殴られたり、とんでもないケガをしたりと大変な役ですが、体にタトゥーを入れまくってる上にずっとパンツ姿でいるような、こんなキャラクターを演じることはなかなかないと思うんですよ。僕は出演を決めるときにストーリーと役が面白いかどうかを重視しますが、まさに今回もそこがポイント。本当に楽しかったですね。

玉山鉄二 相田敏夫役

その場で生まれるものを大切にしました

久々に遊べる感覚の作品だなと、クランクインする前から楽しみにしていたんです。とにかく柔軟な状態で現場に行って、その場で生まれるものや監督がおっしゃることを大切にしたいと思っていました。例えば、チー坊役の柄本君はすごく独特のキャラを持っていて、瞬発力があるので、その面白さを生かしたくてわざとアドリブを振ったりとか。でもその返しがまたあまりにも面白くて、自分が噴き出しそうになってるんですけどね(笑)。







温水洋一 ぺぺ役

どんな男なのか、自分でもよく分からない(笑)

今回、僕が演じた役というのは、衣装を見ていただいても分かると思うんですが、まさに謎だらけの男なんです。正直、自分でもあんまりどんな人なのかよく分からず演じているというか(笑)。彼がどんな生活を送っているのか、分からないほうがいいんじゃないかみたいな。こういう意外なキャラに挑戦できて楽しかったです。

成海璃子 二宮留衣役

気心知れた共演者との楽しい撮影でした

今回は監督が『スクールデイズ』の守屋さんだし、共演が面白い方たちばかりだったので、ぜひ出演したいと思いました。実は私、山田さんと柄本さんとは兄妹役をやったことがあるんです。そうしたら玉山さんと山田さんも兄弟役をされてて(笑)。だからわりと皆さん気心知れた仲って感じで、撮影はすごく楽しかったですね。

柄本時生 チー坊役

玉山さんの痛いアドリブにびっくりしました

あまり自分で役を作り込むのではなく、監督の演出に任せて、流れのままに演じたという感じです。驚いたのは…本番で玉山さんが叩いてきたんですよ、アドリブで(笑)。もうびっくりして、(演技として) こんなんで大丈夫か？ っていうくらいボケ〜っとしてしまいました。できれば痛い思いはしたくなかったです(笑)。

シーサイドモーテル

監脚守屋健太郎 原岡田ユキオ 脚柿本流
出生田斗真 麻生久美子 山田孝之
玉山鉄二 成海璃子 古田新太 温水洋一
小島聖 池田鉄洋 柄本時生 山崎真実
ほか
●10年、全国公開

周囲を山に囲まれた、その名も"シーサイドモーテル"。インチキセールスマンに陽気なコールガール、借金まみれのギャンブラーなど、ひと癖のある人々が集まった、モーテルでのめくるめく一夜とは…。



守屋健太郎 監督

それぞれの役者の新しい魅力に気づいてもらえると思います

山の中にあるのに「シーサイド」という、何かいい加減な名前のモーテルに集う人々の一夜を、ユーモラスに、そしてちょっとだけ切なく描けたらと。今回は僕の希望が叶って、本当に豪華なキャストがそろってくれました。どの役者さんにも意外な役を演じてもらったのですが、みんな楽しんでくれました。それぞれの役者の新しい魅力に気づいてもらえる、そんな作品になるような気がしています。





COMING SOON NO.2

若手俳優がそろい踏み！
あの上野投手が映画初出演！

『ソフトボーイ』

永山絢斗、賀来賢人らフレッシュキャストが体を張って臨む『ソフトボーイ』。佐賀県に実在する高校を舞台にした、リアル青春スポーツものだが、なんと本作の撮影現場にあのスター選手がやって来た！

Photo by Kaoru Sato Text by Kaoru Endo



上野投手のド迫力に、キャスト陣は素でビックリ！

すさまじい剛速球に驚く演技は本物！

9月中旬。都内近郊のグラウンドでは、本作が映画初主演となる永山絢斗をはじめ、賀来賢人らフレッシュな面々がソフトボールの練習に熱中する姿が…。ソフトボールでテッペンを目指す高校生たちの奮闘を描く本作。だが彼ら、最初はソフトボールをなめきっているという設定。この日はそんな彼らにゲキを飛ばす〝ある人物〟が現れた…。

キャスト&スタッフが一斉に大拍手で迎えたのは、何とオリンピック日本代表の上野由岐子投手！ ご存じ、日本中を沸かせた女子ソフトボールの花形プレーヤーだ。そんな彼女が豪腕投手プレーヤー＝ウエノとして、本気の〝投げ〟と〝初演技〟を披露するという。

全員が見守る中、投球練習をスタートさせる上野投手。その驚くほどの猛スピードに「すげ〜！」（永山）、「何か違うよ！」（賀来）とキャストたちも完全に素で感嘆しきり。剛球のすさまじさに、みんなで後ろに転ぶという演技も実にリアルで、一同「怖すぎる！」と口々に言いつつも、何だかうれしそうだ。

最初は多少硬かった上野投手の芝居も、大倉孝二（澤山監督役）とのナイスコンビネーションで次第にほぐれていく。最終的には監督が新たに加えた演出による、肩を組み合うラブラブなショットで幕を閉じることに。佐賀弁で言うところの「すごか〜！」という表現しか思いつかない本物の迫力が刻み付けられたのだった。

賀来賢人 ノグチ役

テンションの高い役なので普段はじっとしてます(笑)

今日は自分たちのプレーが、いかにヘナチョコか思い知らされました…。これまでもかなり練習してきてたんですが、もっとうまくならないといけないなとあらためて。僕の演じるノグチは常にテンションが高い役なので、本番以外は体力を使わないように普段はじっと静かにしています(笑)。永山君とはお互い人見知りだったけど、今はいい距離感でもちろんライバル意識も持ちつつ、高め合っていますよ。



豊島圭介 監督

上野選手と大倉さんの夢の2ショットが撮れて大満足

今日は上野選手と大倉（孝二）さんの、夢の2ショットを撮れて大満足です(笑)。上野さんは笑顔が本当に素敵な方。予想どおり、演技ののみ込みも早くて大変助かりました。僕はスポーツが好きで、試合を見ると必ず泣くんです(笑)。そういうさわやかなスポーツものを監督できることと、オニツカとノグチという対照的なキャラクターを演出できるというのが、この作品をやりたいと思った最大の要因ですね。

上野由岐子 投手 ウエノ役

今日の演技は新人の1年生が初めて試合に出た感じ

初めての演技は…試合よりも緊張しました(笑)。演技の世界はすごく難しいんだなと思いました。今日の自分の演技は、新人の1年生が初めて試合に出たような感じだと思います。でも大倉さんのお芝居がおかしくて、途中笑いをこらえるのに必死でした(笑)。この作品でまたソフトボールがブームになってくれたら、うれしいです。

永山絢斗 オニツカ役

最初に台本を読んだときから確かな手応えを感じていました

上野投手のプレーを見られて感動しました。こんな機会はもう2度とないと思います。僕にとって初めての主演作で不安と毎日闘ってますが、でも最初に台本を読んだ時点で「これは面白いものになる！」という手応えがあったのも確か。オニツカと自分に近いものも感じていますし、賀来君ともいろいろ話せて、すごくいい感じで撮影しています。











ソフトボーイ

監豊島圭介　脚林民夫
出永山絢斗　賀来賢人　波瑠
大倉孝二 ほか
●10年初夏公開

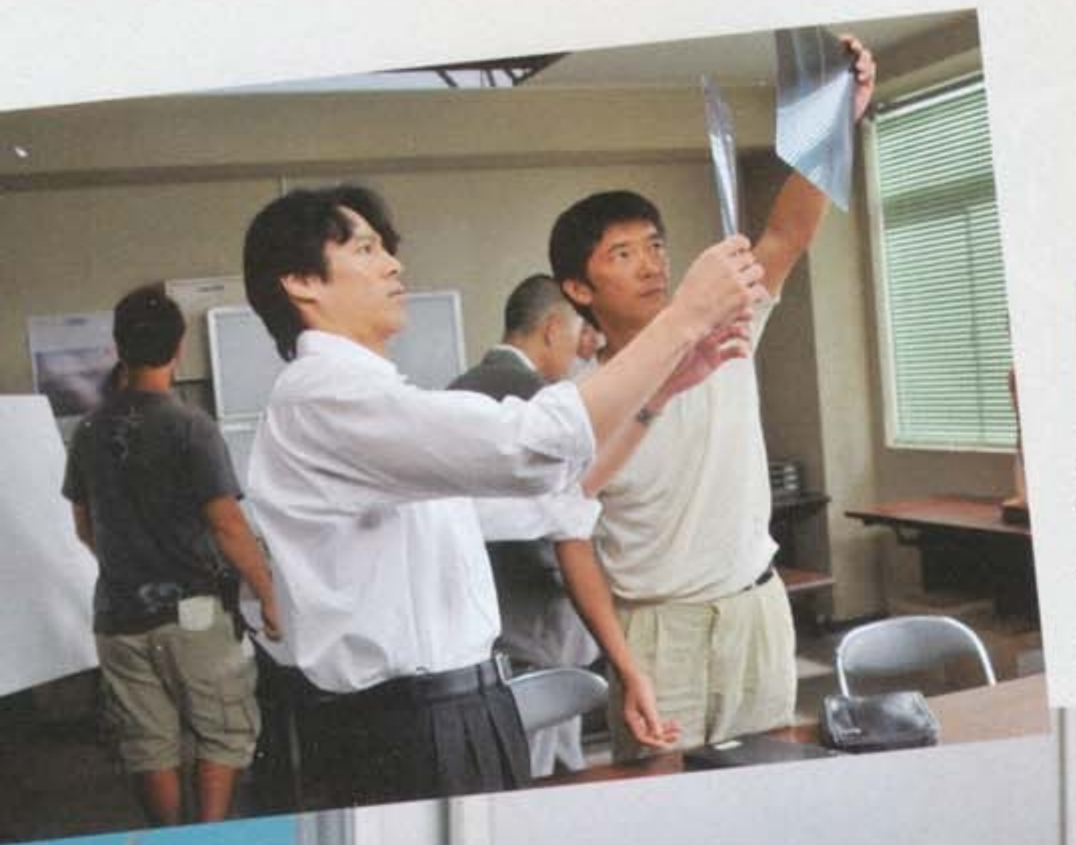
"佐賀県内に男子ソフトボール部が1校もない"→"無条件で全国大会に行ける！"→"ヒーローになれる！"という不純全開な動機で、ソフトボール部を結成したお調子者・ノグチ（賀来）と、そんな彼に振り回される心優しき主人公・オニツカ（永山）。そんな2人の友情と青春を、コミカルかつ熱く描く。ガチで臨んだ試合シーンも必見！







COMING SOON NO.3



現役医師のベストセラー小説を、堤真一主演で映画化

『孤高のメス』

2010年初夏公開予定の『孤高のメス』の撮影現場に密着。緊迫感あふれる現場の様子をレポするとともに、『フライ，ダディ，フライ』に続き堤とタッグを組んだ成島出監督の声をお届け、そしてクランクアップ直後の主演・堤真一にあらためて心境を聞いた。

Photo by Osamu Hoshikawa(P116-117)　Text by Miri Nakamura



血のりの付いた手術着のまま、楽しく談笑!?

現役医師・大鐘稔彦による累計90万部を売り上げたベストセラー小説の映画化ということで、スタジオにはセットや小道具、床材など、隅々に至るまで本当の病院と見間違えるばかりの完璧な工夫がなされていた。

オペ室では今まさに手術の撮影をしている最中で、時折小さな声で「動脈をクランプする」「血圧は?」などというセリフが聞こえてくる。堤真一演じる主人公の当麻医師が、その病院に赴任してすぐ手がける手術のシーンであると同時に、看護師・中村（夏川結衣）、新米外科医・青木（吉沢悠）らが当麻の腕の確かさに圧倒され惚れ込む、物語の導入部の重要な場面であると知って、こちらもちょっぴり緊張しつつセットの陰から様子をうかがうことに。

ふと見ると、オペ室脇の小部屋には、何と色鮮やかな人間の臓器が!!　だが、近寄ってよく見ると、それは精巧な作り物。とはいえシーンによっては豚のレバー（肝臓）などの本物を使うこともあるそうで、そちらは冷蔵庫にきちんと保管されているのだとか…。

現場には順天堂大学医学部の現役医師が立ち合い、輸血パックの取り替え方からそのスピードまで、事細かに指示を出していた。撮影前にいろいろ練習を積んだという堤も、医療指導チームの意見を素直に聞きながら、慣れた手つきでマネキン（これもまた本物の人間そっくりで怖いくらい!!）の腕に



成島 出監督

血がダメなんで、最初はちょっと悩みました

　プロデューサーから「こんな作品があるんだけど」と言われて原作を読んだら、すごく面白くて。実際のお医者さんが書いた話なので、描写がすべてリアルだし、最近のヒーローものにはないパターンの主人公だなと思ったんです。昔、黒澤映画で三船敏郎さんがやったような、スーッと現れみんなに影響を与えてまたスーッと去っていくみたいなものって最近ないし、もともとそういう作品が好きだったんで、ぜひこれを撮ってみたいと。

　ただ、僕はホラー映画がダメで、血もダメだから(笑)。あくまでも人間ドラマが中心ですけど、とはいえ主人公が見ているものを見せなければ、映画にならないじゃないですか。最初ちょっと悩みましたが、やっぱりそこは逃げずに、実際の手術に基づいた形できちんと再現しようと決めて挑みました。堤さんをはじめキャストの方々の奮闘ぶりをどうぞたっぷりとご覧になってください。





本物の医師の指導の下 リアルな医療の現場を再現









メスを走らせ、リアルな手術風景の再現に努めている。

　が、休憩時間になると一転、出演者がみんなで輪になって座り、さっきまでのシリアスな表情は一掃し、気楽な笑顔で世間話に興じている。いつもの明るいキャラクターに戻って、血のりの付いた手術着の衣装のまま会話を盛り上げる堤、同じくべったり血の付いた手袋を脇に置いて堤の話にアハハと笑っている吉沢。はたで見るとかなりホラーな光景だが、本人たちは至って楽しそう。「医療問題を扱ってはいるけれど、人間同士の絆を描くことのほうに重点を置きたい」という成島監督の言葉がふと思い返された。そんな監督の思いを映した物語を彩るキャスト陣には、堤らのほか、外科医長役に生瀬勝久、物語の鍵となる患者役の柄本明、夏川演じる中村の一人息子役に成宮寛貴など多彩な顔ぶれ。10年初夏、現代の医療システムに警鐘を鳴らす本作の完成に期待したい。



『孤高のメス』

堤 真一

当麻鉄彦役

実際の手術を見学させてもらって、とても参考になりました

つつみ・しんいち　1964年7月7日生まれ。兵庫県出身。AB型。11月2～29日まで舞台「パンデラスと憂鬱な珈琲」に出演。『ヴィヨンの妻～桜桃とタンポポ』が公開中。また、10年は『SP THE MOTION PICTURE（仮）』（秋公開予定）、『SPACE BATTLESHIPヤマト』（冬公開予定）に出演する。



今回のキャストはチームとして最高でした

先日、クランクアップしたばかりなんですけど「終わった！」という感覚が意外と少なくて。もちろん、達成感とか手応えは感じてるし、決して満足してないわけじゃない。僕自身の役が終始、淡々としていて、感情をあらわにする場面がなかったから、そんなふうに感じるのかもしれません。あと、もう少しみんなと一緒にいたかったというか、そういう名残惜しい気持ちがどこかにあって、終わったと認めたくないのかなと思ったりもして(笑)。

僕が演じた当麻は、望めばどんな大病院に行くこともできる優秀な外科医。なのに、あえて地方の市民病院に赴任するんです。と聞くと一瞬、地域医療に力を入れている理想的な医者として描かれるように思いますけど、台本を読めば読むほど「この人はそういう類のヒーローじゃない」と思えてきて。ヒーローものとして成立させる一番簡単な方法は、ある人物（ヒーロー）がいて、それを支援する人がいて、ヒーローの活躍により一件落着…というパターンだと思うんですよ。でも、当麻というのは単なる接着剤みたいな役柄で、何かと何かをつなぐためのチョットした媒体であればいい。だから演じるに当たって、あまり全面的に彼の人間性をアピールする必要はないと、だんだん思えてきたんです。

外科医がオペをするとき、周囲とのチームワークが重要になります。そういう意味でも、今回のキャストはチームとして最高だったと思いますね。通常、スタジオの隅で邪魔にならないよう椅子を横並びにして出番を待つんですけど、この現場では椅子を輪っかに並べて、みんなで顔を見合わせながらずっとしゃべってました。誰がそうしようと言ったわけでもなく、自然とそういう形になって。僕は、映画全体が常にそうあるべきだと思うんですけど、主人公だけが主張するんじゃなく、みんな一丸となってその作品のテーマとかメッセージを浮かび上がらせていかないと、映画としての意味がない気がするんです。特にこれは若い医師や看護師たちがチームとして共に成長していく物語でもあると思ったんで、きっちりそこは描かなければと。だから僕個人より、チームとして成立することのほうが大事で、そう考えると自分自身の役に対するこだわりがスーッと薄れていく感じでした。監督も、医療に関する問題もすごく大事だけど、この映画では人間を主軸に描きたいと言っていたので、ヘンに気負うことなく当麻を演じることを心がけました。

撮影前に実際のオペを見学させてもらって。生体肝移植と肝臓がんの手術だったんですけど、共演者の生瀬勝久さんと「こんな経験できないよね」と言い合ったのを覚えてます。ドラマとかで見るのと違って、特別なことをやってる雰囲気じゃ全然ないんです。患者さん本人が聞いたらビックリするくらい普通の会話がなされていて、「メス！」とか眉間にシワを寄せてる人は1人もいない。むしろそうやって張り詰めてたら、精神がおかしくなっちゃうと思うんですよ。そういう点でも、見学してすごい参考になりました。

この映画の中で、当麻は演歌を聴きながらオペするんだけど、その理由は何となく分かります。ノリでできる仕事ではないし、クラシックをかけて気取ってる場合でもないし、演歌みたいに地道にっていうことで。ただ、都はるみの歌はコブシが効いてるので、時として非常に危険ですが(笑)。

そうそう、皆既日食の日に海の近くで撮影してたら、次第に辺り一面に霧が立ち込め空が暗くなって…という不思議な映像が撮れました。『フライ，ダディ～』のときもそうだったけど、成島監督は奇跡を呼ぶ男ですね。完成作を見るのが、僕も今から楽しみです。

泣ける映画は？

『善き人のためのソナタ』。いい映画ってやっぱりグッとくるなと思いました。



孤高のメス
外科医当麻鉄彦
大鐘稔彦
幻冬舎文庫
第1～6巻
各600円（税込）



孤高のメス

監 成島出　原 大鐘稔彦　脚 加藤正人
出 堤真一　夏川結衣　吉沢悠　中越典子
矢島健一　成宮寛貴　松重豊　平田満
余貴美子　生瀬勝久　柄本明 ほか
●10年初夏、東映系にて全国公開

自ら希望し、地方都市の病院に赴任した天才外科医・当麻（堤）。腐敗した日本の病院の体質や医療制度と闘いながら、ストイックに信念を貫こうとする当麻と、彼に導かれ、成長していく若手医師や看護師の人間ドラマを描いた、日本初の本格的医療映画。





COMING SOON NO.4

人気シリーズ最新作の
巨大セット撮影に潜入!

『海猿3(仮題)』

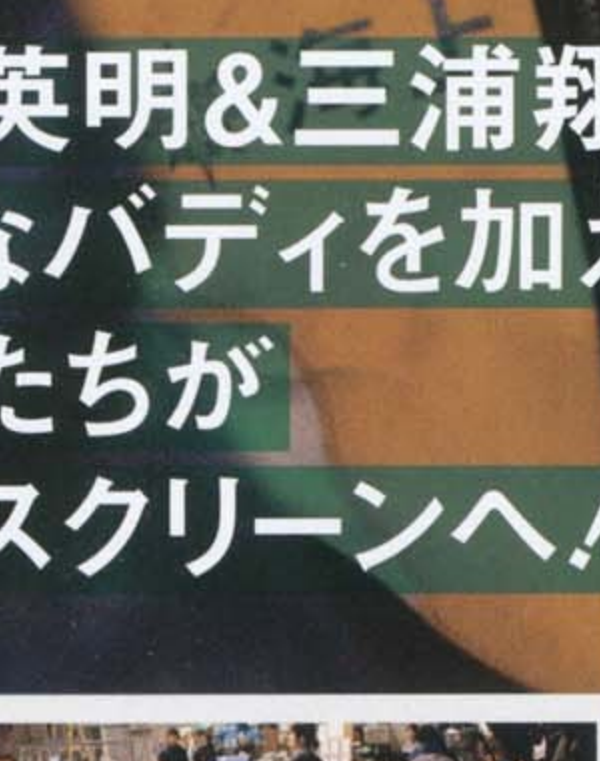
海上保安庁に所属する男たちの命を懸けた活躍を描く『海猿』シリーズの映画第3弾が実現! この日、スタジオ内に造られた巨大セットでは、すさまじいシーンが撮影されていた——。

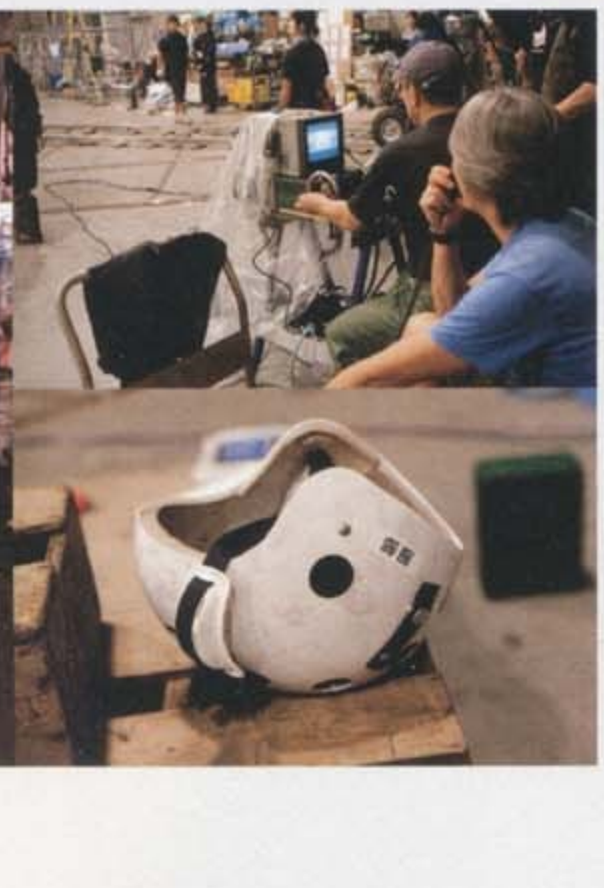
Photo by Tomoaki Sato Text by Yoko Oochi

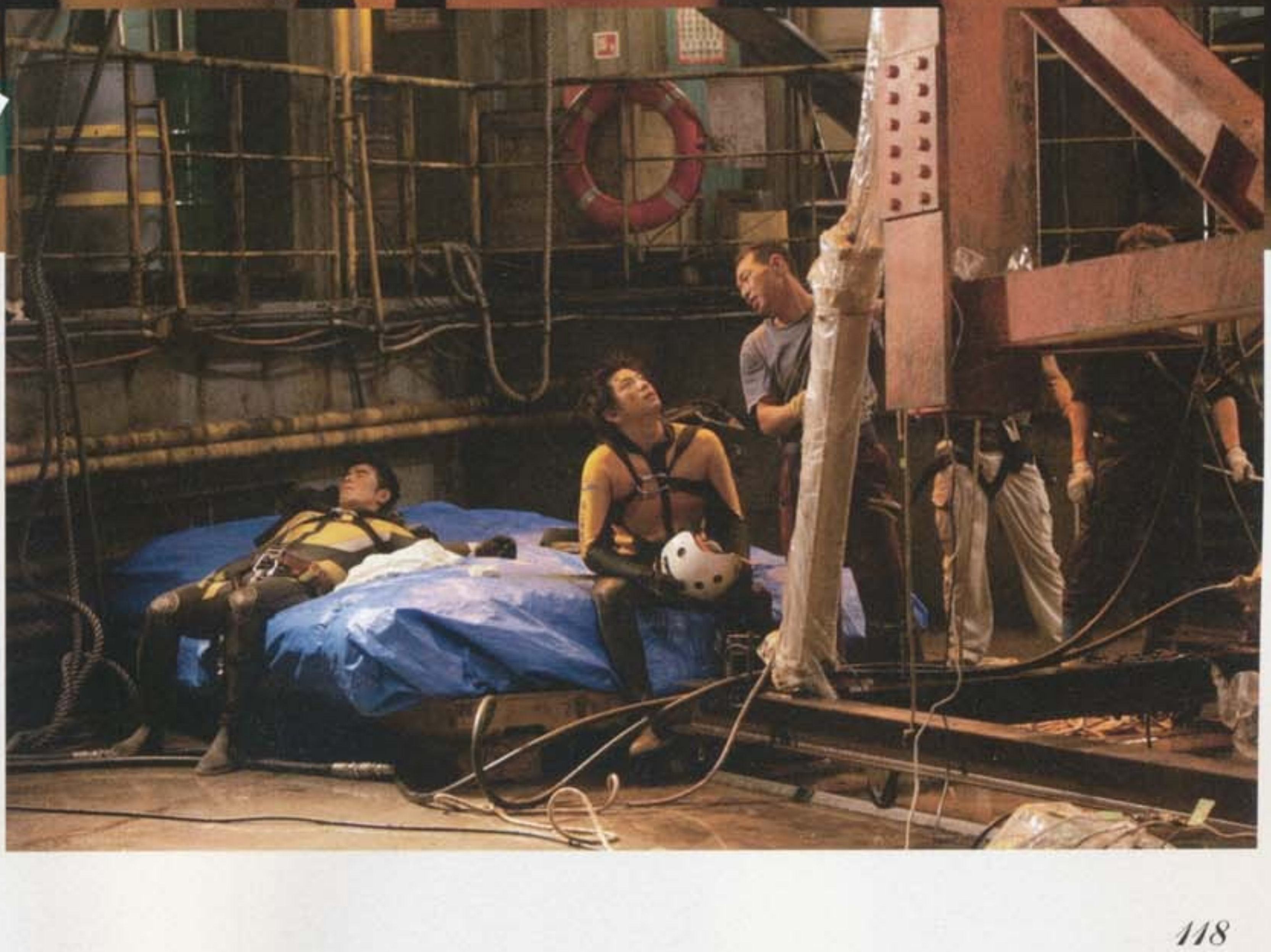


伊藤英明&三浦翔平 新たなバディを加え、海猿たちが三度スクリーンへ!



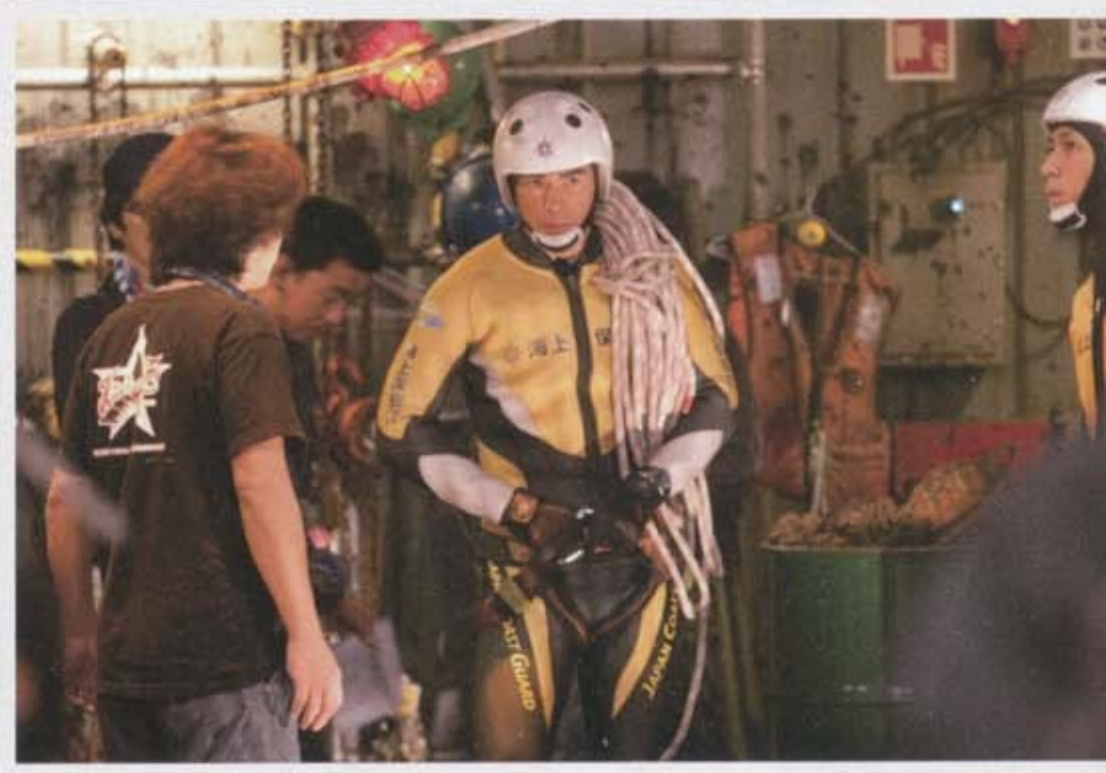
















今、そこにある危機と人命を救う男たちの刹那

思わず見上げるほどの海上基地外通路と突き上げる鉄塔。そこに再現されたのは、かつてない海難事故——。屋内、目いっぱいにそびえ立つセットはまさに圧巻のひと言だった。

それは、とある秋の日の撮影スタジオ。人気作品『海猿』映画最新作の撮影が行われている現場でのこと。舞台設定は沖縄の南。日本、韓国、ロシア合同開発海底油田プロジェクトの要となる海洋プラント「レガリア」でアクシデントが発生。未曾有の台風が近づく中、油田をくみ上げていたドリルシップがブローアウトし、衝突する。

ともすれば実際に起こり得るかもしれないリアルな危機に臨むのは、もちろんシリーズを通して主演を務める、海上保安庁第10管区機動救難士・仙崎大輔役の伊藤英明。今回彼は被害者救出の際に閉じ込められ、三浦翔平演じる若き救難士・服部望と一時的にバディを組むことに…。実際に海上でのロケとともに、事故現場再現のため、実に撮影所のスタジオ4か所で大がかりなセットを製作。海が舞台だけに、そこらじゅうに水があふれていた。

「スタート！」の声とともに放水される豪雨。油圧式ポンプが仕込まれ、まさに

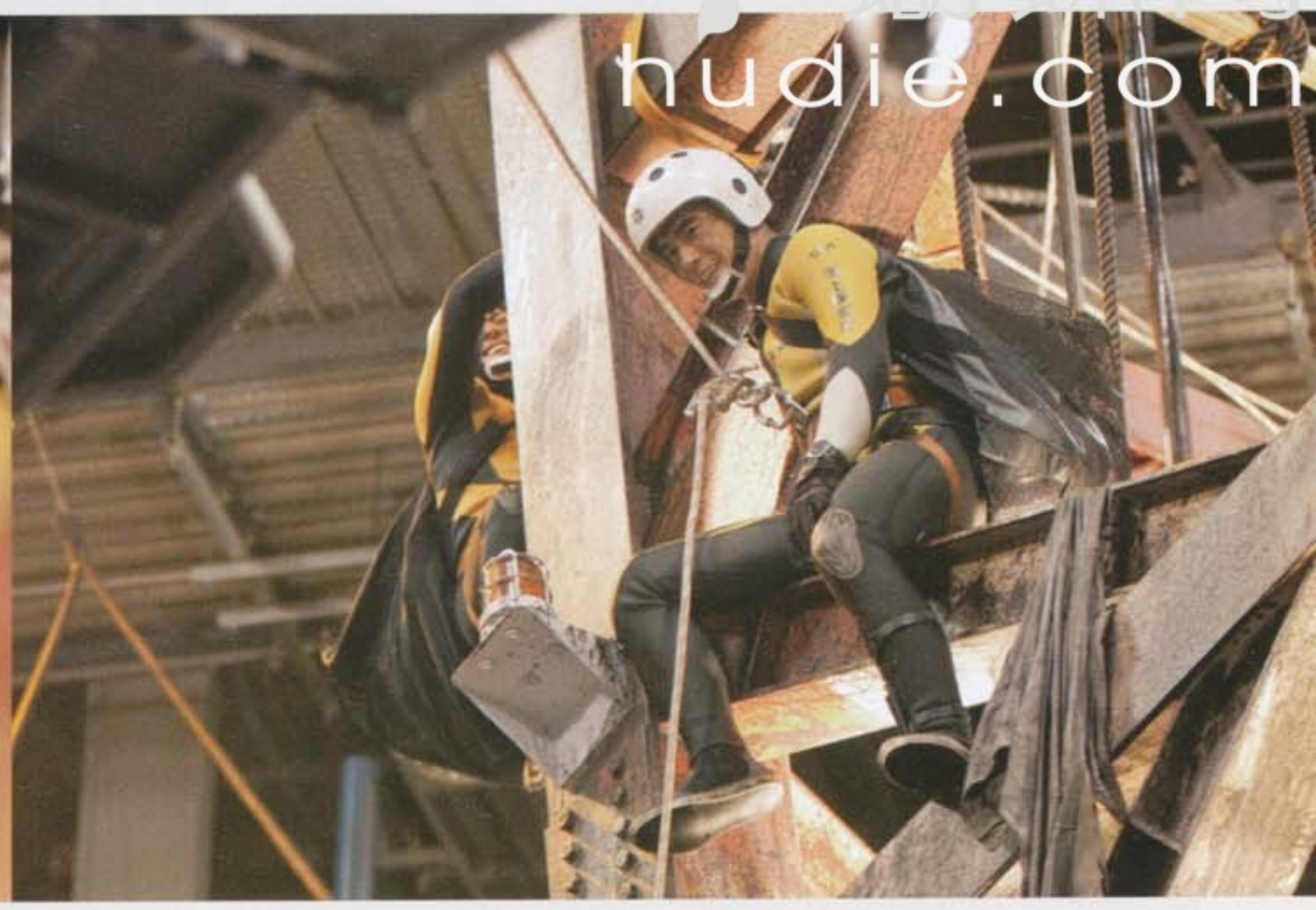
スタジオで再現されたのは、まさに海原で戦う男たちの姿













海上で木っ端のように揺れるドリルシップの鉄塔。それらの中、俳優たちは果敢に演技を続ける。

決してCGではなく実際に積み上げられた瓦礫、点滅する救急ランプ、そのすべてを映像に残すべく奔走する人人。長く太いホースを支え水を注ぎ、暴風雨を起こすためにクレーン車には巨大扇風機が積まれ、その真ん中で威風堂々と己に与えられた〝役〟に徹する演者2人。まさに「すさまじい」のひと言だ。セットの中、ウエットスーツをはじめとする重い装備を身にまとい、他者のために己の命を丸ごと投げ出す。自身にも守るべきものはあるはずなのに…。そんなぎりぎりの〝際〟が描かれていく。

と、思いきや、急に起こる笑い声。どうやら伊藤英明が複雑なセットのどこかに足をぶつけてしまったもよう。すかさず誰かが合いの手を入れ、緊迫した空間に温かい空気が流れた。「いってー！」と言いつつも笑顔を見せる伊藤と、それを心配そうに見守る三浦。オフでもコンビネーションはバッチリだ。しかし、その後には高い鉄塔から2人がロープを伝って下りてくるというシーンが待っていた…。危険が伴う撮影に果敢に挑む、演者とスタッフ陣。そんな彼らの雄姿を目の当たりにできるのは、2010年の予定だ。

伊藤英明 仙崎大輔役

大輔としてさらに成長した姿を届けたい



映画も3作目を迎え、気がついたら自分の代表作になっていました。そのことに自分で驚くと同時に、すごく誇りに思っています。新作の話を聞いたときは本当にうれしくて、クランクインの前夜は眠れませんでした(笑)。そんなことは初めてで、後になって実は緊張していたんだと気づきました。実際に撮影が始まった今は、ただ羽住英一郎監督にすべてを任せて、大輔という役を精いっぱい演じるだけです。



インしてすぐに、九州の海で救出シーンを撮ったんです。揺れる船と海上を飛ぶヘリのシーンで、ものすごくタイミングが難しかったんですが、なんと一発OK！　みんなの気持ちがひとつなんだと感じた瞬間でした。

今回は、仙崎大輔に“家族”という守る存在ができて初めての現場ということで、恐れも感じています。でも、だからこそ「絶対に生きて帰る！」と、彼はより強く誓っている。撮影はきついですけど、ものすごく手応えがあって、その分いい結果につながると思っています。やるからには前作を超えたいし、これからもこの役を演じ続けていきたい。その中で大輔としてさらに成長し、見てくださる方たちの心に残れたらうれしいですね。

HIDEAKI ITO × SHOHEI MIURA

ものすごくツラいけど、やりがいは大きいです



三浦翔平 服部 望役

もともと「海猿」シリーズのファンで、ずっとドラマも映画も見ていました。だから出演が決まったときはすごくうれしくて、同時に体をつくり始めました。実は今、『ごくせん』のころとは体がひと回り違うんですよ。筋トレに行って、日焼けサロンに行って、髪切って…と、大変身です(笑)。現場はものすごくツラいですが、やりがいもすごくあります。ワンシーン、ワンシーンを丁寧に撮って、そのつど確認して…それを繰り返していると、「ああ、早くつながった映像が見たい！」と思います。

装備は全体的に重いんですけど、中でも酸素ボンベがとにかく重くて、撮影はひたすら体力勝負ですね。現場では撮影中はみんな、まるで鬼みたいですけど(笑)、休憩中はものすごく優しくしてもらっています。伊藤（英明）さんは訓練のときに初めて会って、撮影に入ってからはご飯に連れていってもらったり、いい先輩ですし、「やるときはやる！」という感じで、お兄ちゃんみたいです。羽住監督は「楽しくやろう」と言ってくださって、訓練は本当にキツかったんですが、頑張れると思いました。シリーズ中で最高と言ってもらえる作品を目指してみんなで頑張っているので、待っていてください！



海猿3（仮題）

監羽住英一郎　脚福田靖
出伊藤英明　加藤あい　佐藤隆太
三浦翔平 ほか
●10年、全国東宝系にて公開

国家の威信を懸けた壮大なプロジェクトが今、危機にさらされている。そこに果敢に挑む男たちがいた。仙崎大輔（伊藤）ら“海猿”たち──。出動命令を受けた彼らは、巨大台風が近づく海洋プラントに向かう。







Cinema★Cinema
No.21

●編集／水上じろう
関田麻由
南雲まち子

●編集＆取材・ライター
海老原誠二　遠藤 薫
おーちようこ　大林千茱萸
久保真由美　くれい響
齋藤紅美　佐々木佳菜
柴田靖司　永野寿彦
中村美里　蒔田陽平
松本純枝　横森 文
吉田結美子

●撮影
小澤正朗　木村直軌
桑島智輝　小泉勝利
九重圭吾　小松陽祐
佐藤 薫　佐藤友昭
高山泰幸　田中和子
藤本礼奈　千川 修
宮坂浩見

●デザイン
三ツ井正澄
ハヤシダタツヤ
小森麻聡
飯田裕子（meta+maniera）
木村明咲子
Flippers
㈱エストール

●校正／針山和子

●編集長／松村広行

●副編集長／影澤祐子

2009年11月13日発行
定価 990円（本体943円）

発行人／横倉俊夫
編集人／松村広行
発行所／株式会社　学研パブリッシング
〒141-8510　東京都品川区西五反田 2-11-8
発売元／株式会社　学研マーケティング
〒141-8510　東京都品川区西五反田 2-11-8
印刷所／大日本印刷株式会社
DTP／株式会社エストール

この本に関する各種お問い合わせ先
●編集内容について…☎03-6431-1498（編集部直通）
●在庫、不良品（乱丁、落丁等）について
…☎03-6431-1205（販売部直通）
●広告について…☎03-6431-1434（広告部直通）
●その他…☎03-6431-1002（学研お客様センター）
〒141-8510 東京都品川区西五反田 2-11-8
学研お客様センター「Cinema★Cinema 21」係

ISBN 978-4-05-605714-0

学研の書籍・雑誌についての新刊情報・詳細情報は、下記をご覧ください。
学研出版サイト　http://hon.gakken.jp/

Presents

今回取材した方々の直筆サイン入り生写真をプレゼント！

A 上野樹里　2名


A1

A2

B 玉木 宏　2名


B1

B2

C 浅野忠信　2名


C1

C2

D 黒木メイサ　2名


D1

D2

E 阿部サダヲ　2名


E1

E2

F 古川雄大　2名


F1

F2

G 石黒英雄　2名


G1

G2

H 川村陽介×浅利陽介×聡太郎×久保田悠来　3名


H1

H2

H3

I 南 翔太　2名


I 1

I 2

J 崎本大海　2名


J1

J2

K 鈴井貴之×賀来賢人　2名


K1

K2

L ファン・イーチェン　2名


L1

L2

M 八嶋智人　2名


M1

M2

N 弓削智久×金子ノブアキ　2名


N1

N2

O 小林優斗　2名


O1

O2

プレゼントの応募方法

P.58 にあるアンケートはがきの表に欲しいプレゼントの記号と必要事項を、裏にアンケートの答え（任意）をご記入の上、50円切手を貼って投函してください。応募締め切りは09年12月末日必着です。当選者は抽選にて決定し、発表は発送をもってかえさせていただきます。なお、当選した生写真の転売等はご遠慮ください。

お知らせ　本誌のプレゼントご応募や、アンケートはがきで頂いたご住所やお名前などは、商品・サービスのご案内、企画開発のため、などに使用いたします。それらが不要なお客様は、ご記入いただく必要はございません。お寄せいただいた個人情報に関するお問い合わせは（株）学研パブリッシング Cinema★Cinema 編集部（☎ 03-6431-1498）までお願いいたします。当社の個人情報については、当社ホームページ http://gakken-publishing.co.jp/privacypolicy/ をご覧ください。



地デジ・BSデジタル放送の完全移行は2011年7月24日
地デジもBSデジタルもUHF番組表も
見開きでぜ〜んぶ見られるのは…
TV LIFEだけ!
本誌独占!
10月28日(水)発売号は
嵐の生特番対応「3Dメガネ」封入!
11/1(日)嵐の生実験で使おう。録画すれば何度でもOK!
番組表10/31(土)→11/13(金)
表紙はKinKi Kidsです。
11月11日(水)発売号は、近藤真彦デビュー30周年SP!
TVLIFE
北海道・青森版/首都圏版/静岡版/愛知・岐阜・三重版/関西版/福岡・佐賀・山口版
2週間テレビ情報誌
予価290円
「恋メン'09 AUTUMN」
表紙は小栗 旬&水島ヒロ
春馬、徹平、上地も登場!!
1200円
10月29日(木)発売!
好評発売中
「もう一度見たい!ドラマ100本'90年代編」
1890円
崎本大海ファースト写真集
「LOVE STORY ー海のキセキー」
2730円
ケータイ刑事マニアに!
「ケータイ刑事マニアルBOOK2」
1890円



COVER & OPENING FEATURE
ニューシングル
『急☆上☆Show!!』絶好調!
関ジャニ∞
ビッグPINUP 今月は2枚!
①嵐 関ジャニ∞
②相葉雅紀×村上信五
山下智久
堂本光一 ソロコンサート
秋ドラマスペシャル クロストーク×2
相葉雅紀×村上信五
『マイガール』
大倉忠義×安田章大
『ROMES/空港防御システム』
POTATO
12 2009
SMAP NEWS KAT-TUN Hey! Say! JUMP
SMAP 堂本光一 堂本剛 森田剛 滝沢秀明 今井翼
嵐 NEWS KAT-TUN Hey! Say! JUMP
中山優馬w/B.I.Shadow ジャニーズJr.
創刊25周年特別連載 グループクロニクル 第8回 Hey! Say! JUMP
秋ドラマピックアップ
注目のジャニーズタレントが週替わりで登場! 『0号室の客』
小栗旬 × 水嶋ヒロ 待望の競演! 『東京DOGS』
上戸 彩/福田沙紀/川島海荷/小池徹平/三浦春馬/田中 圭/佐藤 健/瀬戸康史/斉藤祥太/斉藤慶太/竹内 寿/五十嵐隼士/桜田 通/菅田将暉
POTATO 12月号
11月7日(土)発売
特別定価570円(税込)



品川ヒロシ、
監督業を
語る!!
(1Pですけど…、そのほか人気芸人続々登場)
ライセンス
NON STYLE
はんにゃ
オードリー
ロザン
しずる
フルーツポンチ
桜・稲垣早希
バナナマン
「爆笑レッドシアター」
「このへん!!トラベラー」
「キングオブコント2009」
全国書店&ネット書店で発売中!
テレビライフ首都圏版別冊
定価880円(税込)
お笑いTV LIFE Vol.6



月刊声優アニメディア
声優アニメディア
VOICE ACTOR & ACTRESS ANIMEDIA MONTHLY
12月号
11月10日発売
特別定価1,200円(税込)
表紙&巻頭
TVアニメ[WHITE ALBUM]ヒロイン対談!
平野 綾&水樹奈々
豪華特別付録①
オールカラー! 完全版声優名鑑
声優パーフェクトガイド
2009-2010 男性編 別冊1
豪華特別付録②
平野 綾&水樹奈々 特製ブックマーカー! 別冊2
HEAD LINE02 ファーストアルバム発売! 福山 潤
Release Special 平野 綾/スフィア/平川大輔/入野自由
PICK UP LIVE 日本武道館公演! 堀江由衣
好評放映中TVアニメ特集
[夏のあらし!〜春夏冬中〜]
白石涼子&名塚佳織&野中 藍&堀江由衣
[聖剣の刀鍛冶]
豊崎愛生&豊口めぐみ
[11eyes]
小野大輔
冬新番組TVアニメ速報
[デュラララ!!]
豊永利行&宮野真守&花澤香菜
※内容は一部変更になる場合があります。
Gakken



ISBN978-4-05-605714-0

C9474 ¥943E

雑誌62557-44
Ⓗ2010年5月
GAKKEN 1860571400
定価990円 本体943円